

# 吉井水上遺跡群

—新潟県柏崎市・吉井水上遺跡群発掘調査報告書—

2005

柏崎市教育委員会

# 吉井水上遺跡群

—新潟県柏崎市・吉井水上遺跡群発掘調査報告書—

2005

柏崎市教育委員会



## 序

柏崎市の東部に位置する中通地区には、今でも豊かな田園地帯が広がり、市内で稻作の盛んな地域のひとつとなっています。また、ここは国の史跡に指定された下谷地遺跡をはじめ、弥生時代から近世にかけての遺跡が多く密集する地区としても知られており、はるか昔から人びとの営みが活発であった場所のひとつでもあります。

吉井水上遺跡群の発掘調査は、主要地方道鯨波宮川線（県道73号線）整備事業に伴い、平成15年に吉井水上I遺跡と吉井水上II遺跡と対象として実施しました。その結果、平安時代から室町時代を主体とする集落の跡が発見され、大小さまざまな柱穴による建物群が姿をあらわしました。そのかたわらには沢が流れていたこともわかり、豊かな水に恵まれた環境のなかで力強く生きた人びとが、間違いなくそこにいたことを示してくれました。また、それ以前の古墳時代の遺物も少量ながら出土し、現代にまで至る歴史の一端を垣間見ることができます。

これらの成果を報告する本書は、ささやかなものではありますが、発掘調査された吉井の歴史を報告するものであり、その意味は大きいものと思います。本書が研究者ののみならず、広く市民の皆さんに活用され、地域での歴史理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、このたびの発掘調査が無事に終了し、調査報告書として刊行するまでに至ることができたことは、事業主体であります新潟県土木部並びに新潟県柏崎地域振興局地域整備部をはじめ、多くの関係者から得られたご理解とご協力の賜物であります。また、業務に直接あたられました株式会社イビソク新潟営業所の調査員各位、そして現場作業にあたられた柏崎市シルバー人材センターの会員各位からも、甚大なるご尽力をいただきました。ここに深甚なる謝意を表する次第であります。

平成17年3月

柏崎市教育委員会

教育長 小林和徳

## 例　　言

1. 本報告書は、新潟県柏崎市大字吉井地内に所在する吉井水上遺跡群において実施した発掘調査の記録である。
2. 発掘調査の業務は、主要地方道 鯨波宮川線拡幅工事に伴う緊急発掘調査であり、柏崎市が新潟県から委託を受け、柏崎市教育委員会が事業主体となり発掘調査を実施したものである。発掘調査は柏崎市の委託を受け、株式会社イビソクが担当した。
3. 本遺跡群の調査は、吉井水上Ⅰ遺跡と吉井水上Ⅱ遺跡にまたがった調査であるため、本書では両遺跡を「吉井水上遺跡群」と総称して報告した。
4. 発掘調査は、平成15年7月24日から平成15年11月1日の間に実施した。現地作業は工事関係業者の協力を得るとともに、社団法人柏崎市シルバー人材センターから会員の派遣を受け実施した。整理作業及び報告書作成作業は、調査担当の株式会社イビソクにより、出土遺物の洗浄・注記・接合・復元・実測及び図面のトレイス等を実施した。
5. 発掘調査によって出土した遺物は、注記に際し遺跡名を「吉水」と略し、グリッド名や遺構名等を併記した。遺物の観察は兼康保明（株式会社イビソク）を中心として行った。
6. 発掘調査によって出土した遺物及び調査・整理の過程で作成した図面・記録類は、すべて柏崎市教育委員会（文化振興課柏崎市遺跡考古館）が保管・管理している。
7. 本調査の座標は世界測地系第8系に準拠し、標高の基準は東京湾平均海面による。
8. 本報告書の執筆は、第Ⅰ章を中野純（柏崎市教育委員会）、第Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・V章を吉村晶、第Ⅳ章（遺物一部）を瀬戸かな子（株式会社イビソク）が担当し、編集は吉村が行った。
9. 発掘調査から本書作成までは、事業主体である新潟県柏崎地域振興局地域整備部道路課（旧新潟県柏崎土木事務所道路課～平成16年3月31）、及び地元である吉井地区の方々からは数多くのご協力とご理解を賜った。またこの他にも大なご助力とご協力並びにご教示等を賜った。記して厚く御礼を申し上げる次第である。（五十音順・敬称略）

伊藤啓雄、品田高志、滝沢規朗、平吹靖、三井田忠明

柏崎市立博物館、株式会社金井建設、社団法人柏崎市シルバー人材センター

## 調　　査　　体　　制

- 調査主体 柏崎市教育委員会 教育長 相澤陽一（平成15年10月30日）・小林和徳（平成15年10月31日～）
- 総括 小林清蔵（文化振興課長）
- 管理・庶務 品田尚道（文化振興課埋蔵文化財係長～平成16年3月31日）・田村光一（平成16年4月1日～）
- 監督員 中野純（文化振興課埋蔵文化財係主査・学芸員）  
平吹靖（文化振興課埋蔵文化財係主査・学芸員）
- 調査担当 兼康保明（株式会社イビソク）
- 調査員 瀬戸かな子、吉村晶（株式会社イビソク）
- 調査補助員 囲田有司（株式会社イビソク）
- 現場作業員 大岡信一、小栗義教、吉川富夫、佐藤一夫、佐原勇次郎、品田和紘、牧野勲、牧野尚輝、箕輪浩一、横田猛（社団法人柏崎市シルバー人材センター会員）
- 整理作業員 池田心、今西淳一、植田彩香、片山幸恵、河合聖子、高橋智子、田中幸子、松原光代、三輪美智子（株式会社イビソク）

# 目 次

I 調査に至る経緯 .....	1
II 位置と環境 .....	2
1 地理的環境 .....	2
2 歴史的環境 .....	2
III 調査の方法と経過 .....	5
1 調査の方法 .....	5
2 調査の経過 .....	5
IV 調査の成果 .....	8
1 層序 .....	8
2 遺構 .....	9
1) 遺構の概略と分布	
2) 遺構各説	
3) 遺物 .....	20
1) 遺物概観	
2) 土器・陶磁器類	
3) 土製品・石製品・錢貨	
4) 木製品	
V まとめ .....	29
引用参考文献 .....	32

## 挿 図 目 次

第1図 吉井遺跡群周辺地形図	4
第2図 調査区とグリッド設定図	7
第3図 土層柱状図	8

## 挿 表 目 次

第1表 吉井遺跡群一覧表	3
第2表 遺構計測表	14
第3表 遺物観察表	26
第4表 柱根分類表	31

# 図版目次

## 図面図版

- 図版1 遺構平面図割付図  
図版2 遺構平面図1  
　　遺構平面図2  
図版3 遺構平面図3  
　　遺構平面図4  
図版4 遺構平面図5  
　　遺構平面図6  
図版5 遺構平面図7  
　　遺構平面図8  
図版6 遺構平面図9  
　　遺構平面図10  
図版7 遺構詳細図1  
図版8 遺構詳細図2  
図版9 遺構詳細図3  
図版10 遺構詳細図4  
図版11 遺構詳細図5  
図版12 遺物実測図1  
図版13 遺物実測図2  
図版14 遺物実測図3  
図版15 遺物実測図4  
図版16 遺物実測図5  
図版17 遺物実測図6  
図版18 遺物実測図7  
図版19 遺物実測図8  
図版20 遺物実測図9  
図版21 遺物実測図10  
図版22 遺物実測図11  
図版23 遺物実測図12

## 写真図版

- 図版24 吉井遺跡群周辺航空写真（1947年撮影）  
図版25 調査区全景（1区～2区）  
　　調査区全景（3区～6区）

- 図版26 吉井水上遺跡群遠景（西から）  
吉井水上遺跡群遠景（東から）  
図版27 1区完掘状況（北から）  
　　2～1区完掘状況（北から）  
図版28 SD-63・64（北西から）  
　　2～2区遺構群（北西から）  
図版29 2～2区完掘状況（南から）  
　　3区完掘状況（北から）  
図版30 SD-279土層断面（西から）  
　　4区完掘状況（南から）  
図版31 SD-306（南から）  
　　SD-306土層断面（西から）  
図版32 5区完掘状況（北から）  
　　6区完掘状況（北から）  
図版33 SE-6（北から）  
　　SE-72（西から）  
　　SE-130（東から）  
図版34 SK-35・95・92（西から）  
　　SK-175他（東から）  
　　SK-181・202（東から）  
図版35 SK-221（東から）  
　　SK-242（南から）  
　　SK-342～344土層断面（西から）  
図版36 SD-306遺物出土状況（南から）  
　　SD-306遺物出土状況（西から）  
　　SD-433（北から）  
図版37 SKp-429～431（南から）  
　　5区遺構群（北東から）  
　　5区遺構群（東から）  
図版38 SKp-398・399柱根出土状況（南から）  
　　SKp-402柱根出土状況（西から）  
　　SD-434土層断面（西から）  
図版39 弥生土器・土師器  
図版40 土師器（楕・皿類）  
　　弥生土器・土師器（壺・壺類）

図版41	須恵器（杯蓋・杯身）	図版47	木製品 1
	須恵器（甕・壺類）		木製品 2
図版42	須恵器（甕・壺類）外面	図版48	柱根 1
	須恵器（甕・壺類）内面		柱根 2
図版43	珠洲（甕）外面	図版49	柱根 3
	珠洲（甕）内面		柱根 4
図版44	珠洲・陶器（甕・擂鉢）	図版50	柱根 5
	珠洲・陶器（擂鉢）		柱根 6
図版45	陶磁器（椀・皿類）	図版51	柱根 7
	須恵器（杯身）		柱根 8
	青磁（花瓶）	図版52	柱根 9
図版46	土製品・錢貨		柱根・杭
	石製品（石臼）	図版53	柱根整形痕
	石製品（砥石）		

# I 調査に至る経緯

吉井水上遺跡群は、新潟県柏崎市大字吉井地内を中心とする、柏崎平野東部の中通地区に所在する。今回の発掘調査では、吉井水上I遺跡と吉井水上II遺跡が対象となったため、これらを便宜的に吉井水上遺跡群と総称して実施した。中通地区は柏崎平野の東部に位置し、市街地からは東へ約8kmの距離にあり、厚い粘土層に覆われた湿地性の水田地帯が広がっている。昭和40年代後半における北陸自動車道の法線決定を契機として、当該地区の多くの遺跡が新潟県教育委員会（以下「県教委」という。）によって把握され、周知化がなされた。現在では20ヵ所近い遺跡が知られており、これら全体を総称して吉井遺跡群と呼ばれている。遺跡群の主体は、弥生時代や古墳時代、古代及び中世であるが、国指定史跡の下谷地遺跡（弥生中期）や、市内では唯一の前方後円墳である吉井行塚古墳群（古墳前期～中期）等、特に弥生時代から古墳時代にかけては、著名な遺跡がみられる。また、この時代の遺跡が、市内では最も密集する地域としても知られている。

当該地区では、昭和50年代に県営土地改良総合整備事業が計画された。これに伴って、昭和56（1981）年～昭和59（1984）年に吉井遺跡群の第Ⅰ期発掘調査が実施されている。さらに、昭和60（1985）年～平成元（1989）年には、吉井遺跡群第Ⅱ期が実施された〔柏崎市教委1985・1990〕。その結果、弥生時代中期から古墳時代後期にかけて、各遺跡相互が補完的な関係を保ちながら、断続的に遺跡群が営まれていた様相が把握された。また、古代及び中世においても同様の傾向が認められ、8世紀中葉から16世紀にかけての動態の一端が把握されるに至っている。

平成11（1999）年には、今回の発掘調査の原因となった主要地方道鰐波宮川線（県道73号線）拡幅工事が計画された。現在の県道を幅員約12mに拡幅するもので、平成11年3月19日付け教文第84号により、柏崎市教育委員会（以下「市教委」という。）は、事業主体者である当時の新潟県柏崎土木事務所（現在の「新潟県柏崎地域振興局地域整備部」）へ、当該地に所在する埋蔵文化財の取扱いについて協議を行う必要がある旨通知した。

その後、平成14年5月27日付け柏土第83号で吉井水上I遺跡に対する文化財保護法第57条の3第1項の規定による埋蔵文化財発掘の通知が、同日付け柏土第84号で吉井水上II遺跡に対する同様の通知が、事業主体者から提出された。しかし、この段階では当該事業区域内における実際の遺跡範囲が不明瞭であったため、平成14（2002）年11月12日～13日に確認調査を実施し、当該道路法線の延長約200mにわたって遺跡範囲が及んでいる事が把握された。そして、事業の工法や遺跡包含深度等を比較・検討し、そのうち延長約200m、幅約7m、面積で約1,400m<sup>2</sup>の範囲において、開発行為の事前に本発掘調査を実施することが必要と判断された。平成15年1月27日付け教文第539号の3で吉井水上I遺跡について、平成15年1月30日付け教文第540号の3で吉井水上II遺跡について、それぞれの指定した範囲を工事に着手する前に発掘調査を実施するよう、県教委から事業主体者へ通知がなされた。

発掘調査は工事工程との兼ね合いから、平成15年度に実施することとなった。しかし、他の事業に伴う発掘調査への対応のため、市教委の体制だけでは現実的に実施不可能な状況であった。そのため、発掘調査業務については、民間の調査組織へ委託する方針となった。そして、柏崎市は平成15年7月15日に、吉井水上遺跡群発掘調査業務委託契約を株式会社イビソク新潟営業所と締結して発掘調査に着手した。

## II 位置と環境

### 1 地理的環境

吉井水上遺跡群は吉井水上I・II遺跡を総称してのもので、新潟県柏崎市大字吉井地内を中心とする、柏崎平野東部の中通地区に所在する。中通地区は、柏崎市街地から東へ約8kmの距離にある。柏崎市は県庁所在地である新潟市の南西70kmの海沿いに位置する。

本遺跡群が所在する柏崎（刈羽）平野は、新潟平野と高田平野とに挟まれ、鶴川と鯖石川及びその支流河川により形成された小規模な臨海沖積平野である。平野部は、刈羽三山と称される米山・黒姫山・八石山を頂点とする山地や東頭城丘陵によって囲まれ、北西部は日本海に面している。沿岸には荒浜砂丘がありその後背地は湿地性の低地となっており、これらを取り巻く丘陵縁辺には、中・高位段丘が分布する。

吉井水上I・II遺跡を総称した本遺跡群は、柏崎平野東部の遺跡の最も集中する地域の一つである吉井遺跡群に属する。吉井遺跡群の範囲は、厳密には明確な線引きをするまでには至っていないが、現吉井地区集落周辺の遺跡であるという地理と分布の様相から、20ヵ所余りの遺跡で構成されるものと認識されている。地形をみると、沖積低地に東接して刈羽・三島丘陵が横たわり、その山麓には中位段丘が形成されている。この丘陵は西流する無数の小河川によってきざまれ、小谷が樹枝状に入り込んでいる。遺跡は主に中位段丘上と、地形変換線に近い沖積低地に分布している。

### 2 歴史的環境

柏崎平野を中心とした地域の遺跡分布は、鶴川、鯖石川、別山川などの流域沿いや海浜部にその大半が立地している。その中の吉井遺跡群は、時期的には縄文時代から近世まで継続的に続き、また内容的にも各時代の集落跡から城館跡や塚群及び墳墓跡を含み非常に多岐にわたっている。遺跡群の主体は、弥生時代及び古代、中世であるが、その中には弥生時代の遺跡で国指定史跡の下谷地遺跡や、市内では唯一の前方後円墳と円墳の2基を含む古墳時代前期の吉井行塚古墳群等、特に弥生時代から古墳時代にかけては著名な遺跡がみられる。このような様々な時期や内容を持つ各遺跡を、一つの遺跡群として把握することは困難である。しかし、約1.5km四方にこれだけの遺跡が集中的に確認された地区は、柏崎平野では他に例がなく、一地域において縄文中期以降ほぼ連続的に集落が営まれていたことは、その地域においての集落変遷の一端を追えるという重要な意義を持っている。

吉井水上遺跡群（吉井水上I・II遺跡）においても、古墳時代～中世に属する遺物が出土しており、長期にわたって集落が営まれていた様子が窺える。以下、吉井遺跡群に属する各遺跡を概観する。

**縄文時代** 吉井遺跡群では、縄文時代前期以前及び晚期の遺跡が明確ではなく、中～後期についても連続して遺跡が形成されていたわけではない。中～後期の遺跡は、尾根状化した中位段丘である西ヶ峰に所在し、後期初頭の三十稻場式土器が出土する西ヶ峰縄文遺跡群(4)がある。沖積地に立地する権田町遺跡(3)や野附遺跡(8)からも三十稻場式土器が少量出土しており、出土層の年代及び活動範囲を示唆している。

**弥生時代** 弥生時代中期前半までは今のところ確認されておらず、中期後半に属する遺跡として、沖積低地に立地する下谷地遺跡(9)が、規模及び出土した遺物量から県下有数の集落遺跡として知られる。北陸地方の影響を強く受け、客体的に信州栗林式系の土器が含まれている。下谷地遺跡と相前後して野附遺跡・萱場遺跡(7)が確認されるようになる。後半期には、洪積地に存在する戸口遺跡(5)・萱場遺跡から当該期の遺物が出土している。

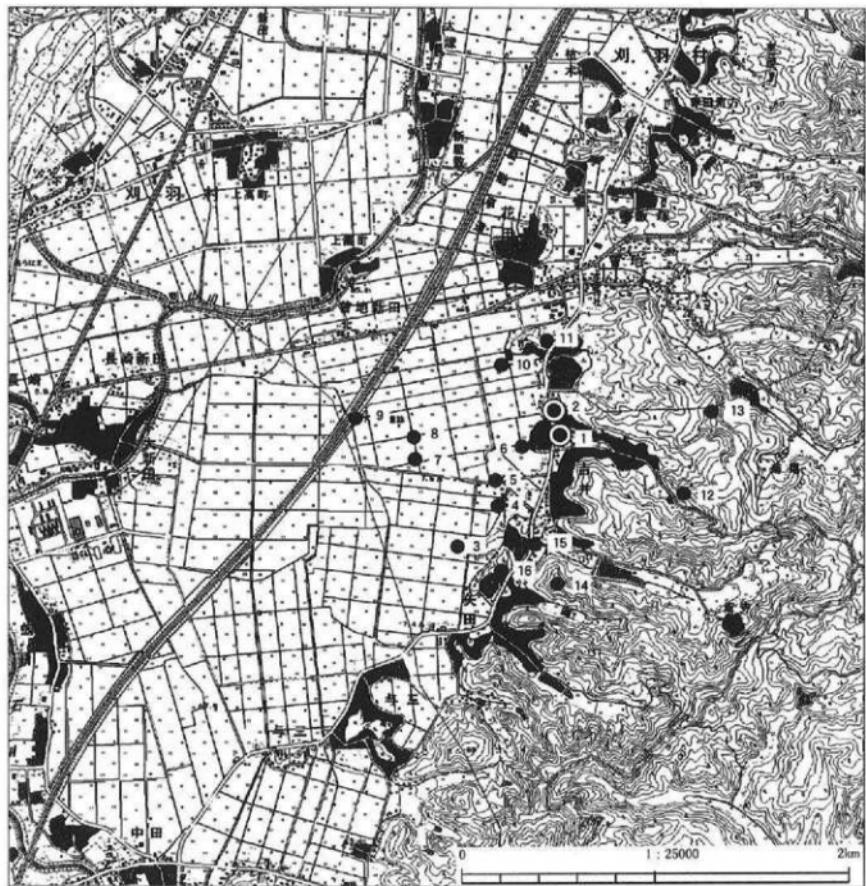
**古墳時代** 吉井遺跡群において最も遺跡数が多いのが古墳時代である。前期には玉作遺跡である行塚遺跡(10)がある。中期後半には確認された遺跡数が増加し、礼坊遺跡(6)・戸口遺跡・吉井水上II遺跡(2)・野附遺跡・萱場遺跡が掲げられる。これらの遺跡の立地と分布を見ると、ほとんどが下谷地遺跡から吉井水上II遺跡に至るライン上にある。前方後円墳と円墳の2基が確認された吉井行塚古墳群(11)は、形態から4世紀代の可能性が強いと考えられている。後期については、吉井水上II遺跡と戸口遺跡があるが、中期後半より遺跡数が激減している。

**古代** 奈良・平安時代の遺跡は、柏崎平野全体でもほとんど確認されておらず、戸口遺跡・萱場遺跡がまとまったものとしては初めての確認例である。8世紀後半に成立し10世紀まで存続したとされる戸口遺跡、9世紀後半～10世紀を主体とする吉井水上II遺跡が確認されている。権田町遺跡・吉井水上II遺跡(1)・草薙遺跡(15)は平安時代から中世にかけての遺物が出土するが、明確な遺構は確認されておらず、存在したとしても遺跡規模は小さいと想定され、遺物包蔵地としての位置付けから出るものではない。

**中世** 中世の遺跡は、吉井水上II遺跡が調査事例として掲げられる。検出された遺構には、井戸・土塁墓があり、建物跡やそれを巡る溝の存在も確認されている。集落以外の遺跡としては、城館と塚群がある。城館は、吉井地内に菊尾城跡(13)と吉井砦(14)が存在する。菊尾城跡には特に遺構が存在せず疑問視する見方もある。塚群については、吉井百塚(16)で13基の塚が確認されているが、築造期等の詳細については明確でない。また、吉井と曾地及び矢田大字界である尾根上に数群が確認されているが、これらは境界守護的な観念を持った塚群である可能性が強いと考えられる。吉井堀之内遺跡(12)は墳墓跡である。

番号	遺跡名	種別	時期	番号	遺跡名	種別	時期
1	吉井水上I遺跡	包蔵地	平安～中世	9	下谷地遺跡	集落跡	弥生中期
2	吉井水上II遺跡	集落跡	古墳～中世	10	行塚遺跡	集落跡	古墳前期・平安
3	権田町遺跡	包蔵地	平安～中世	11	吉井行塚古墳群	古墳群	古墳前期～中期
4	西ヶ峰繩文遺跡群	包蔵地	繩文中・後期	12	吉井堀之内遺跡	墳墓跡	中世
5	戸口遺跡	集落跡	弥生後期～古代	13	菊尾城跡	城館跡	中世
6	礼坊遺跡	集落跡	古墳中期～中世	14	吉井砦	城館跡	中世
7	萱場遺跡	集落跡	弥生中期～古代	15	草薙遺跡	包蔵地	平安
8	野附遺跡	集落跡	弥生中期～古代	16	吉井百塚	塚群	中世～近世

第1表 吉井遺跡群一覧表



第1図 吉井遺跡群周辺地形図

### III 調査の方法と経過

#### 1 調査の方法

吉井水上遺跡群における本発掘調査は、平成15年7月24日からを行い、同年11月1日における空中写真撮影までの約4ヶ月間に渡って実施した。発掘調査の面積は、1～6区の合計で約1,384m<sup>2</sup>であった。

発掘調査の進め方については、調査区が延長約220mに及ぶため、北から南に向かって調査区を1～6区に分割した。調査区北端の1区から南端の6区への順序で進めることとし、調査が終了した調査区から工事施工責任者に引渡して道路拡幅工事と発掘調査を並行して行った。

道路面及び宅地のコンクリートの除去、その下の現代の整地層から遺物包含層までをバックホウで掘削した。調査区壁面の崩落やそれに伴う調査区外道路面の陥没を防止するため調査区壁面には法をつけ、危険防止策として周囲に安全バリケードを設置した。遺構検出、遺構掘削は原則として人力で行った。調査区は荒天による雨水や湧水が激しいため、作業は調査区の周囲に排水と土層観察を兼ねた溝を設定しながら行うこととした。

グリッドは任意に主軸と副軸を設定し、10m間隔で設置をした。東西方向については西から東へアルファベットの大文字を使用し、南北方向については北から南へ算用数字を使用しグリッド名を割り付けた。ただし、今回の調査範囲では東西グリッドはA・Bを用い、A-1、A-2、A-3…と続いている。

遺構番号は、遺構の種別に関らず全て通し番号である。

遺物はグリッド毎、遺構毎に取り上げを行い、必要と考えたものは出土位置の座標を記録した。

#### 2 調査の経過

調査準備 7月24日を現地作業の初日として、GPS観測、水準測量を行い調査準備に着手した。仮設事務所設置、資機材の搬入等の調査準備は継続的に行い、8月1日までに完了した。

1区 7月29日よりバックホウで1区の表土及び包含層掘削に着手し、7月31日から作業員を加え、包含層掘削が終了した所から遺構確認作業を行った。8月1日、遺構は土坑1基(SK-1)が検出されたのみであったこともあり、延べ4日で1区を完掘した。

2区 7月31日、2区の表土及び包含層掘削に着手した。2区は全区で最も面積があることから、現場にて任意で2-I区、2-II区と分けた。8月1日より、1区の遺構確認作業が終了した時点で2-I区の遺構確認作業に着手した。2-I区からは、自然流路跡と思われる遺構2条(SD-2、SD-3)等が確認されたが、概して遺構の密度は低かった。8月7日、1区と2-I区の完掘の全体写真及び空中写真撮影を行った。8月8日は、1区と2-II区の土層断面の実測作業、座標の記録を中心に行い、これより盆休みとして現地作業を一時中断した。

8月19日、現地作業を再開した。2-II区の表土及び包含層掘削に着手し、21日から遺構確認作業を開始した。ここでは直径1m前後の大形土坑・井戸などが集中して確認された。遺構の密度が高く、また

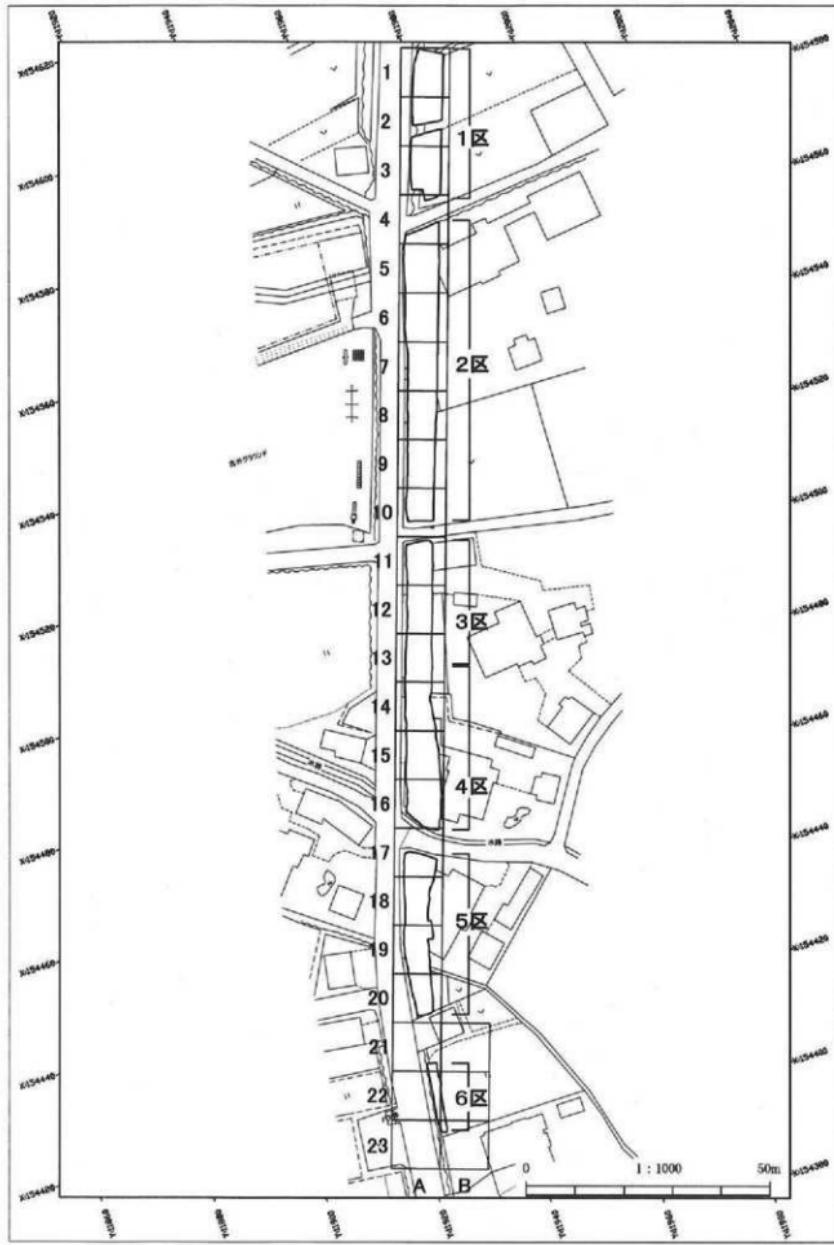
断続的に雨天が続いたことや作業の重複も多く、9月19日までの約1カ月間2-II区の作業を行うこととなった。その間、土層断面の実測作業、座標の記録等は適時行った。途中9月13日、今後の工程計画を考慮し2-II区の完掘状況の全体写真撮影及び空中写真撮影を行った。

3区 8月27日・28日及び9月12日に、3区表土剥ぎ及び包含層掘削を行った。9月16日より2-II区の作業と並行して造構確認作業を29日まで行った。9月22日には、幅約6m、深さ約1mを測るSD-279が確認された。9月30日、3区の完掘状況の全体写真撮影及び空中写真撮影を行った。土層断面の実測作業等は10月1日まで適時行った。

4区 9月26日より、3区の作業と並行して4区の表土及び包含層掘削に着手した。29日には、4区の南端で推定幅約20m、深さ約1mの本調査で最大の造構であるSD-306が検出された。9月30日より10月14日まで、4区の造構確認作業を行った。

5区 10月6日、5区の表土及び包含層掘削に着手した。翌日7日より、4区の作業と並行して5区の造構確認作業に着手した。14日には、5区の北端から4区のSD-306の左岸に当たると思われる溝が検出された。10月18日、4区と5区の空中写真撮影を行った。土層断面の実測作業等は、10月21日まで適時行った。

6区 10月14日は、6区の表土及び包含層掘削を行い、15・16日に人力による包含層掘削を行った。17日から21日の間は4区、5区の作業があり、6区の調査を中断していたが、22日より造構確認作業と土層断面の実測作業等を行い、6区からは溝状造構のSD-434を確認した。11月1日、6区の完掘状況の全体写真撮影及び空中写真撮影を行い、発掘調査を終了した。



第2図 調査区とグリッド設定図

## IV 調査の成果

### 1 層序

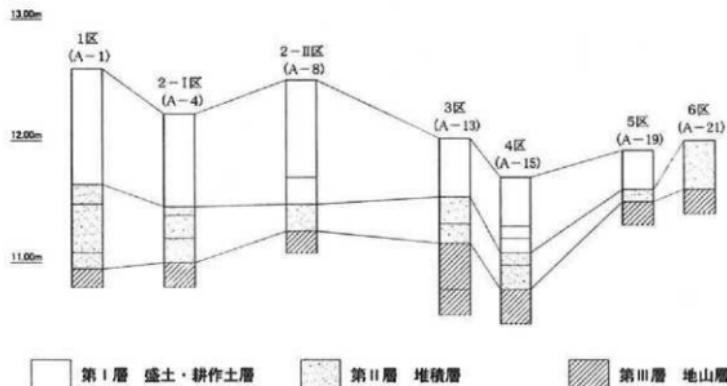
本遺跡群における層序は、調査区が延長220m余りに及ぶため、地区によって同一層と考えられる層の土質や厚さに差異が見られる。したがって、全地区を同じ基準で統一することは難しいが、各地区的状況を概括的に述べることにする。

第Ⅰ層は、現代の盛土や耕作土などの整地層である。地区により性質の全く異なる土で形成されているので、大まかな状況に留める。基本的には褐色土で、砂層・粘土層が混在している。全地区を通して見るところ、地山面が高いほど層が薄く、地形が平坦になるように造成した意図が認められる。

第Ⅱ層は堆積層である、遺物包含層に当たる。層を細分すると、1区～4区は暗灰色～黒褐色粘質土層が2～3層で構成されている。そのうち遺物は主に下層から出土している。調査範囲の南端に当たる5区と6区では、灰色粘質土層の1層で構成されている。

第Ⅲ層は、地山層で、青灰色砂質土層及び黄灰色粘質土層である。黄灰色粘質土層は、標高が比較的高くなる3区～6区で確認されている。ある時期に地下水位が下がったことなどにより、青灰色砂質土中の鉄分が地表付近で酸化したものと考えられ、性格的には同一の土層と捉える。

遺構の検出は、第Ⅲ層の上面で行った。1区において第Ⅲ層上面から深さ約150cmまで掘削し下層確認をしたところ、常時潜水する青灰色粘質・砂質土の互層であった。



第3図 土層柱状図

## 2 遺構

### 1) 遺構の概略と分布

遺構は現地表面より50cmから150cmほどの深さで検出された。

遺構は土坑（SK）が48基、柱穴及びピット（SKp）が366基、井戸（SE）が3基、溝（SD）が13条確認された。そのうち土坑で3基、ピットで4基、風倒木痕の可能性が高いものがあった。

これらの遺構は、出土した遺物から大半は古代から中世の時期に属すると考えられるが、近世かそれ以降に属する遺構が含まれる可能性も否定できない。遺構の埋土の大半は、黒褐色粘質土に地山と考える青灰色粘質土がブロック状に混入した土である。50cm以上の深さのある遺構の上層部も、これが埋土となっている場合が多く、ほぼ同時期に堆積または埋立てされた可能性が考えられる。

遺構の密度は、2区のA-8グリッドから3区のA-13グリッドを中心とし、本調査区の両端である1区と6区は非常に低い。地形的に見ると、A-8～13グリッドの遺構密度の高いところは微高地で概ね平坦である。2区のA-9グリッド及び3区のA-12グリッドでは、直径が1m近い土坑または井戸が集中して検出された。2区からは多数のピットが検出され、幾度も掘立柱建物の建替えが行われた様子が窺える。A-16～17グリッドに位置するSD-306の両岸から約10m周辺では、遺構がほとんど検出されなかった。これは、この大溝が古くから近年まである程度の規模を持って存続してきた可能性を示唆するものである。5区は柱根が残る遺存状態のよい柱穴が多数検出された。一定距離をおいて同一線上に位置する遺構からは、掘立柱建物が存在したことが推察される。

### 2) 遺構各説

#### a 土坑

土坑は、規模が長径50cm以上で深さ50cmを超える明らかに人為的に掘られているものと、規模、深さともに小さく落込み程度のものとに大別できる。平面形を見ると、円形のものと方形のものがあり、方形のものは概して規模が大きい。大形土坑は、全て遺構密度の高いA-7～14グリッドで検出されている。土坑としたものの中には、規模、深さから素掘りの井戸である可能性があるが、断定し難いため埋土や出土遺物から判断し、土坑に分類した。

以下、検出したグリッドの順に説明する。

SK-171 A-7グリッドで検出した。平面形は方形を呈し、規模68×62cm、深さ104cmを測る。埋土は上層が地山の青灰色土ブロックが多く混じる層、下層は黒色粘質土である。遺物は土師器の高杯（6）ほか破片合わせて2点、珠洲の甕（90）1点が出土している。

SK-19 A-8グリッドで検出した。平面形は不整形な方形を呈し、規模124×100cm、深さ91cmを測る。埋土は黒色土の下層に腐植物を含む青黒色砂質土が堆積している。下層の埋土は壁面が崩落し堆積したものと考えられ、井戸として掘られた可能性を示す。遺物は土師器の破片6点、磁器碗の破片1点が出土している。

SK-71 A-9グリッドで検出した。調査区壁面に位置していたため、全体を検出できず平面形は不明である。深さ46cmを測る。埋土のオリーブ黒色土層には、わずかに焼土・炭化物が混じる。遺物は土師器の破片7点が出土している。

SK-35 A-9グリッドで検出した。平面形は楕円形を呈し、規模110×85cm、深さ70cmを測る。埋

土は下層が黒色腐植土で、上層はそれにオリーブ色砂質土やSK-95の埋土などが入り込む。SK-95と重複しており、SK-95より古い。遺物は土師器の破片13点のほか、底から柱根（157）1点がほぼ直立して出土している。巨大な柱穴である可能性も否定できないが、出土した柱根は設置されていた柱であったとは断定できない。湧水点まで掘っているため、素掘りの井戸であった可能性もある。

SK-92、94、95 A-9グリッドで検出した。平面形はSK-92、SK-94が楕円形でSK-95が方形を呈し、SK-35を含めてかなりの部分が重複している。規模は全て1m程度、深さ75~98cmを測る。埋土は全てオリーブ黒色土である。重複関係からみてSK-94が最も古く、SK-95が最も新しい。遺物はSK-92から珠洲の甕（88・101）ほか破片合わせて3点と木製品（145）、SK-94から土師器の破片4点、SK-95から土師器の破片5点と須恵器の甕（65）1点が出土している。出土遺物の年代と層位による新旧関係は一致せず、層位を優先させると遺物は二次的な混入である。

SK-288 A-11グリッドで検出した。平面は不整形の円形を呈し、規模は90×70cm、深さ94cmを測る。埋土はオリーブ黒色土である。遺物は土師器の破片2点が出土している。

SK-175 A-12グリッドで検出した。平面形は楕円形を呈し、規模138×112cm、深さ105cmを測る。埋土は黒褐色土で地山の青灰色土ブロックが混入する。遺物は土師器の破片7点、須恵器の破片1点、砥石（139）1点が出土している。

SK-202 A-12グリッドで検出した。調査区壁面に位置していたため全体を検出できず、平面形は推定で楕円形を呈し、深さ130cmを測る。埋土はオリーブ黒色土である。遺物は土師器の甕（40）ほか破片合わせて3点、他に貝の化石が1点出土している。

SK-289 A-12グリッドで検出した。平面形は楕円形を呈し、規模83×70cm、深さ40cmを測る。埋土は上層から黒褐色土、黒色土である。遺物は土師器の破片が5点出土している。

SK-181 A-12グリッドで検出した。平面形は円形を呈し、規模120×100cm、深さ91cmを測る。埋土は黒色粘質土で腐植物を含む。遺物は土師器の破片2点、珠洲の甕（98）1点、木片が出土している。

SK-223 A-13グリッドで検出した。平面形は楕円形を呈し、規模(100)×80cm、深さ57cmを測る。埋土は黒色粘質土で腐植物を含む。遺物は土師器の破片3点、木製品（142・143）が出土している。

SK-235 A-13グリッドで検出した。平面形は不定形を呈し、規模(75)×75cm、深さ45cmを測る。埋土は黒色土である。遺物は出土していない。

SK-236 A-13グリッドで検出した。平面形は長方形を呈し、規模(90)×60cm、深さ80cmを測る。埋土は、上層から黒色粘質土、小礫層、腐植物を含む黒色粘質土層の順に堆積している。遺物は炭、拳大の球形の石1点が出土している。

SK-242 A-13グリッドで検出した。平面形は長方形を呈し、規模80×50cm、深さ104cmを測る。埋土は黒色粘質土で下層に腐植物を含む。遺物は珠洲の破片1点が出土している。

SK-344 A-14グリッドで検出した。平面形は楕円形を呈し、規模85×70cm、深さ178cmを測る。埋土は黒色土である。遺物は柱根（163）1点が遺構の中心に直立した状態で出土している。

SK-345 A-14グリッドで検出した。平面形は楕円形を呈し、規模62×61cm、深さ86cmを測る。埋土は黒色土である。遺物は土師器の破片5点、須恵器の甕（76）が1点、中世陶器の擂鉢（122）が1点出土している。

SK-429 A-17グリッドで検出した。SD-306の縁辺斜面に位置する。平面形は円形を呈し、径約60cm、深さ26cmを測る。埋土は上層から緑灰色粘質土、黒色粘質土、暗オリーブ灰色土である。遺物は

中世の土師器の柱状高台楕（31）がほぼ完形で1点と、須恵器の甕（63）1点が出土している。意図的に埋設された可能性がある。

### b 井戸

井戸は、2区のA-8～9グリッドで3基確認している。平面規模が大きく、深さがあり、土層の状況と木製品等が出土した遺構を井戸と分類した。調査中においても、遺構の検出面である青灰色砂質土層以下は絶えず湧水する状況から、井戸としての条件は揃っている。

SE-6 A-8グリッドで検出した。平面形は梢円形を呈し、規模1.5×1m、深さ88cmを測る。埋土は主に黒色粘質土で、腐植物を含む層がある。土層の状況から、重複するSD-5より古い。遺物は土師器の破片9点が出土している。

SE-72 A-9グリッドで検出した。平面形は梢円形を呈し、規模1.4×1.2m、深さ125cmを測る。埋土は大きく二分でき、上層部は地山青灰色土ブロックが混じるオリーブ黒色土、下層部は黒色粘質土で腐植物を含む層がある。遺物は弥生土器もしくは古式土師器の甕（9）1点、土師器の破片6点、須恵器の甕（78）ほか破片合わせて2点、珠洲の甕（86）1点、砥石（138）1点、木製品（146・150～154）が出土している。

SE-130 A-9グリッドで検出した。平面形は梢円形を呈し、規模1.3×0.9m、深さ125cmを測る。埋土は主に黒色粘質土で、腐植物を含む層がある。遺物は木製品（144・147～149・155）が出土している。

### c 柱穴

柱穴及びピットは、1区と6区以外で多数検出され、直径30cm程度のものが大半を占める。そのうちの20基は、柱根が遺存していた。柱根が出土した柱穴は、2区では1基、3区では2基、4区では5基、5区では12基と、南の調査区になるほど遺存数が多い。

土層観察から柱痕を確認した柱穴の中で、SKp-66・108・110・112・116・135・144・148・205・366からは直径10～12cmの柱または杭が推定できる。これらは、直径約13cmの柱根が遺存していたSKp-172と同程度の柱または杭であったと考えられる。掘立柱であれば小規模の建物の存在が想定できる。

掘立柱建物は、特に2区のA-9グリッド、5区のA-19グリッドで柱穴が高密度に分布する状況から、相当数の建物が想定され得る。しかし調査範囲の制約や重複する遺構により、確証が得られ難いものが多いが、検討により推定復元した柱列及び掘立柱建物を説明する。

A-8グリッドで確認したSKp-157・169・104・110・93から、桁行2間以上×梁行1間の建物として推定復元した。概ね東～西方向を指向している。SKp-93から土師器、SKp-110から土師器、珠洲、SKp-157から土師器が出土しているが、いずれも小片のため詳細は不明である。

A-9～10グリッドで確認したSKp-172・52・81・73・56から、桁行3間×梁行1間の建物として推定復元した。そのうちSKp-172からクリ材の柱根が出土している。概ね南東～北西方向を指向している。SKp-56から須恵器、SKp-73から陶器（128）、SKp-81から土師器が出土している。

A-13グリッドで確認したSKp-246・243・332・335・338から、桁行3間×梁行1間の建物として推定復元した。そのうちSKp-335からウルシ材の柱根が出土している。概ね南～北方向を指向している。SKp-332から土師器が出土しているが小片のため詳細は不明である。

A-17～18グリッドで確認したSKp-430・431・432から、ほぼ2m間隔の柱列として推定復元した。調査区の壁面付近に位置し、建物跡の一部である可能性もある。そのうち全てから柱根が出土している。柱根はSKp-430・432がスギ材であり、SKp-431はウルシ材である。SD-306に直交して設置され、SD-343中に位置している。掘り方や埋土は存在せず、柱根も無挽きであるため、近代以降に設置されたものと考えられる。

A-18グリッドで確認したSKp-353・356・435からほぼ2m間隔の柱列として推定復元した。そのうちSKp-356からスギ材の柱根が出土している。概ね南東-北西方向を指向している。

A-19グリッドで確認したSKp-415・393・401・407から、ほぼ1.5m間隔の柱列として推定復元した。概ね南東-北西方向を指向している。

A-19～20グリッドで確認したSKp-406・419・390・403・420から、桁行2間×梁行1間の建物として推定復元した。そのうちSKp-390・403からクリ材の柱根が出土している。主軸は概ね南-北方向を指向している。SKp-419から土師器が出土しているが小片のため詳細は不明である。

#### d 溝

溝は、ほぼ南北方向に延びるものと、南東-北西方向に延びるものがある。検出された溝の多くは後者である。

南北に延びる溝としては、2区のA-6～7グリッドで検出した平行するSD-63とSD-64が該当する。これは調査区東側に隣接する建物や煙の区画の方向とほぼ一致している。

幅4m以上の大溝は、調査区内から3条確認されている。SD-2、SD-279、SD-306が該当する。

SD-2 A-4～6グリッドで検出した。調査区の制約によって確認範囲が限られており詳細は不明であるが、平面形をみると幅に大きな差があり不定形で、また深さも浅いことから、自然流路の可能性もある。幅は最も狭くなったところで約4m、深さ18cmを測る。埋土は腐植物を含んでいる。遺物は弥生土器もしくは土師器の破片31点が出土している。

SD-63 A-6～7グリッドで検出した。断面形は段がつくられた逆台形を呈し、幅約140cm、深さ約60cmを測る。約2m離れたSD-64と平行している。遺物は弥生土器もしくは古式土師器の高杯(10)、壺または甕(2)合わせて2点、土師器の小皿(44)、皿(32)ほか破片合わせて83点、須恵器の杯(50・54)、壺または甕(64・71)ほか破片合わせて6点、珠洲の甕(96・99)、擂鉢(107)ほか破片合わせて6点、白磁の小皿(116)1点、青磁の破片2点が出土している。

SD-64 A-6～7グリッドで検出した。断面形は段がつくられた逆台形を呈し、幅約35cm、深さ約50cmを測る。約2m離れたSD-63と平行している。遺物は土師器の破片1点、珠洲の破片1点が出土している。遺構の位置関係と出土遺物からみて、SD-63とSD-64の2条は同時期に掘削されたものと思われる。

SD-279 A-11～12グリッドで検出した。幅約6m、深さ約1mを測る。埋土は黒褐色土が主体で、腐植物を含み粘性が強い下層部と、溝に流入した土で隔てられた堆積時期の異なる上層部とに二分できる。遺物は上層部から土師器の破片2点、須恵器の横瓶？(67)、壺または甕(97)の2点、珠洲の甕(103)ほか破片合わせて4点が出土している。近世以降に属する遺物は出土していない。周辺の遺構分布を見ると、特にSD-279の左岸において多数のピットや土坑がSD-279と重複している。このことより、遅くとも中世には埋没し、その後は住居等の空間として利用されたと考えられる。

SD-306 A-16~17グリッドで検出した。本調査区で最も大規模な遺構である。現在も存在している上流の貯水池から吉井水上地区の集落内を通る、幅1m程の水路の前身であると考えられる。最大幅は推定約20m、深さは1mを超える。埋土は砂層と粘土層が互層になっている自然堆積土層であり、細分すると30層以上になる。これまでに幾度か流路が振っている形跡があり、実際に水が流れている時の幅は20mには達していなかったと考えられる。遺物は土師器の楕(11~16・19・20・22~30)、内面黒色土器の楕(34)、甕(35・37・41・42)ほか破片合わせて約270点、須恵器の杯蓋(46・48)、杯(49・52・53・56・59)、甕または甕(60・68~70・73~75・77・79・82~84)ほか破片合わせて44点、珠洲の甕(91・93・102)、擂鉢(106)ほか破片合わせて12点、青磁の楕(113)1点、瀬戸美濃の折緑皿(117)、緑釉皿(118)の2点、中世陶器の擂鉢(123)近世陶器の楕(126・127)ほか破片合わせて4点が出土している。古代から近世のものまであるが、中世のものが最も多く出土している。出土状況を見ると、中世以前の遺物の多くは、溝の縁辺に近い土層から出土している。これは、当初に堆積した土が部分的に残っていたことを示している。例えば、古代に使用されていた溝が後に改修されて使用され、近世以降は底ざらいのような大規模な改修は為されずに岸辺から埋没していったのではないかと推察される。溝のほぼ中心に位置する砂層の比較的下層から近世以降の遺物が出土し、溝底の中心付近では護岸のためと思われる杭が並んでいた。溝の深さは近世以降もある程度あったものと思われる。これらのことから、SD-306は時期が下るに従い、流入土や堆積土により幅が狭くなっていたか、または流路が遷移していった状況が推察される。

第2表 造構計測表

造構名	グリッド	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	高 度 (cm)	理 土	道 物	備 考
SK - 1	A - 2	円形	48	46	14	青褐色土	土師器	
SD - 2	A - 4 ~ 6	溝状	幅約4m		18	オリーブ褐色土	土師器	
SD - 3	A - 4	溝状	幅約16m		16	オリーブ褐色土	土師器 青磁	
SKp - 4	A - 5	円形	40	—	24	オリーブ褐色土		
SD - 5	A - 8	溝状	幅約110		88	青褐色土 暗赤褐色土	土師器 石臼	
SE - 6	A - 8	椭円形	150	100	88	褐色土	土師器	
SKg - 7	A - 8	円形	36	34	23	褐色土	土師器	
SKg - 8	A - 8	椭円形	25	(22)	15	オリーブ褐色土		
SKg - 9	A - 8	円形	29	20	13	オリーブ褐色土	土師器	
SKg - 10	A - 8	円形	12	10	5	褐色土		
SKg - 11	A - 8	椭円形	18	9	4	褐色土		
SKg - 12	A - 8	円形	19	18	15	褐色土		
SKg - 13	A - 8	円形	12	10	5	褐色土	土師器	
SKg - 14	A - 8	椭円形	32	27	23	青褐色土	土師器	
SKg - 15	A - 8	椭円形	30	25	15	褐色土		
SKg - 16	A - 8	不明	—	—	—	褐色土		試失
SKg - 17	A - 8	円形	21	20	13	褐色土		
SKg - 18	A - 8	椭円形	36	28	24	褐色土	土師器	
SK - 19	A - 8	不整方形	124	100	91	褐色土 青褐色砂質土	土師器 白組	
SKg - 20	A - 7	円形	26	25	14	オリーブ褐色土	土師器	
SKg - 21	A - 8	円形	26	22	29	褐色土		
SKg - 22	A - 8	円形	32	28	3	褐色土	土師器	
SKg - 23	A - 8	椭円形	22	17	9	オリーブ褐色土		
SKg - 24	A - 7	円形	22	20	8	オリーブ褐色土		
SKg - 25	A - 7	椭円形	52	40	27	褐色土	土師器	
SKg - 26	A - 7	円形	29	18	19	褐色土	土師器	
SKg - 27	A - 7	円形	56	54	39	褐色土		
SKg - 28	A - 9	円形	13	12	9	褐色土		
SKg - 29	A - 9	円形	15	15	19	褐色土		
SKg - 30	A - 9	円形	22	22	13	褐色土	土師器	
SKg - 31	A - 9	椭円形	49	38	29	褐色土	土師器	
SKg - 32	A - 9	椭円形	39	24	13	オリーブ褐色土	土師器	
SKg - 33	A - 9	椭円形	45	33	25	褐色土	土師器	
SKg - 34	A - 9	椭円形	25	20	16	褐色土		
SK - 35	A - 9	椭円形	110	85	70	褐色土 青褐色土地	土師器 木片 柱板	
SKg - 36	A - 9	椭円形	46	34	19	オリーブ褐色土		
SKg - 37	A - 9	円形	29	18	19	オリーブ褐色土		
SKg - 38	A - 9	椭円形	37	27	13	オリーブ褐色土	土師器	
SKg - 39	A - 9	円形	30	26	29	褐色土		
SKg - 40	A - 9	椭円形	23	18	15	オリーブ褐色土		
SKg - 41	A - 9	椭円形	26	18	8	オリーブ褐色土		
SKg - 42	A - 9	円形	23	20	29	褐色土	木片	
SKg - 43	A - 9	椭円形	30	24	15	褐色土	土師器	
SKg - 44	A - 9	円形	23	22	13	褐色土		
SKg - 45	A - 9	—	64	—	7	オリーブ褐色土		
SKg - 46	A - 9	椭円形	29	16	9	オリーブ褐色土		
SKg - 47	A - 9	円形	18	13	19	褐色土		
SKg - 48	A - 9	椭円形	27	18	13	褐色土	土師器	
SKg - 49	A - 9	円形	20	18	6	オリーブ褐色土	土師器	
SKg - 50	A - 9	円形	25	20	9	オリーブ褐色土		
SKg - 51	A - 9	円形	22	18	8	オリーブ褐色土		
SKg - 52	A - 9	円形	24	22	13	褐色土		
SKg - 53	A - 9	椭円形	26	20	17	褐色土		
SKg - 54	A - 9	円形	16	16	2	褐色土		
SKg - 55	A - 9	円形	12	10	8	褐色土	土師器	
SKg - 56	A - 9	円形	24	20	12	褐色土	第壹組	
SKg - 57	A - 9	円形	30	28	21	オリーブ褐色土		
SKg - 58	A - 9	椭円形	28	20	11	オリーブ褐色土	土師器	
SKg - 59	A - 9	円形	15	14	11	オリーブ褐色土	土師器	
SKg - 60	A - 9	(椭円形)	24	(20)	6	褐色土	第壹組	
SD - 61	A - 9	溝状	幅約50		20	オリーブ褐色土	土師器	
SK - 62	A - 9	—	(60)	35	44	オリーブ褐色土	土師器 砂漠 瓦石	風削木版
SD - 63	A - 6 ~ 7	溝状	幅約140		60	オリーブ褐色土	土師器 瓦器	
SD - 64	A - 6 ~ 7	溝状	幅約35		50	黒褐色土	瓦器 白組 青組 板	
SKg - 65	A - 7	円形	60	60	22	オリーブ褐色土		
SKg - 66	A - 9	椭円形	(22)	20	17	オリーブ褐色土		
SKg - 67	A - 9	椭円形	46	38	28	褐色土	土師器	
SK - 68	A - 9	—	—	—	19	褐色土		風削木版
SK - 69	A - 9	—	—	—	25	褐色土		風削木版
SK - 70	A - 9	円形	28	23	22	褐色土	土師器 砂漠	
SK - 71	A - 9	—	(60)	—	46	オリーブ褐色土	土師器	
SK - 72	A - 9	椭円形	149	120	125	オリーブ褐色土 黑色土塊	土師器 磁器 砂漠 砂岩 木製盆	

地名	グリッド	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	種 土	造 物	備 考
SKp-73	A-9	楕円形	32	24	28	黒色土	陶器	
SKp-74	A-9	—	—	—	—	黒色土		= SKp75
SKp-75	A-9	円形	27	25	12	黒色土		
SKp-76	A-9	円形	23	18	16	黒色土		
SKp-77	A-9	楕円形	49	15	11	黒色土		
SKp-78	A-9	楕円形	28	16	11	黒色土		
SKp-79	A-9	楕円形	36	32	12	黒色土		
SKp-80	A-9	円形	16	14	10	黒色土		
SKp-81	A-9	楕円形	65	36	36	黒色土	土師器	
SKp-82	A-9	楕円形	28	20	14	黒色土		
SKp-83	A-9	—	—	—	—	黒色土		= SKp45
SK-84	A-9	楕円形	100	60	28	黒色土	土師器	
SKp-85	A-9	円形	10	8	5	黒色土		
SKp-86	A-9	楕円形	22	18	15	黒色土		
SKp-87	A-9	—	—	—	—	黒色土		= SK130
SKp-88	A-9	—	—	—	17	黒色土	土師器	鐵錫木箱
SKp-89	A-9	—	—	—	15	黒色土		鐵錫木箱
SKp-90	A-9	円形	12	10	13	黒色土		
SKp-91	A-10	円形	15	14	7	黒色土	塗銅	
SK-92	A-9	楕円形	100	80	25	オリーブ黒色土	焼附 本製品	
SKp-93	A-8	円形	28	25	23	黒色土	土師器	
SK-94	A-9	楕円形	90	(70)	96	オリーブ黒色土	土師器	
SK-95	A-9	方形	80	80	96	オリーブ黒色土	土師器 漆器部	
SK-96	A-8	—	55	(30)	49	黒色土	土師器	
SKp-97	A-8	楕円形	35	32	30	黒色土		
SKp-98	A-8	円形	12	12	3	黒色土		
SKp-99	A-8	楕円形	29	14	10	黒色土		
SD-100	A-8	楕円	—	楕約 35	30	オリーブ黒色土		SD9 中
SKp-101	A-8	円形	22	20	16	黒色土		
SKp-102	A-8	円形	12	11	12	黒色土		
SKp-103	A-8	楕円形	22	17	15	黒色土		
SKp-104	A-8	楕円形	45	32	24	黒色土		
SKp-105	A-8	楕円形	18	13	6	黒色土		
SKp-106	A-8	円形	38	33	26	黒色土		
SKp-107	A-8	方形	28	(20)	15	黒色土		
SKp-108	A-8	円形	34	28	43	オリーブ黒色土		
SKp-109	A-8	円形	26	24	20	黒色土		
SKp-110	A-8	円形	28	28	25	オリーブ黒色土	土師器 塗銅	
SKp-111	A-8	楕円形	30	24	22	黒色土		
SKp-112	A-9	円形	32	30	31	オリーブ黒色土		
SKp-113	A-9	円形	29	20	15	黒色土	土師器 塗銅	
SKp-114	A-9	円形	26	17	13	黒色土	土師器	
SKp-115	A-9	円形	26	20	8	黒色土		
SKp-116	A-9	円形	22	21	26	オリーブ黒色土		
SKp-117	A-9	円形	18	18	15	黒色土		
SK-118	A-9	円形	52	50	47	黒色土		
SK-119	A-9	円形	25	22	21	黒色土		
SKp-120	A-9	円形	20	20	22	黒色土		
SKp-121	A-9	楕円形	38	25	32	黒色土		
SKp-122	A-9	円形	14	12	8	黒色土		
SKp-123	A-9	—	—	—	—	黒色土		= SKp35
SKp-124	A-9	楕円形	34	32	16	黒色土		
SKp-125	A-9	円形	26	(20)	13	黒色土		
SKp-126	A-9	円形	12	(12)	10	黒色土		
SKp-127	A-9	円形	12	10	8	黒色土		
SKp-128	A-9	楕円形	20	14	13	黒色土		
SKp-129	A-9	円形	25	23	15	黒色土		
SD-130	A-9	楕円形	130	90	125	黒色土	本製品	
SKp-131	A-9	円形	14	12	13	黒色土		
SK-132	A-9	(楕円形)	(40)	38	18	黒色土		
SKp-133	A-9	円形	34	28	7	黒色土		
SKp-134	A-9	円形	26	15	10	黒色土		
SKp-135	A-9	楕円形	30	24	28	オリーブ黒色土		
SKp-136	A-9	円形	20	20	17	黒色土		
SKp-137	A-9	—	18	(18)	8	オリーブ黒色土		
SK-138	A-9	楕円形	60	50	24	オリーブ黒色土		
SKp-139	A-9	円形	14	10	9	黒色土		
SD-140	A-10	済状	—	楕約 2m	—	黒色土		
SKp-141	A-9	楕円形	35	28	46	黒色土		
SKp-142	A-8	—	(35)	(20)	15	黒色土		
SKp-143	A-8	楕円形	30	23	24	黒色土		
SKp-144	A-8	(楕円形)	50	(50)	59	オリーブ黒色土		
SKp-145	A-8	円形	28	28	17	黒色土		
SKp-146	A-8	楕円形	22	19	9	黒色土		
SKp-147	A-8	楕円形	22	16	10	黒色土		
SKp-148	A-8	楕円形	55	49	46	オリーブ黒色土		
SKp-149	A-8	楕円形	27	20	15	黒色土		
SKp-150	A-8	楕円形	25	20	15	黒色土		
SKp-151	A-8	楕円形	22	18	12	黒色土		

造 僧 名	ダリッキ	平 面 形	長 軸 (cm)	短 軸 (cm)	厚 度 (cm)	地 土	道 物	備 考
SKp-152	A-8	円形	(25)	22	—	黒色土		
SKp-153	A-8	円形	28	28	31	黒色土		
SKp-154	A-8	楕円形	28	22	24	黒色土		
SKp-155	A-8	楕円形	28	20	24	黒色土		
SKp-156	A-8	円形	22	18	19	黒色土		
SKp-157	A-8	楕円形	42	34	27	黒色土	土師器	
SKp-158	A-8	楕円形	32	26	27	黒色土	土師器	
SKp-159	A-8	—	35	—	23	黒色土		
SKp-160	A-8	（方形）	68	—	29	黒色土	土師器	
SKp-161	A-9	楕円形	38	27	21	黒色土	土師器 瓶形器 滴溜	
SK-162	A-9	楕円形	55	(55)	23	黒色土 暗褐色砂	土師器	
SKp-163	A-9	楕円形	45	40	23	黒色土	珠調	
SKp-164	A-9	楕円形	(45)	35	46	黒色土		
SKp-165	A-9	円形	24	20	—	黒色土		
SKp-166	A-9	(円形)	32	(23)	68	黒色土		
SKp-167	A-9	楕円形	33	25	17	黒色土		
SKp-168	A-9	—	—	—	—	黒色土		=SKp167
SKp-169	A-9	円形	22	20	42	黒色土		
SKp-170	A-9	円形	16	14	19	黒色土		
SK-171	A-7	方形	68	62	104	暗褐色土 黑色土鉄	土師器 瓣口	
SKp-172	A-10	円形	30	29	25	黒色土	柱根	
SKp-173	A-10	楕円形	35	25	23	オリーブ黒色土		
SKp-174	A-10	楕円形	40	35	45	オリーブ黒色土 暗オリーブ灰褐色土	土師器 瓣口	
SK-175	A-12	楕円形	128	112	105	暗褐色土	土師器 瓶形器 瓶口	
SK-176	A-12	円形	90	88	38	暗褐色土		
SK-177	A-12	楕状	(150)	26	10	暗褐色土	中世陶器	
SKp-178	A-12	熱円形	41	30	29	オリーブ黒色土	柱根	
SKp-179	A-12	円形	16	(40)	13	黒色土		
SK-180	A-12	—	640	—	38	黒色土		
SK-181	A-12	円形	120	100	91	黒色土	土師器 瓶形器 木片	
SK-182	A-12	—	—	—	(47)	黒色土	土師器	
SKp-183	A-12	円形	34	30	58	黒色土		
SKp-184	A-12	椭円形	30	16	24	オリーブ黒色土		
SKp-185	A-12	椭円形	45	38	60	オリーブ黒色土		
SKp-186	A-12	(椭円形)	(55)	(40)	37	オリーブ黒色土		
SKp-187	A-12	椭円形	40	14	12	黒色土		
SKp-188	A-12	(椭円形)	(40)	(40)	17	黒色土		
SKp-189	A-12	椭円形	32	30	12	暗褐色土		
SKp-190	A-12	(椭円形)	(30)	(30)	38	暗褐色土	土師器 瓶形器	
SKp-191	A-12	(椭円形)	(25)	(20)	19	暗褐色土		
SKp-192	A-12	円形	24	21	11	暗褐色土	中世陶器	
SKp-193	A-12	円形	14	12	13	暗褐色土		
SKp-194	A-12	—	—	—	—	黒色土	瓶口	
SK-195	A-12	椭円形	70	56	40	オリーブ黒色土	油壺形	
SKp-196	A-12	椭円形	42	36	58	黒色土		
SKp-197	A-12	椭円形	34	32	25	オリーブ黒色土		
SKp-198	A-12	円形	22	20	22	オリーブ黒色土		
SKp-199	A-12	円形	18	16	32	黒色土		
SKp-200	A-12	椭円形	38	28	50	黒色土		
SKp-201	A-12	椭円形	56	(30)	40	黒色土	土師器	
SK-202	A-12	(椭円形)	(140)	—	138	オリーブ黒色土	土師器 骨の化石	
SKp-203	A-12	円形	21	19	13	暗褐色土		
SKp-204	A-12	円形	18	14	7	暗褐色土		
SKp-205	A-12	円形	32	30	30	オリーブ黒色土		
SKp-206	A-12	円形	29	18	28	黒色土		
SKp-207	A-12	円形	18	16	19	暗褐色土		
SKp-208	A-12	椭円形	32	22	17	暗褐色土		
SKp-209	A-12	円形	24	22	21	暗褐色土		
SKp-210	A-12	—	60	(40)	13	暗褐色土	珠調	
SKp-211	A-12	(椭円形)	20	(12)	6	暗褐色土		
SKp-212	A-12	椭円形	18	14	11	暗褐色土		
SKp-213	A-12	円形	10	8	—	暗褐色土		
SKp-214	A-12	円形	10	10	2	オリーブ黒色土	油壺形	
SKp-215	A-12	円形	20	16	15	オリーブ黒色土	柱根	
SKp-216	A-12	円形	18	15	24	オリーブ黒色土		
SKp-217	A-12	円形	24	18	3	オリーブ黒色土	土師器	
SKp-218	A-12	円形	22	20	1	オリーブ黒色土	珠調 精石	
SKp-219	A-12	—	60	—	75	黒色土	珠調	
SK-220	A-13	椭円形	(60)	84	40	黒色土	土師器 瓶形器	
SK-221	A-12	(椭円形)	(180)	130	60	黒色土	土師器 瓶形器 珠調 柱根	
SKp-222	A-12	円形	20	15	10	黒色土		
SK-223	A-13	(椭円形)	(100)	80	57	黒色土	土師器 木製品	
SKp-224	A-13	円形	20	18	21	黒色土		
SKp-225	A-13	椭円形	58	52	50	黒色土		
SKp-226	A-13	—	(50)	42	41	黒色土	土師器	
SKp-227	A-13	(円形)	(20)	18	14	黒色土	土師器	

地 種 名	グリッド	平 面 形	員 鋸 (cm)	周 幅 (cm)	深 度 (cm)	理 土	遺 物	備 考
SKp-228	A - 13	不定形				黒色土		
SKp-229	A - 13	—	39	230	16	黒色土	本製品	
SKp-230	A - 13	円錐形	130	—	13	黒色土		
SKp-231	A - 13	楕円形	29	16	21	黒色土	土師器	
SKp-232	A - 13	円形	22	20	32	黒色土		
SKp-233	A - 13	円形	48	44	30	黒色土	土師器	
SK - 234	A - 13	円形	640	38	20	黒色土		
SK - 235	A - 13	不定形	750	75	45	黒色土		
SK - 236	A - 13	(大方所)	690	60	80	黒色土	珊瑚石	
SKp-237	A - 13	円形	35	52	24	黒色土	土師器 滑石器	
SK - 238	A - 13	(楕円形)	670	600	8	黒色土	土師器	
SKp-239	A - 13	円形	16	16	10	黒色土		
SKp-240	A - 13	円形	30	26	13	黒色土	土師器	
SKp-241	A - 13	円形	20	17	17	黒色土	土師器	
SK - 242	A - 13	長方形	80	50	104	黒色土	森田	
SKp-243	A - 13	楕円形	22	14	17	黒色土		
SKp-244	A - 13	円形	24	20	24	黒色土		
SD - 245	A - 13	溝状	幅約 60	—	28	黒色土	珊瑚	
SKp-246	A - 13	楕円形	40	32	33	黒色土		
SKp-247	A - 13	—	—	—	—	黒色土		開発
SKp-251	A - 9	(円錐形)	—	—	32	黒色土		
SKp-252	A - 9	(円錐形)	—	(40)	27	黒色土		
SKp-253	A - 9	(円錐形)	35	—	18	黒色土		
SKp-254	A - 9	(円錐形)	400	—	14	黒色土		
SKp-255	A - 9	円形	21	18	12	オリーブ黒色土		
SKp-256	A - 9	円形	28	22	16	オリーブ黒色土		
SKp-257	A - 9	円形	18	16	14	オリーブ黒色土		
SKp-258	A - 9	楕円形	317	25	21	オリーブ黒色土		
SKp-259	A - 9	円形	18	14	20	オリーブ黒色土		
SKp-260	A - 9	楕円形	30	25	37	オリーブ黒色土		
SKp-261	A - 9	円形	25	22	20	オリーブ黒色土		
SKp-262	A - 9	円形	16	(13)	15	オリーブ黒色土		
SK - 263	A - 9	(楕円形)	—	50	34	オリーブ黒色土	土師器 珠訓	
SKp-264	A - 9	円形	30	36	36	黒色土		
SKp-265	A - 9	楕円形	645	35	32	黒色土		
SKp-266	A - 9	円形	34	34	36	黒色土		
SKp-267	A - 9	円形	31	(30)	30	オリーブ黒色土		
SKp-268	A - 9	楕円形	28	20	17	オリーブ黒色土		
SKp-269	A - 9	円形	20	20	26	オリーブ黒色土		
SKp-270	A - 9	楕円形	18	13	9	オリーブ黒色土		
SKp-271	A - 9	楕円形	20	15	16	オリーブ黒色土		
SKp-272	A - 9	楕円形	-8	40	27	オリーブ黒色土		
SKp-273	A - 9	楕円形	20	15	18	オリーブ黒色土		
SKp-274	A - 9	円形	35	31	33	オリーブ黒色土	土師器 珠訓	
SKp-275	A - 9	円形	23	(20)	29	オリーブ黒色土		
SKp-276	A - 9	楕円形	29	23	19	オリーブ黒色土		
SKp-277	A - 9	円形	21	21	29	オリーブ黒色土	土師器	
SKp-278	A - 9	円形	21	20	14	オリーブ黒色土	土師器	
SD - 279	A - 11	溝状	幅約 6m	約 1m	—	黒褐色土	土師器 滑石器	珊瑚
SKp-280	A - 11	楕円形	18	12	29	黒色土		
SKp-281	A - 11	円形	20	24	55	黒色土		
SKp-282	A - 11	円形	18	15	40	黒色土		
SKp-283	A - 11	円形	18	18	22	黒色土		
SKp-284	A - 11	円形	42	38	12	黒色土	土師器	
SKp-285	A - 11	円形	30	28	23	黒色土		
SKp-286	A - 11	円形	22	18	21	黒色土		
SKp-287	A - 11	円形	16	16	23	黒色土		
SK - 288	A - 11	半球円形	90	70	94	オリーブ黒色土	土師器	
SK - 289	A - 12	楕円形	83	79	40	黒褐色土		
SKp-290	A - 12	—	—	—	51	黒色土		
SKp-291	A - 12	—	—	—	52	黒色土	本製品	
SKp-292	A - 12	楕円形	50	38	39	黒色土		
SKp-293	A - 12	楕円形	(60)	56	45	黒色土		
SK - 294	A - 12	楕円形	90	70	22	黒色土	土師器	
SKp-295	A - 12	円形	25	20	31	黒色土		
SKp-296	A - 12	円形	48	45	60	黒色土		
SKp-297	A - 12	楕円形	30	29	19	黒褐色土		
SKp-298	A - 12	円形	18	14	17	黒色土		
SKp-299	A - 12	円形	30	26	39	黒色土		
SKp-300	A - 12	円形	25	22	16	黒色土		
SKp-301	A - 12	円形	40	35	44	黒色土		
SKp-302	A - 12	円形	40	38	43	黒色土		
SKp-303	A - 12	円形	22	22	48	黒色土	土師器	
SKp-304	A - 12	円形	28	24	24	黒褐色土		
SKp-305	A - 12	不定形	42	25	32	黒色土		
SD - 306	A - 16・17	溝状	幅約 20m	約 1m	—	黒色土 緑黒色土	土師器 滑石器 背印 森田 中・近世陶器	

地 構 名	グリッド	平 面 形	長 距 (cm)	短 距 (cm)	深 度 (cm)	理 土	道 物	備 考
SKg-367	A-14	円形	25	22	17	黒色土	土師器	
SKg-368	A-14	椭円形	35	25	44	黒色土	柱根	
SKg-369	A-14	—	—	—	6	黒色土	木片	
SKg-310	A-14	円形	25	24	11	黒色土		
SK-311	A-14	(楕円形)	280	—	60	黒色土	土師器 頂部部	
SKg-312	A-14	椭円形	34	22	18	黒色土	土師器	
SKg-313	A-14	円形	32	28	18	黒色土		
SKg-314	A-14	円形	(18)	16	10	黒色土		
SK-315	A-14	椭円形	52	44	24	オカーブ黒色土		
SKg-316	A-14	円形	25	20	25	黒色土	柱根	
SK-317	A-13	椭円形	50	40	20	黒色土		
SKg-318	A-13	椭円形	50	38	13	黒色土		
SKg-319	A-13	不定形	50	20	23	黒色土		
SKg-320	A-13	(円形)	55	(50)	26	黒色土	土師器	
SKg-321	A-13	円形	20	20	10	黒色土		
SKg-322	A-14	椭円形	38	33	24	黒色土	柱根	
SKg-323	A-13	円形	12	10	10	黒色土		
SKg-324	A-13	椭円形	20	15	10	黒色土		
SKg-325	A-13	円形	16	15	17	黒色土		
SKg-326	A-13	円形	12	10	17	黒色土	球形石	
SKg-327	A-13	円形	18	18	12	黒色土		
SKg-328	A-13	円形	26	22	17	黒色土		
SKg-329	A-13	椭円形	30	22	7	黒色土		
SKg-330	A-13	円形	20	18	9	黒色土		
SKg-331	A-13	不規円形	48	44	25	黒色土		
SKg-332	A-13	円形	30	29	10	黒色土	土師器	
SKg-333	A-13	(円形)	30	(26)	8	黒色土	土師器	
SKg-334	A-13	(円形)	20	(20)	6	無色土		
SKg-335	A-13	円形	25	24	39	黒色土	柱根	
SKg-336	A-13	不規円形	45	40	34	黒色土		
SKg-337	A-13	椭円形	24	18	20	黒色土		
SKg-338	A-13	円形	26	24	11	黒色土		
SKg-339	A-13	円形	22	18	15	黒色土		
SKg-340	A-13	円形	30	25	34	黒色土	土師器	
SKg-341	A-14	(椭円形)	50	38	—	黒色土		
SK-342	A-14	(円形)	24	(20)	23	黒色土		
SK-343	A-14	(椭円形)	35	—	22	黒色土		
SK-344	A-14	椭円形	85	70	178	黒色土	柱根	
SK-345	A-14	椭円形	62	61	96	黒色土	土師器	
SK-346	A-14	椭円形	42	38	10	黒色土		
SKg-347	A-14	椭円形	49	35	25	黒色土	柱根	
SKg-348	A-14	円形	20	20	20	黒色土		
SKg-349	A-14	円形	22	20	26	黒色土		
SK-350	A-14	(椭円形)	(25)	22	19	黒色土		
SKg-351	A-17	円形	22	20	17	黒色土	土師器	
SKg-352	A-18	円形	22	20	35	黒色土		
SKg-353	A-18	椭円形	25	20	15	黒色土		
SKg-354	A-18	円形	18	16	12	黒色土		
SKg-355	A-18	円形	18	16	10	黒色土		
SKg-356	A-18	円形	25	25	48	黒色土	柱根	
SKg-357	A-18	円形	20	20	16	黒色土		
SKg-358	A-18	円形	19	19	13	黒色土		
SKg-359	A-18	円形	20	19	9	黒色土		
SKg-360	A-19	円形	20	20	9	黒色土		
SKg-361	A-19	円形	15	15	8	黒色土		
SKg-362	A-19	円形	16	14	8	黒色土		
SKg-363	A-19	椭円形	40	30	5	黒色土		
SKg-364	A-19	円形	22	20	8	黒色土		
SKg-365	A-19	円形	25	22	8	黒色土		
SKg-366	A-19	円形	37	35	23	黒色土		
SKg-367	A-19	円形	30	25	21	黒色土	柱根	
SKg-368	A-19	円形	32	29	62	黒色土	柱根	
SKg-369	A-19	円形	20	18	9	黒色土	土師器	
SKg-370	A-19	円形	21	20	12	黒色土		
SKg-371	A-19	円形	28	22	15	黒色土		
SKg-372	A-19	円形	23	20	15	黒色土		
SKg-373	A-19	円形	29	18	19	黒色土		
SKg-374	A-19	椭円形	45	32	26	黒色土	土師器	
SK-375	A-19	円形	48	43	18	黒色土		
SKg-376	A-19	円形	18	16	19	黒色土		
SKg-377	A-19	円形	16	15	9	黒色土		
SKg-378	A-19	円形	49	39	66	黒色土	柱根	
SKg-379	A-19	円形	24	22	16	黒色土	土師器	
SKg-380	A-19	円形	18	16	12	黒色土		
SKg-381	A-19	—	50	—	13	黒色土		
SKg-382	A-19	椭円形	30	22	19	黒色土		
SKg-383	A-19	椭円形	30	25	18	黒色土		
SKg-384	A-19	円形	24	21	37	黒色土		
SKg-385	A-19	椭円形	30	22	44	黒色土		

道橋名	グリッド	平面形	長 軸 (cm)	短 軸 (cm)	深 度 (cm)	理 土	道 物	備 考
SKp-386	A - 19	円形	22	21	19	黒色土		
SKp-387	A - 19	椭円形	46	40	11	黒色土		楕円木柵
SKp-388	A - 19	円形	22	20	20	黒色土		
SKp-389	A - 19	円形	23	28	60	黒色土	土師器	
SKp-390	A - 19	円形	28	28	73	黒色土	土師器 住塙	
SKp-391	A - 19	円形	22	22	17	黒色土		
SKp-392	A - 19	円形	22	20	52	黒色土		
SKp-393	A - 19	椭円形	32	24	20	黒色土		
SKp-394	A - 19	—	70	—	12	黒色土		
SKp-395	A - 19	椭円形	25	19	23	黒色土		
SKp-396	A - 19	椭円形	30	22	18	黒色土	土師器	
SKp-397	A - 19	円形	19	18	15	黒色土		
SKp-398	A - 19	椭円形	39	28	44	黒褐色土	柱根	
SKp-399	A - 19	円形	28	(25)	34	黒褐色土	柱根	
SKp-400	A - 19	椭円形	40	30	27	黒色土		
SKp-401	A - 19	円形	22	19	20	黒色土		
SKp-402	A - 19	椭円形	46	34	44	黒褐色土	柱根	
SKp-403	A - 19	円形	22	22	64	黒色土	柱根	
SKp-404	A - 19	円形	30	30	24	黒色土		
SKp-405	A - 19	椭円形	45	30	65	黒色土	土師器	
SKp-406	A - 19	円形	24	23	14	黒色土		
SKp-407	A - 19	円形	22	20	15	黒色土		
SKp-408	A - 19	円形	15	14	16	黒色土		
SKp-409	A - 19	円形	12	11	10	黒色土		
SKp-410	A - 19	椭円形	20	14	14	黒色土		
SKp-411	A - 19	椭円形	28	15	13	黒色土		
SKp-412	A - 19	円形	15	15	28	黒色土		
SKp-413	A - 19	椭円形	25	22	51	灰色土	柱根	
SKp-414	A - 19	円形	29	18	13	黒色土		
SKp-415	A - 20	円形	28	23	27	黒色土		
SKp-416	A - 20	方形	50	35	26	灰色土		
SKp-417	A - 20	円形	30	24	64	黒色土		
SKp-418	A - 20	円形	26	22	17	黒色土		
SKp-419	A - 20	円形	24	24	20	黒色土	土師器	
SKp-420	A - 20	円形	22	17	10	黒色土		
SKp-421	A - 20	円形	28	25	8	黒色土		
SKp-422	A - 20	円形	18	18	11	灰色土		
SKp-423	A - 20	円形	22	22	11	灰色土		
SKp-424	A - 20	円形	22	20	12	灰色土		
SKp-425	A - 20	円形	24	20	16	黑色土		
SKp-426	A - 20	方形	15	17	12	黑色土		
SKp-427	A - 20	(円筒)	30	(36)	31	黑色土		
SD-428	A - 17	溝状	—	—	—	オリーブ黒色土	土師器	=SD306
SK-429	A - 17	円形	64	56	26	緑灰色土 黒色土粒		
SKp-430	A - 17	円形	16	13	11	オリーブ黒色土	柱根	
SKp-431	A - 18	円形	17	14	22	なし	柱根	
SKp-432	A - 18	円形	16	15	33	なし	柱根	
SD-433	A - 17・18	溝状	幅約150	—	50	黒色土粒	土師器 須志器 中・近世陶器 氷石	
SD-434	A - 21・22	溝状	幅約180	—	34	緑褐色土 灰色土粒		
SKp-435	A - 18	円形	25	25	6	黒色土		

### 3 遺物

#### 1) 遺物概観

遺物は、柱根を含めコンテナで20箱ほど出土している。その内容は、大半が容量の大きい柱根によって占められる。出土点数から見ると、土師器が最も多く、須恵器、珠洲がそれに続く。柱根は比較的残りのよいものだけで20本以上あるが、その他の陶磁器類、木製品、石製品、銭貨などは少量である。遺構出土と包含層出土の遺物点数の割合は、約6:4である。

遺構に伴う遺物としては、SD-2、SD-63、SD-306といった溝跡からまとまとった出土量がある。特にSD-306は、古代の土器類を中心として中世～近世の遺物まで含んでいる。出土遺物の内容と出土量からも、本調査における中心的な遺構である。

なお、主要な遺構に伴う遺物の概要に関しては、前節の遺構編で報告した通りである。以下は、本調査区で出土した遺物をまとめ、種類別に説明する。

#### 2) 土器・陶磁器類

##### a 弥生土器（1～3）

1は高杯の脚部である。上下面は剥離面の可能性もある。弥生時代末のものと思われる。2は甕の底部である。底部は平底である。3は壺か甕の底部である。底部外面は平底ではなく凹んでいる。

##### b 土師器

###### ①古式土師器（4～10）

高杯 4は杯部である。杯部は大きく開く。5は脚部である。古墳時代前期のものと思われる。6は脚部である。透かし孔はなく、やや丸味を持ち下方に開く。古墳時代前期のものと思われる。10は裾部である。裾部は脚部から角度を変えて開く。肉厚である。古代のものの可能性もある。

甕 7は底部である。表面は残存状況が悪く、調整は不明である。弥生土器の可能性がある。

鉢形土器 8は鉢形土器の底部である。丸底で、直径1.5cmの円形の孔が穿たれている。弥生時代末から古墳時代前期のものと思われる。

###### ②古代土師器（11～42）

椀 11～13は口縁部である。体部は丸味を持ち、口縁端部は外反する。14は口縁部である。口縁部はわずかに外反する。口縁部はナデ調整され、体部内面は丁寧なナデ調整である。10世紀末のものかと思われる。15は口縁部である。ロクロナデ調整されている。16の体部は直線的に開く。

以下は底部が残るもので、全て回転糸切り痕が残る。17の体部は丸味を持ち立ち上がる。18・19の体部は丸味を帯びる。20・21の体部は直線的に開く。22の底部外面には中央に墨書で一本線が書かれている。23～26の器壁は肉厚である。25の体部は強いナデ調整されている。26の体部は直線状に開き、口縁部で角度を変え外反する。器壁は肉厚である。9世紀後半のものと思われる。27の体部は直線的に開く。外面はロクロナデ調整である。内面は丁寧なナデ調整されている。28の底部外面には線刻が描かれている。体部は丸味を帯び、口縁端部は外反する。体部の内外面はヘラミガキ調整されている。比較的口径が大きく器高が高い。9世紀後半から10世紀初頭のものと思われる。29の体部は直線的に開く。口縁端部は内傾する。30の体部は丸味を帯びる。9世紀後半のものと思われる。

31は柱状高台椀（杯）である。高台部は回転糸切り痕が残り外に開く。体部は直線的に開き、口縁部は外反する。SK-429から供伴した須恵器により、11世紀前半のものかと思われる。ただ形態と大きさから、12世紀末から13世紀初頭まで下る可能性もある。

### 皿 32の口縁部は内外面ナデ調整で、体部下半は不調整である。

内黒椀 33は椀または鉢である。体部は丸味を持ち、口縁部は外反する。10世紀後半から11世紀前半のものと思われる。34は体部である。内面はヘラミガキされ、内黒処理されている。外面は回転ヘラケズリ後ヘラミガキされている。よく焼き締まっている。10世紀末のものと思われる。

甕 35の口縁端部は断面方形で、外傾面を持つ。36は肩部から口縁部である。体部には横位のハケ目が施される。37は肩部から口縁部である。口縁部内面はやや凹み、受け口状となる。口縁端部はわずかに外に引き出され、外傾面を作り出している。内外面は回転ナデ調整されている。

以下は体部である。38の外面は煤が付着している。39の外面は煤が付着している。内外面はハケ目調整されている。40の器壁は1.6cmと厚い。外面は残存状況が悪いが平行線文のタタキ痕が僅かに残る。41の外面は平行タタキ痕が残る。42の器壁は1cmと厚い。外面は縦位の平行線文のタタキ痕が、内面には平行線文のあて具痕が残る。

### ③中世土師器（43～45）

43は手づくね成形による小皿である。器壁は厚く、底部は平坦で、体部は直線的に開く。15世紀のものと思われる。44は小皿である。底部は平坦で厚く、体部は薄く、直線的に開く。15世紀のものと思われる。45は手づくね成形による皿である。体部は丸味を帯びる。15世紀のものと思われる。

### c 須恵器（46～85）

杯蓋 46の天井部はやや丸味を帯び、低い円柱状のつまみの上面は内反りになっている。佐渡小泊窯産の9世紀後半から10世紀初頭のものと思われる。47・48の口縁端部は屈曲し垂下する。佐渡小泊窯産のものと思われる。

杯身 49は口縁部である。口縁端部は外反する。50の体部はほぼ直立している。51の体部は深く、直線的に開く。52～56は無台杯で底部はヘラオコシ痕が残る。52の体部は底部から屈曲して立ち上がり、直線的に開く。佐渡小泊窯産の9世紀後半のものと思われる。53の底部は平坦で、体部は低い。底部外面はヘラ切りされ、粘土紐痕が残る。佐渡小泊窯産の9世紀末のものと思われる。56の口縁部は外反する。体部は回転ナデ調整痕が強く残る。佐渡小泊窯産の9世紀前半のものと思われる。

57～59は有台杯である。4の焼成状態は非常に悪い。58の底部は平坦で断面三角形の低い高台が貼り付けられ、体部はやや直立気味に開く。9世紀のものと思われる。59の底部は平坦でややつぶれた断面方形の高台が貼り付けられている。体部は丸味を帯びる。9世紀後半から10世紀初頭のものと思われる。

甕 60は肩部から頸部である。頸部にはカキ目が施され、肩部は緩やかに下る。61は底部である。高台は破断しているが、本来は高いものと思われる。62・63は体部である。体部内外面はロクロナデ調整され、63の底部近くはナデ後ヘラケズリ調整をしている。内面にわずかに布目痕が残る。64は頸部で、外面は平行線文のタタキ調整で、内面は青海波文の当て具痕が残る。65は体部である。外面は平行線文のタタキ調整後カキ目を施し、内面は青海波文の当て具痕が残る。66の口頸部は体部より屈曲して立ち上がりほぼ直立する。口縁端部は肥厚し、外傾する面を作り出す。

瓶類 67の器種は不明である。外面には、他の個体の破片が溶着し、カキ目がある。内面には円形の

粘土接合痕があり、横瓶、提瓶の体部である可能性もある。

**壺** 68~70は口縁部である。68は壺または壺で、口縁端部は外側につまみ出され外傾面をなす。69は内外面ともに回転ナデ調整されている。70の口縁端部は下方に引き出され、口縁部は縁帯状となる。

以下は全て体部の破片である。71~73は壺または壺で、外面は平行線文のタタキ調整後カ目を施し、内面は青海波文の当て具痕が残る。74・75の外面は平行線文のタタキ調整で、内面は青海波文の当て具痕が残る。76の外面は刻み目のある平行線文のタタキ調整で、内面は青海波文の当て具痕が残る。77の外面は平行線文のタタキ調整で、内面は平行線文と青海波文の当て具痕が残る。78の外面は太い平行線文のタタキ調整で、内面は平行線文の当て具痕が残る。79の外面は格子文のタタキ調整で、内面は青海波文の当て具痕が残る。80の外面は格子文のタタキ調整で、内面は青海波文の当て具を使用した後、平行文のあて具を使用している。81の外面は格子文のタタキ調整で横位のナデ消しが施され、内面は平行線文の当て具痕が残る。82~85は胎土や色調で須恵器としたが珠洲の可能性もある。82の外面は平行線文のタタキ調整で、内面はハケ目調整である。83・84の外面は平行線文のタタキ調整で、内面はナデ調整されている。85の外面は平行線文のタタキ調整で、内面はナデ消しされた当て具痕が残る。

#### d 陶磁器 (86~131)

##### ①珠洲 (86~109)

**壺** 86は口縁部である。口縁部は肥厚し、断面形は丸味を帯びた方形である。87は頸部から体部である。頸部外面はナデ調整、体部外面は横位の平行タタキ調整されている。

以下は体部の破片である。88・89の外面は綾杉文タタキ調整、内面はあて具痕がわずかに残り、ナデ調整されている。90の外面は目の深い平行線文タタキ調整、内面はナデ調整されている。91~101の外面は平行線文タタキ調整、内面はナデ調整されている。96~98は粘土の維ぎ目痕が残る。102は底部近くである。外面は平行線文タタキ調整、下部はナデ調整されている。内面はナデ調整されている。103・104は底部である。外面は平行線文タタキ調整、内面はナデ調整されている。

**擂鉢** 105の体部内面には20条単位の擂目があり、口縁部はやや肥厚し、片口が作り出されている。体部はやや丸みを帯びる。13世紀後半のものと思われる。106は口縁部である。体部は直線的に開き内面は8条単位の擂目があり、口縁端部は内傾する面を持つ。14世紀のものと思われる。107は口縁部である。口縁端部は外端で面を取り、さらに内傾する面を持ちクシ目波状文が施されている。15世紀のものと思われる。108は口縁部である。口縁端部は内傾する面を持つ。109は底部である。体部内面には9条単位の擂目があり、底部外面には静止糸切り痕が残る。

##### ②青磁 (110~115)

110は青磁稜花皿である。体部は強く屈曲して開き、口縁部は外反する。口縁部はヘラで波状に加工し、内面に波状文が施される。破断面に漆で接いだ痕がある。15世紀初頭のものと思われる。111は底部である。高台内面まで施釉され、底部内面は釉が輪禿状になっている。112は楕の底部である。断面三角形の削り出し高台で、高台は外側より内面の方が深く削りこまれている。龍泉窯産のものと思われる。13世紀中頃のものと思われる。113は削り出し高台で、底部内面には模様がつけられている。114は楕の底部である。底部には断面方形の高台が削り出され、高台内面はナデ調整されている。115は花瓶である。体部は直立し、肩部で緩やかに屈曲し、頭部基部には飾りが2ヵ所付く。頭部は直立し円筒状で、口縁部は大きく外反して開き、口縁端部は角度を変えて直立し、受け口状となる。国内産の近代のものかと思われる。

#### ③白磁（116）

皿である。断面方形の削り出し高台で、体部は大きく開き、口縁端部は丸い。破断面に漆で接いだ痕がある。11世紀後半から12世紀前半のものかと思われる。

#### ④瀬戸美濃（117～120）

117は折縁皿である。口縁部は折縁状となり、口縁部外面から内面体部にかけて灰釉が漬け掛けされている。鉢の可能性もある。古瀬戸中期に比定され、14世紀のものと思われる。118は縁釉皿である。底部には回転糸切り痕が残り、体部は丸味を帯びる。口縁部には灰釉が漬け掛けされている。古瀬戸中期以降に比定され、14世紀以降のものと思われる。119は大皿の脚部である。内面には鉢目が施され、破断面に漆で接いだ痕がある。古瀬戸後期に比定され、15世紀のものと思われる。120は縁釉皿である。体部は内外面ともに回転ナデ調整である。口縁部には灰釉が漬け掛けされている。古瀬戸後期に比定され、15世紀のものと思われる。

#### ⑤中世陶器（121～124）

121は擂鉢である。口縁端部の断面方形である。体部は内外面ともに回転ナデ調整である。15世紀前半の珠洲である可能性がある。122の口縁端部は内傾する面を持ち、凹みが一条巡る。15世紀後半の珠洲である可能性がある。123は擂鉢の底部である。体部の下部はヘラケズリされている。内面は使用のため摩滅し、わずかに掘目が残る。焼成は悪い。珠洲である可能性がある。124は越前の擂鉢の口縁である。口縁端部は内傾する面を持つ。15世紀後半のものと思われる。

#### ⑥桜山陶器・近世陶器（125～130）

125は擂鉢である。内面に擂目がつけられている。中世陶器の可能性もある。126は楕である。底部は回転ヘラケズリ後、中央を内反り高台状に削り出している。体部は途中で屈曲し開く。長石釉が施釉され、底部内外面にトチ痕3箇所ずつが残る。近世に属するかと思われる。127は底部を浅く削り込み高台を作り出している。近世に属するかと思われる。128は茶入の可能性があるが器種不明のものである。底部は平坦で、体部は丸みを帯びる。体部内外面に鉄釉が施釉されている。底部は回転糸切り痕が残り、体部はロクロナデ調整されている。129の底部は回転ヘラケズリ後、中央を内反り高台状に削り出している。釉は不明である。近世に属するかと思われる。130は壺の頭部である。内外面に鎧釉が施釉され、外面は斜位のタタキ調整後ナデ調整されている。

#### ⑦磁器（131）

楕である。断面方形の高台が削り出されている。

### 3) 土製品・石製品・錢貨

#### a 土製品（132・133）

土鍤 1点出土している。132は管状で、両端が破損している。直径0.5cmの孔が中央にあけられている。古代のものかと思われる。

繩羽口 1点出土している。133は非常に硬く焼き締り、外面は熔融ガラス化している。また、破断面も同様にガラス化している。

#### b 石製品（134・136～141）

石臼 1点出土している。134の残存率は非常に悪い。直径1.4cmの孔が確認できるため、上臼と推定

される。

**砥石** 136は流紋岩製の中砥石である。長方形をしており、断面形は長方形である。短辺側の1面は破断しており、もう一方の面と長辺側の4面を使用している。137は安山岩製の中砥石である。背の高い台形状で、断面形は方形である。短辺側の1面は破断しており、もう一方の面と長辺側の4面を使用している。138は仕上げ砥である。背の高い台形状で、断面形は方形である。短辺側の1面は破断しており、またもう一方の面は切り出した時の条痕が残る。長辺側の4面は使用されている。137・138は中央に向かつて細くなる形態をしており、鎌研ぎ用であったと思われる。139は安山岩製の中砥石である。長方形をしており、断面形は長方形である。短辺側の2面は破断しており、長辺側の4面は使用されている。140は安山岩製の中砥石である。長方形で、断面形は方形である。短辺側の1面は破断しており、もう一方の面と長辺側の3面を使用している。長辺側の残りの1面は切り出し時の加工痕が残る。141は珠洲の渡口縁部を転用した中砥石である。方形をしており、断面形は長方形に近い。6面のうち、1面は破断しており、残り5面のうち1面はほとんど使用していない。残る使用された4面のうち2面には、条痕が数条観察される。

#### c 銭貨 (135)

元豊通寶で、(北宋、1078年初鋤)である。摩滅しており判然としないが、中国銭と比較すると渾縁でやや「元」と「寶」の書体が崩れているところなどから、中世以降の私鋤銭である可能性がある。他に、寛永通寶が1点出土している。遺存状態が悪く、図化はしていない。

#### 4) 木製品 (142~178)

木製品は全て遺構から出土している。

##### a 日用品 (142~155)

**棒類** 142・143は棒状で、断面は四角形を呈する。箸であると思われる。途中で折れているが、これが廢棄される際に折れていたものであれば祭祀に使用した可能性も否定できない。144は棒状で、断面は面取りをした四角形を呈する。

**曲物** 145・146は曲物の底板である。145は長径9.2cm、短径8.5cmとやや梢円形である。146は直径9.4cmの円形で、側面には側板を固定するための木釘孔があり、いくつかの孔には木釘が残る。厚さは共に0.7cmである。

**桶** 147は桶の柄の部分である。板状で台形に加工され、幅の広い側に長方形の孔が穿たれている。板の上面はやや丸味があり、下面是平坦である。厚さは1.2cmである。木取りは極目である。

**板** 148~155は板の破片である。厚さは、0.2~0.4cmと薄い。149・151~153の片面、155の両面には刀子や包丁などによると思われる刃物痕が無数に残っている。また板として転用した可能性が考えられる。151と152は同一固体の可能性がある。154の片側面の一部には焼け焦げた痕がある。155の先端近くに直径0.2cmの丸釘孔が、板の中ほどに0.3cm四方の方形の孔が穿たれている。

##### b 部材 (156~178)

**杭** 156は2区のSD-63からの出土である。樹種はクリである。先端を尖らせている。

**柱根** 柱根は下端を大きく2方向から削り尖らせているもの【A1類】(158・159・161・163)、

多方向から削り丸みを帯びた面をつくるもの【A2類】(160・174・177)、鋸で横挽き切断したもの【B類】(166～170・173～176・178)がある。樹種が判明した22本の内訳は、クリ15本、スギ4本、ウルシ2本、カキノキ属1本であった。以下、出土区順に説明する。

157は2区・SK-35からの出土である。樹種はクリである。遺存状態が非常に悪く、加工痕は不明である。

158は2区・SKp-172からの出土である。樹種はクリである。下端は杭のように尖らせているが、明確な削り痕は認められない。

159は3区・SKp-178からの出土である。樹種はクリである。側面には $2 \times 4$ cm角の穴が1ヵ所穿たれている。下端は大きくなれば2方向から削り出し、2面を有するように尖らせている。

160は3区・SKp-215からの出土である。遺存状態が悪く、下端の一部が残るのみであったが、大きな面を作るよう方向から削られている痕がある。

161は4区・SKp-316からの出土である。樹種はクリである。下端は大きくなれば2方向から削り出し、2面を有するように尖らせている。

162は4区・SKp-335からの出土である。樹種はウルシである。下端は残存しておらず、加工痕は不明である。

163は4区・SK-344からの出土である。樹種はカキノキ属である。下端に近い側面には、整形するためか削られた痕があり、一部大きく削り込んでいる箇所から折れている。下端は大きくなれば2方向から削り出し、2面を有するように尖らせている。

164は4区・SKp-322からの出土である。樹種はクリである。遺存状態が非常に悪く、加工痕は不明である。

165は4区・SKp-347からの出土である。樹種はクリである。遺存状態が非常に悪く、加工痕は不明である。

166は4区・SKp-308からの出土である。樹種はクリである。下端は鋸挽きであるが、部分的に細かく削られている痕がある。

167は5区・SKp-430からの出土である。樹種はスギである。下端は鋸挽きである。

168は5区・SKp-431からの出土である。樹種はウルシである。下端は鋸挽きであるが、斜め方向に挽かれており、最後は反対側から下端に向かって切り出している痕が残る。

169は5区・SKp-432からの出土である。樹種はスギである。下端は鋸挽きである。

170は5区・SKp-356からの出土である。樹種はスギである。下端は鋸挽きである。

171は5区・SKp-368からの出土である。樹種はクリである。芯去り材で作られている。下端は2面を有するため、おそらく2方向からの鋸挽きである。

172は5区・SKp-378からの出土である。樹種はクリである。

173は5区・SKp-398からの出土である。樹種はスギである。下端は鋸挽きである。

174は5区・SKp-390からの出土である。樹種はクリである。芯去り材で作られており、断面は半月状になる。下端に近い側面の曲面側に、上端下端両方向から削り込んで幅6cmの凹みを作り、下端に最も近い側面も削って整形をしている。下端は多方向から削り面を作っている。

175はSKp-399からの出土である。樹種はクリである。下端に近い側面の一部に、鎌等で面取り整形をしている。下端は鋸挽きである。

176は5区・SKp-402からの出土である。僅かに樹皮が残存している。樹種はクリである。下端は鋸

挽きである。

177は5区・SKp-403からの出土である。樹種はクリである。下端に近い側面のほぼ全面を鏝等で面取り整形をしている。下端は多方向から削り大きくな3面を有し、僅かに尖らせている。

178は5区・SKp-413からの出土である。樹種はクリである。芯去り材で作られている。下端は鋸挽きである。

第3表 遺物観察表

番号	出土地	出土遺物	種類	断面	口径(cm)	底径(cm)	深さ(cm)	成形・調整等	色調	被成	出土	備考
1	A - 3		柳生土器	高杯					淡黄褐色	不良	絹目	
2	A - 7	SD - 63	柳生土器	壺・甌?	6.8			にぶい黒	不良	良	2mm程度の繊を含む 熱加工皮面剥離	
3	A - 12	SK - 294	柳生土器	壺・甌?	6.7			淡黄褐色	良	細	5mm程度の角縁を含む	
4	A - 4		土器器	高杯				黒・淡黄褐色	不良	絹目		
5	A - 9	SD - 61	土器器	高杯				淡黄褐色	良	良	2mm程度の細かい砂粒を含む	
6	A - 7	SK - 171	土器器	高杯	9.1			にぶい黒	不良	絹目		
7	A - 5		土器器	甌	4.7			淡黄褐色	不良	絹目		
8	A - 7		土器器	甌・壺?	5.6			淡黄褐色	不良	絹目		
9	A - 9	SD - 72	土器器	甌	4.2			灰白	良	良	3mm程度の円錐を含む	
10	A - 7	SD - 65	土器器	高杯	10.8			にぶい黒	不良	良	1mm程度の繊を含む	
11	A - 16	SD - 366 (黒色土器)	土器器	無台輪				淡黄褐色	良	良		
12	A - 16	SD - 366 (黒色土器)	土器器	無台輪				灰白	不良	良	1mm程度の繊を含む	
13	A - 16	SD - 305	土器器	無台輪				にぶい黒	良	良		
14	A - 16	SD - 206	土器器	無台輪				灰白	良	良	1mm程度の繊を含む	
15	A - 16	SD - 205	土器器	無台輪	12.8			黒	良	良		
16	A - 16	SD - 206 (黒色土器)	土器器	無台輪				にぶい黒	良	良		
17	A - 11		土器器	無台輪				灰白	不良	良	1mm程度の繊を含む	
18	A - 15		土器器	無台輪	5.2			外:ヘラケズリ 内:ハラミガニ 底部外輪丸切	にぶい黒	良	1mm程度の繊を含む	
19	A - 16	SD - 305 (黒色土器)	土器器	無台輪	6.2			底部丸切	淡黄褐色	良	1mm程度の繊を含む	
20	A - 16	SD - 306	土器器	無台輪	6.0			にぶい黒	良	良		
21	A - 8	SD - 142	土器器	無台輪	5.0			底部回転丸切	灰白	良	1mm程度の繊を含む	
22	A - 16	SD - 306 (黒色土器)	土器器	無台輪	3.0			底部丸切	黒	良	底部外輪に墨書き	
23	A - 16	SD - 306	土器器	無台輪	4.8			底部丸切	黒	不良	絹目	
24	A - 16	SD - 206	土器器	無台輪	6.9			底部回転丸切	淡黄褐色	良	良	
25	A - 16	SD - 306	土器器	無台輪	8.0			底部回転丸切	灰白	不良	1mm程度の繊を含む	
26	A - 16	SD - 306 (黒色土器)	土器器	無台輪	13.2	6.6	4.2	底部回転丸切	黒	良	6mm程度の角縁を含む	
27	A - 16	SD - 206 (黒色土器)	土器器	無台輪	7.8			底部回転丸切	にぶい黒	良	絹目	
28	A - 16	SD - 206 (黒色土器)	土器器	無台輪	15.8	7.5	5.6	外: ヘラケズリ 内: 底部外輪丸切	黒	良	底部外輪に擦刻	
29	A - 16	SD - 206 (黒色土器)	土器器	無台輪	13.2	5.2	4.3	底部丸切	にぶい黒	良	1mm程度の円錐を含む	
30	A - 16	SD - 206 (黒色土器)	土器器	無台輪	13.6	5.5	4.1	底部外輪丸切	淡黄褐色	良	2mm程度の繊を含む	
31	A - 17	SK - 429	土器器	柾(?)	14.8	7.0	5.7	外: 粗毛板 底部外輪丸切・柱状高台	にぶい黒	良		
32	A - 7	SD - 63	土器器	柾	12.8			黒	良	絹目		
33	A - 7		内黑色土器	柾				外: ヘラケズリ 内: 内部修理跡ヘラミガニ	にぶい黒	良	良	
34	A - 16	SD - 306	内黑色土器	柾				内: ヘラミガニ	黒褐色・灰白	良		
35	A - 16	SD - 306 (黒色土器)	土器器	甌?				ヨコナデ	灰白	良	1mm程度の繊を含む	
36	A - 8 - 7		土器器	甌				ヨコナデ	淡黄褐色	良	2mm程度の角縁を含む	
37	A - 16	SD - 306	土器器	甌	13.4			回転ナデ	にぶい黒	良	絹目	
38	A - 2	SK - 1	土器器	甌?				外: タタハケ 内: ヨコナデ	灰白	不良	4mm程度の円錐を含む 外端スス付着	
39	A - 13	SKd - 233	土器器	甌				外: タタハケ・タタハケ 内: ヨコナデ	灰白	良	0.5mm程度の円錐を含む	
40	A - 12	SK - 292	土器器	甌				外: 平行線文	にぶい黒	不良	2mm程度の角縁を含む	
41	A - 16	SD - 306 (黒色土器)	土器器	甌				外: 平行線文	淡黄褐色	良	絹目	
42	A - 16	SD - 306	土器器	甌				外: 平行線文 内: 平行線文	淡黄褐色	良	良	
43	A - 12	SKd - 192	中井土器器	小瓶	8.6	7.0	1.5	淡黄・にぶい黒	良	良		
44	A - 7	SD - 63	中井土器器	小瓶	7.4	5.3	1.9	にぶい黒	不良	絹目		
45	A - 9	SK - 84	中井土器器	大瓶				ヨコナデ	灰白	良	0.5mm程度の角縁を含む	
46	A - 16	SD - 306 (黒色土器)	酒器器	杯蓋				ヘラケズリ	黒	良	1mm程度の繊を含む 小泡混在	
47	A - 14		酒器器	杯蓋	14.8			ヨコナデ	灰白	良	1mm程度の繊を含む 小泡混在	
48	A - 16	SD - 306 (黒色土器)	酒器器	杯蓋	16.4			ヨコナデ	灰白	良	1mm程度の繊を含む 小泡混在	
49	A - 16	SD - 306 (黒色土器)	酒器器	杯				ヨコナデ	灰白	良	良	

番号	出土区	出土遺構	種類	層位	口徑(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	成形・開削 等	色 調	構成	胎土	備 考
50	A - 7	SD - 93	須恵器	杯			3.5		灰	良	良	
51	A - 6・7		須恵器	無台杯					灰白	良	良	1mm程度の角瘤を含む
52	A - 16	SD - 306	須恵器	無台杯	12.9	9.2	3.2	ヘラケズリ	灰	精良	精良	小泊窯
53	A - 16	SD - 306	(尾上土器)	無台杯	13.6	8.0	3.0	船上型細底	青灰	良	良	3mm程度の縫を含む 小泊窯
54	A - 7	SD - 63	須恵器	無台杯			4.2	底部ヘラオコシ	灰	精良	良	1mm程度の円錐を含む
55	A - 11		須恵器	無台杯			7.2	底部ヘラオコシ	灰	良	精良	
56	A - 16	SD - 306	須恵器	無台杯	10.6	8.6	3.4	底部ヘラオコシ	灰灰	良	精良	小泊窯
57	A - 4・5		須恵器	有台杯			11.5	船付式高台	灰白	良	良	2mm程度の縫を含む
58	A - 7		須恵器	有台杯			7.4	船付式高台	灰	良	良	
59	A - 13		須恵器	有台杯			7.8	船付式高台	灰白	良	良	
60	A - 16	SD - 306 (砂利付)	須恵器	盞			4.5	外:カヌメ	灰	良	良	
61	A - 14		須恵器	盞?					暗青灰	良	精良	
62	A - 11	SD - 279	須恵器	盞					灰	良	精良	
63	A - 17	SK - 429	須恵器	盞				ヨコナデ・ヘラケズリ	灰	良	良	1mm程度の円錐を含む
64	A - 7	SD - 63	須恵器	盞				外:平行縦文 内:青釉灰文	灰	良	精良	
65	A - 9	SK - 95	須恵器	盞?				外:平行縦文後側方勾矢文 内:青釉灰文	灰・暗灰	良	精良	
66	A - 8	SKp - 143	須恵器	盞			30.0		灰	良	精良	自然釉
67	A - 11	SD - 279	須恵器	楕瓶?				外:側面方勾矢文	灰白	良	良	外側に斜片付帯
68	A - 16	SD - 306	須恵器	盞・盞?					灰	良	良	自然釉
69	A - 16	SD - 306	須恵器	盞					灰	良	良	0.5mm程度の円錐を含む
70	A - 16	SD - 306	須恵器	盞・盞?			24.0		灰	良	良	0.5mm程度の円錐を含む
71	A - 7	SD - 63	須恵器	甕・盞?				外:平行縦文後側方勾矢文 内:斜片底	灰	良	精良	
72	A - 9	SKp - 161	須恵器	甕				外:平行縦文後側方勾矢文	灰灰	良	良	
73	A - 16	SD - 306	須恵器	甕・甕?				内:平行縦文	灰	良	精良	
74	A - 16	SD - 306 (砂質土器)	須恵器	甕				外:平行縦文 内:管跡灰文	灰	良	精良	
75	A - 16	SD - 306 (尾上土器)	須恵器	甕				外:平行縦文 内:青釉灰文	灰	良	良	自然釉:暗灰色
76	A - 14	SK - 345	須恵器	甕				外:平行縦文 内:青釉灰文	黄灰	良	良	3mm程度の円錐を含む
77	A - 16	SD - 306	須恵器	甕				外:格子文 内:平行縦文・青釉灰文	灰	良	良	2mm程度の縫を含む
78	A - 9	SE - 72	須恵器	甕				外:平行縦文 内:平行縦文	灰	精良	精良	自然釉
79	A - 16	SD - 306	須恵器	甕				外:格子文 内:青釉灰文	灰	良	良	1mm程度の縫を含む
80	A - 18・ 19		須恵器	甕				外:格子文 内:平行縦文	灰	良	良	調査区外出土
81	A - 15		須恵器	甕				外:格子文・横・条ナメ剥離 内:平行縦文	灰	良	良	2mm程度の円錐を含む
82	A - 16	SD - 306	須恵器	甕				外:平行縦文 内:直線・凹凸・ハナキ	灰	良	良	2mm程度の円錐を含む
83	A - 16	SD - 306	須恵器	甕?				外:平行縦文 内:平行縦文	灰	良	良	
84	A - 16	SD - 306	須恵器	甕				外:平行縦文	暗灰	良	良	4mm程度の円錐を含む
85	A - 11	(SKp - 161?)	須恵器	甕				外:平行縦文 内:直・具痕・一部ナメ剥離	灰白	良	良	
86	A - 9	SK - 72	須恵器	甕				外:平行縦文・ヨコナデ 内:斜片底	黄灰	良	粗	穢を含む 自然釉:灰白
87	A - 11		須恵器	甕				外:ヨコナデ・平行縦文	灰	良	良	1mm程度の縫を含む
88	A - 9	SK - 92	須恵器	甕				外:縫跡文	暗灰	良	精良	
89	A - 12		須恵器	甕				外:縫跡文	暗青灰	良	良	
90	A - 7	SK - 171	須恵器	甕?				外:平行縦文	灰	良	良	1mm程度の縫を含む 自然釉:黒
91	A - 16	SD - 306	須恵器	甕				外:平行縦文	灰	良	良	0.5mm程度の円錐を含む
92	A - 12	SK - 219	須恵器	甕				外:平行縦文	灰	精良	精良	
93	A - 16	SD - 306	須恵器?	甕				外:平行縦文	灰	良	精良	
94	A - 6・7		須恵器	甕				外:平行縦文	灰	良	良	3mm程度の角瘤を含む
95	A - 6		須恵器	甕				外:平行縦文	灰	良	良	3mm程度の円錐を含む
96	A - 7	SD - 63	須恵器	甕				外:平行縦文 内:黏土ギザ	灰	精良	良	
97	A - 11	SD - 279	須恵器	甕				外:平行縦文 内:黏土ギザ	灰	良	良	2mm程度の円錐を含む
98	A - 12	SK - 181	須恵器	甕				外:ヨコカクエ・平行縦文	灰	良	良	2mm程度の円錐を含む
99	A - 7	SD - 63	須恵器	甕				外:平行縦文	灰	精良	良	0.5mm程度の円錐を含む
100	A - 7		須恵器	甕				外:平行縦文	灰	粗	粗	縫を含む 外面スリット
101	A - 9	SK - 92	須恵器	甕				外:平行縦文 内:粘土粗底	灰	良	良	3mmの程度の角瘤を含む
102	A - 16	SD - 306	須恵器?	甕				外:平行縦文・ヨコナデ	灰	良	良	1.1mm程度の円錐を含む
103	A - 11	SD - 279	須恵器	甕				外:平行縦文	暗灰	良	良	2mm程度の縫を含む
104	A - 13	SD - 245	須恵器	甕				外:平行縦文	灰	良	良	1mm程度の縫を含む
105	A - 9	SK - 263	須恵器	矧跡	29.6			内:骨ナメ	灰白	良	良	
106	A - 16	SD - 306	須恵器	矧跡				外:平行縦文	灰白	良	良	3mm程度の角瘤を含む
107	A - 7	SD - 63	須恵器	矧跡				内:骨ナメ	灰白	良	良	
108	A - 9	SKp - 113	須恵器	矧跡				外:平行縦文	灰	良	良	
109	A - 7		須恵器	矧跡			9.6	内:スリヌ 底部無足切	青灰	良	良	
110	A - 11		須恵器	矧跡			19.6	内:骨内曲ウシリ底灰文	灰白	粗	粗	波紋口縁・カルシ壁白斑

番号	出土区	出土遺構	種類	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	成形・調整 等	色調	地成	胎土	備考
111	A - 8		青磁	棒	4.6				灰白	良	細目	施: 明暦灰
112	A - 12		青磁	棒	4.0				灰白	良	細目	施: 深紅紫灰
113	A - 16	SD - 306	青磁	棒	5.0				灰	良	細目	施: オリーブ灰
114	A - 9		青磁	棒	5.2			底部へラケズリ・ナデ	明暦リープ灰	良	細目	施: オリーブ灰
115	A - 17	SD - 433	青磁	花瓶	6.0				灰白	良	細目	施: オリーブ灰
116	A - 7	SD - 63	白磁	小鉢	10.2	4.0	2.5	ラケズリ	青灰	良	細目	施: オリーブ灰
117	A - 16	SD - 306	瀬戸美濃	皿					にぶい赤褐	良	食	施: 錆灰
118	A - 16	SD - 306	瀬戸美濃	皿	10.6	5.2	2.3	底部魚型	灰	良	食	施: オリーブ灰
119	A - 11		瀬戸美濃	鉢?				内: オロシマ 底部附付ノ脚・押押し痕	灰白	良	細目	施: ワルシ接合痕
120	A - 9		瀬戸美濃	皿	12.6			外: ヘラケズリ 内: ロカリナデ	灰白	良	細目	施: 灰白
121	A - 12		青磁	棒鉢				内: スリメ	灰白	良	良	
122	A - 14	SK - 345	青磁	棒鉢				スリメ	灰白	良	良	1mm程度の角巻を含む
123	A - 16	SD - 206	青磁	棒鉢				底部ヘラケズリ	灰	不良	良	
124	A - 12	SK - 177	青磁(透窓)	棒鉢				スリメ	明赤褐	良	良	2mm程度の巻を含む
125	A - 12		青磁	棒鉢				スリメ	明赤褐	良	良	
126	A - 16	SD - 506	青磁	棒	4.5			削: 高台	明赤褐	良	細目	
127	A - 16	(9年利)	SD - 306	青磁	棒?	5.3			他	良	1mm程度の内巻含む	スヌ付番
128	A - 9	SKp - 73	青磁	茶入?				底部魚型	青灰	良	細目	施物: 茶
129	A - 17	SD - 433	青磁	棒?				内: にぶい赤褐	青灰	良	日赤種: 灰白	
130	A - 11		青磁	皿				外: 右上がリタタキ 内: 当コナデ・ヨピオサエ	灰	良	鐵錫	
131	A - 17	SD - 433	磁器	小鉢	8.0	3.8	8.0		灰白	良	細目	施: 灰白
132	A - 8		土製品	木綿					灰白	良	細目	
133	A - 16	SKp - 174	土製品	繩目付?					灰白	良	日赤種: 黑色・オリーブ灰	内巻赤化
134	A - 8	SD - 5	石製品	臼				底 14cm の穿孔	黒			
135	A - 9		金属製品	鍍金								古墳時代: 黑色・オリーブ灰
136	A - 9	SD - 62	石製品	鍛石								元豐通宝
137	A - 12	SKp - 218	石製品	鍛石								後光緒年 中國石
138	A - 9	SE - 72	石製品	鍛石								宋山岩質 中國石
139	A - 12	SK - 178	石製品	鍛石								宋山岩質 中國石
140	A - 17	SD - 433	石製品	鍛石								宋山岩質 中國石・やや黒
141	A - 11		石製品	鍛石								後漢建和年 中國石

番号	出土区	出土遺構	種類	分類	保存高 (cm)	底保存 (cm)	幅 (cm)	本 取り	備 考
142	A - 13	SK - 223	木製品	第?	10.9	0.6	0.4		側面に木打痕残る
143	A - 13	SK - 223	木製品	第?	19.2	0.7	0.3		2.7 × 1 cm の長方形孔あり
144	A - 9	SE - 130	木製品	棒	21.9	1.3	0.8	削日	
145	A - 9	SK - 92	木製品	物持		9.2	0.7	削日	
146	A - 9	SE - 72	木製品	物持		9.4	0.7	削日	側面に木打痕残る
147	A - 9	SE - 139	木製品	棒	31.3	8.1	1.2	削日	
148	A - 9	SE - 139	木製品	板	6.6	1.5	0.4	削日	
149	A - 9	SE - 139	木製品	板	7.9	(2.5)	0.2	削日	片面に刃物痕
150	A - 9	SE - 72	木製品	板	13.5	(1.7)	0.2	削日	
151	A - 9	SE - 72	木製品	板	9.8	(4.7)	0.4	削日	片面に刃物痕
152	A - 9	SE - 72	木製品	板	16.0	(2.0)	0.3	削日	片面に刃物痕
153	A - 9	SE - 72	木製品	板	22.1	(2.0)	0.3	削日	片面に刃物痕
154	A - 9	SE - 72	木製品	板	34.2	(4.1)	0.3	削日	
155	A - 9	SE - 139	木製品	板	25.7	3.4	0.4	削日	径 2 mm の剝離あり 平面に刃物痕

番号	出土区	出土遺構	種類	分類	保存高 (cm)	底保存 (cm)	幅 (cm)	本 取り	備 考
156	A - 7	SD - 63	木製品	板	56.1	9.6	3.0	芯持ち	クリ材
157	A - 9	SK - 35	木製品	棒	27.0	15.2	5.0	芯持ち	クリ材
158	A - 10	SKp - 172	木製品	棒	44.2	12.6	4.0	芯持ち	クリ材
159	A - 12	SKp - 178	木製品	棒	43.2	14.0	4.0	芯持ち	クリ材
160	A - 12	SKp - 215	木製品	板				芯持ち	クリ材
161	A - 13	SKp - 316	木製品	棒	31.6	15.1	5.0	芯持ち	クリ材
162	A - 13	SKp - 335	木製品	棒	33.3	12.4	4.0	芯持ち	ウルシ材
163	A - 14	SK - 341	木製品	棒	33.6	13.6	4.5	芯持ち	カキノキ材
164	A - 14	SKp - 322	木製品	棒	18.6	22.3	7.5	芯持ち	クリ材
165	A - 14	SKp - 347	木製品	棒	19.0	14.8	5.0	芯持り?	クリ材
166	A - 14	SKp - 205	木製品	棒	37.2	21.8	7.0	芯持ち	クリ材
167	A - 17	SKp - 430	木製品	棒	26.7	18.4	6.0	芯持ち	スギ材
168	A - 17	SKp - 431	木製品	棒	32.2	22.8	8.0	芯持ち	ウルシ材
169	A - 17	SKp - 432	木製品	棒	43.8	16.0	5.0	芯持ち	スギ材
170	A - 18	SKp - 356	木製品	棒	46.0	17.6	6.0	芯持ち	スギ材
171	A - 19	SKp - 368	木製品	棒	36.6	15.6	5.0	芯持り	クリ材
172	A - 19	SKp - 378	木製品	棒	27.5	17.5	6.0	本明	クリ材
173	A - 19	SKp - 396	木製品	棒	37.5	18.2	6.0	芯持ち	スギ材
174	A - 19	SKp - 290	木製品	棒	44.6	18.1	6.0	芯持ち	クリ材
175	A - 19	SKp - 399	木製品	棒	40.7	21.4	7.0	芯持ち	クリ材
176	A - 19	SKp - 402	木製品	棒	37.6	18.6	6.0	芯持ち	クリ材
177	A - 19	SKp - 403	木製品	棒	42.1	21.4	7.0	芯持り?	クリ材
178	A - 19	SKp - 413	木製品	棒	42.2	14.0	4.5	芯持り	クリ材

## V まとめ

**発掘成果総論** 今回の調査において、2～5区は遺構の残存状況がよく、土坑、井戸、柱穴、溝が検出された。これらは集落の痕跡として判断することができよう。遺構の密度が高くなる地区は密度の低い地区に比べ、遺構の検出面である地山が30～60cm程高くなっている。このため、これまでの調査で想定されていたように、古代から中世の集落遺跡が丘陵から平地に移る途中の緩斜面の微高地上に、一定の範囲で広がっていると考えられる。

調査区を概観すると、本調査区の北端にあたる1区は、遺物包含層から古式土師器を中心とした遺物が出土したが、その時期と推定される遺構はほとんど確認されなかった。2区の北端で確認したSD-2は自然流路と考えられるが、北側に遺構がほとんど認められておらず、そのためそれより南に広がる集落の境界の役割を持っていた可能性がある。4・5区の大溝SD-306は、上流にある入田池から吉井水上地区的集落内に続く、幅1m程の現存する水路の前身であると考えられる。現在はこの水路は、周辺平野の農業用水として活用されている。5区からは、柱穴やピットが一定範囲でまとまって検出されており、またクリ・スギ・ウルシなどを使用した遺存状態のよい柱根も十数本確認しているが、ほとんどの柱根の切断が鋸挽きであることから、明治以降の柱が残っているものと考える。5区及び6区の遺物包含層は、5区以北の調査区では確認されていない灰色土が主体である。灰色土からは遺物の出土量は少ないと、珠洲等中世の遺物を含んでおり、その前後の遺物は含まれていない。このことから灰色土は、中世に形成されたものと考えられ、SD-306以南に集落が発達したのは中世でも15世紀以降の可能性がある。6区は1区と同様遺構の密度が低く、遺物の出土量も比較的少なかった。遺構検出面の地形から見て、集落の中心から外れた部分の可能性が高い。

遺物についてみると、包含層や遺構内からは、層位的な堆積はみられず、土師器や須恵器、陶器など古代から中世までの遺物が混在して出土している。出土量の多い土師器及び須恵器は、9世紀後半～10世紀前半に属するものが中心であり、次に多い珠洲・青磁など中世陶磁器は15世紀代のものが中心である。また、12世紀後半から13世紀代に属する中世土師器や陶磁器の出土は、前後の時期に比べ明らかに少量であった。

こうした遺構と遺物から、吉井水上遺跡群は平安時代前期と室町時代の二時期に主体をもった集落遺跡であると評価できる。

**柱穴・土坑** 1,000m余りの調査範囲内で検出した柱穴及びピットの総数は366基であった。これら柱穴やピットを、柏崎市内の角田遺跡・宮之下遺跡群で考察されている事例から鑑みると、単純計算で近世以前に40～60棟かそれ以上の掘建柱建物が存在していたことになる。ただその中には、明治以降の鋸挽きの痕を残す柱根もあり、その数はこれよりも少なく変化するであろう。とは言え、集落全体の規模がどの程度であったかにせよ、長期的に存続した集落であったことは間違いない。

遺構が集中する範囲で特徴的な遺構として、平面形が方形または長方形に近い土坑がある。全部で5基あり、SK-19（深さ91cm）、SK-95（深さ98cm）、SK-171（深さ104cm）・SK-236（深さ80cm）、SK-242（深さ104cm）がそれに該当する。平面規模は長軸が0.6m～1mで、検出面（地山・青灰色砂質土）

からは全て1m前後の深さがある。平面形も掘り込み方も整うなど共通し、埋土の状況も腐植物を含むなど似通っていることから、同時期に同じ目的で掘られたものと推察できる。出土遺物は比較的小量の小破片で、須恵器から珠洲までと所属時期も幅があるため、掘削時期は断定できない。また、小破片であることから遺物は埋土の中に混じりこんだものである可能性もある。遺構の機能の可能性としては、中世の廐棄土坑、貯蔵穴、素掘りの井戸、トイレ遺構などが考えられるが断定はできない。

**大溝SD-306** SD-306は、現在吉井水上地区の集落内を流れる4区、5区の間にある幅1m程の水路と同方向であり、過去の流路の範囲と重複する。またSD-306の縁辺には遺構が少ないとから、ある時期に大溝が埋没しその上に遺構が形成されるようなことがなく、溝幅の中で多少流路の移動があつたとしても、ここ的基本地形が開削時から今日まで大きく変動していないことを示している。

SD-306の時期については、最下層の黒色土層から出土した遺物が、概ね9世紀後半から10世紀初頭の土師器と須恵器であることと、これら遺物の時間幅がそう大きくなく、二次的な堆積、混じりなどのないことから判断して、9世紀後半頃には機能していたのではないかと推察される。溝内の堆積状況は砂層と粘土層が30層以上にわたって互層になっており、淀みなく水が流れている様子が理解できる。この大溝が、自然流路であったか人工的に掘削した水路かは調査範囲内の知見では判断しかねるが、溝の側面に近い土層から中世以前の遺物が出土するに対し、溝のほぼ中心に位置する砂層の比較的下層から近世以降の遺物が出土など、明らかに溝が改修されて使用されたことが窺える。

このような発掘調査の知見と地形を基にしてSD-306の役割を推定すると、本遺跡の北東の谷に水源を発する、比較的自然地形に沿った灌漑用水路ではなかったかと考えられる。丘陵沿いの緩斜面に立地する本遺跡周辺の集落では、河川からの灌漑はなされておらず、現に谷の半ばには入田池が築かれて水田の用水を確保している。こうした状況は、古島敏雄氏によって古代・中世の安定した水田形態として提唱されてきた、谷の湧水のような安定水源を利用した谷水田が、平安時代以来連続としてこの地域を潤してきたことを示している。ただ、遺構や遺物の出土状況などから、SD-306を挟んで谷口に近い東側よりも、西側に見られることは、谷水の利用は湧水点に近いほど水温も低く、水田で利用するためにはある区間流れで暖められ、水温の上昇を待たねばならず、そうしたこととも関係するのかもしれない。

本遺跡の継続性が確認されるのは平安時代前期の9世紀後半からであり、SD-306もその時期より当地域で本格的な水田開発がなされるのに際して、自然流路の改修や整備によって形成された可能性がある。位置的には「吉井水上」の地名に示されているように、灌漑用水ののど元にあたり、この地の集落が重視されたことはいうまでもなく、今回の調査では出土遺物のなかで、数少ない墨書きのある平安時代前期の土器がSD-306より出土したことは、遺物の出土状況や遺物自体の状態から遠距離動いたものではないことも合わせて考えると、水の管理を行なった識字層のこの集落の有力者の家か、あるいは水利を管理する施設のようなものがSD-306の水路近くに所在していたことを暗示しているかのようである。

**木製品** 本調査においては遺存状態のよい木製品が、特定の遺構から見つかっている。SE-72やSE-130からは曲物・桶・薄い板材などが出土している。SE-72は供伴する珠洲とやや楕円形に歪んだ曲物の底板の形状から、中世後期かそれ以降に属すると考えられる。また出土した板には、刀子や包丁などによるとと思われる刃物痕が無数に残っており、二次的な使用が認められる。

柱根に関しては、製材の加工方法から大きくA、B二つに分類した。A類は斧などで伐採して、鎌などで成形したもので、B類は鎌で横挽き切断したものである。A類の柱根は、年代を特定することはできなかったが、出土した遺物などから推定して、平安時代前期の9世紀後半以降から中世までの時期を考えら

れ、B類の鋸挽きのものについては、鋸の普及から考えて明治以降のものと考えられる。B類はほとんどが5区からの出土である。

また、柱根の樹種は22本が判明しており、内訳はクリ15本、スギ4本、ウルシ2本、カキノキ属1本である。A、B両類ともクリが多いが、スギはB類に限定され全て5区からの出土である。柱の太さはA類が径4寸～7寸の間に平均的にばらついているのに対し、B類は6寸前後に集中しており(第4表)ある程度の規格性が認められよう。しかしB類の中には、幹から小枝が突出したままのものや下端を鋸で斜めに荒く切断したものがあり、製材加工の面では粗雑である。古代から近代までクリの割合が高いことは、遠隔地から運ばれたものでないとするならば、この辺りが繩文時代から続いているであろう植生を、少なくとも近代のある時期まで残していたことを示している。そうしてみると、B類に限定されるスギは、当地域の植生とは関係なく、商品として運ばれてきたものであろう。また、ウルシやカキノキ属の材が使用されていることについては、特にそれらの樹種を必要として使用しているわけではなく、近隣の丘陵山地から間に合わせに使った建築用部材として調達していたことを推察させるものである。

	出 土 区				樹 种				径 (寸)								
	2区	3区	4区	5区	クリ	スギ	ウルシ	カキノキ	不明	4	4.5	5	6	7	7.5	8	不明
A 1類	1	1	2		3			1		2	1	1					
A 2類		1		2	2				1				1	1			1
B 類			1	9	5	4	1				1	2	4	2		1	
不 明	1		3	1	4		1			1		2	1		1		

第4表 柱根分類表

**集落の動態** 出土遺物から推察すると、本遺跡群は12世紀後半から13世紀代の古代末期から中世前期に空白期間がみられる。この空白期間の存在は集落の一時的な衰退によるものか、当該調査範囲からの屋敷地の移動、もしくは空白期間の長さからみて、なんらかの理由で一旦断絶したのちに他からの移住がなされて、新たに中世集落が形成されたことなどが想起される。こうした本遺跡群の動態を、吉井遺跡群内またはその周辺の歴史時代の集落遺跡の動向と対比してみると、各々の遺跡が深く関連しているようである。これまでの調査によって判明している奈良時代を主体とする律令村落の野附遺跡・葦場遺跡・戸口遺跡や、その後村落の拡散の流れとして平安時代前期に成立したと考えられる礼坊遺跡・権田町遺跡・行塚遺跡・北田遺跡など吉井遺跡群内の集落遺跡は、北田遺跡を除いて11世紀から13世紀前半までの空白期が存在するという共通点がある。この現象は、越後全体の傾向としてみられる。古代集落の終焉から中世集落成立の画期と一致している。また、水藤真氏の研究によれば、一般に東国の中世集落は13世紀末から15世紀半ばにかけて、散村から集村への動きがあったと言われており、吉井遺跡群内の集落の空白期間は散村の時期として、14世紀以降の中世集落の隆盛は集村の結果として捉えることができるのではないかだろうか。

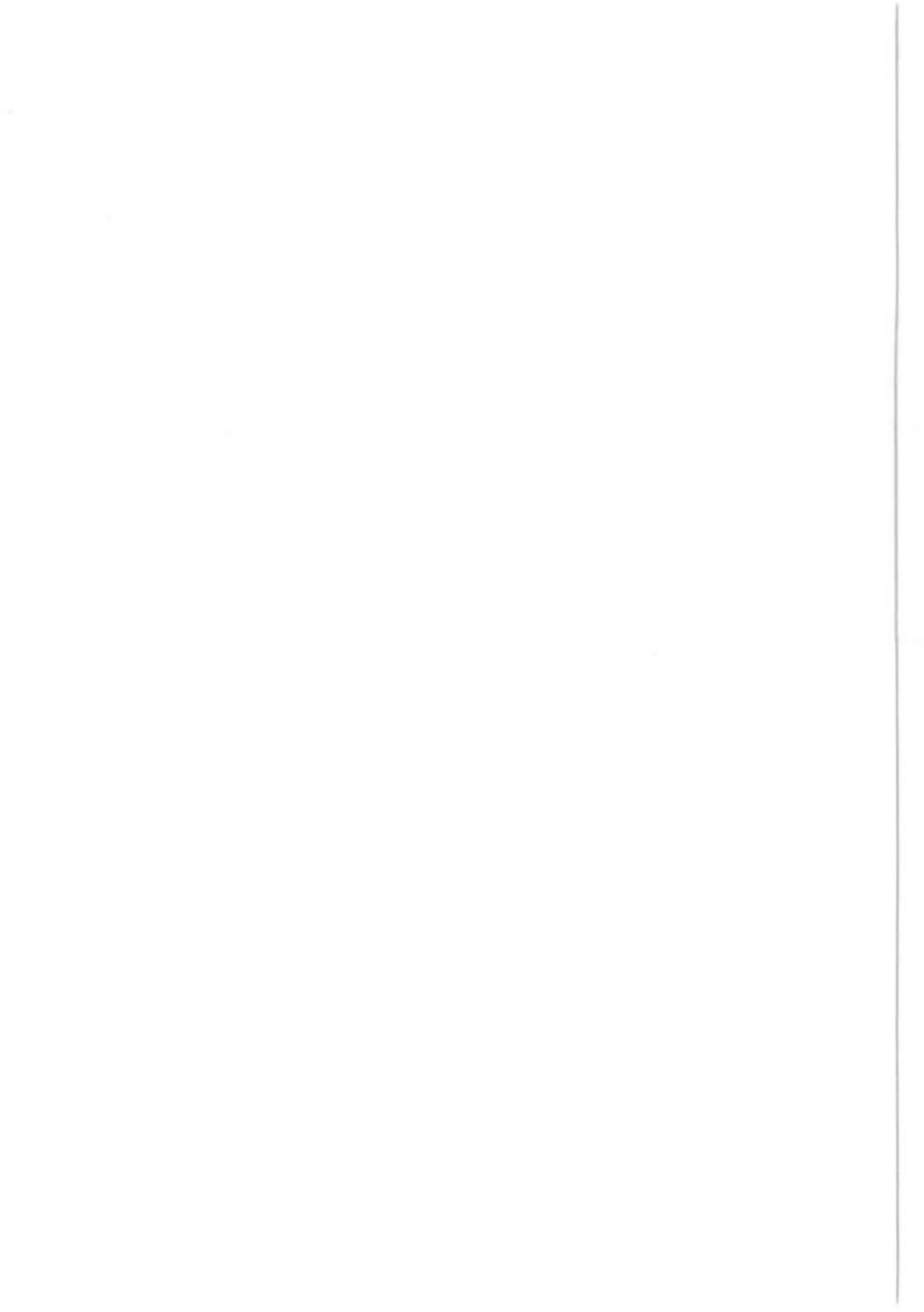
調査範囲の制約もあり、本遺跡群全体の様相を把握するには資料も検討もまだ不十分である。ただ、延長200m余りの本調査区から、東後背地の刈羽・三島丘陵から流れる自然流路や水路が大小合わせて13条

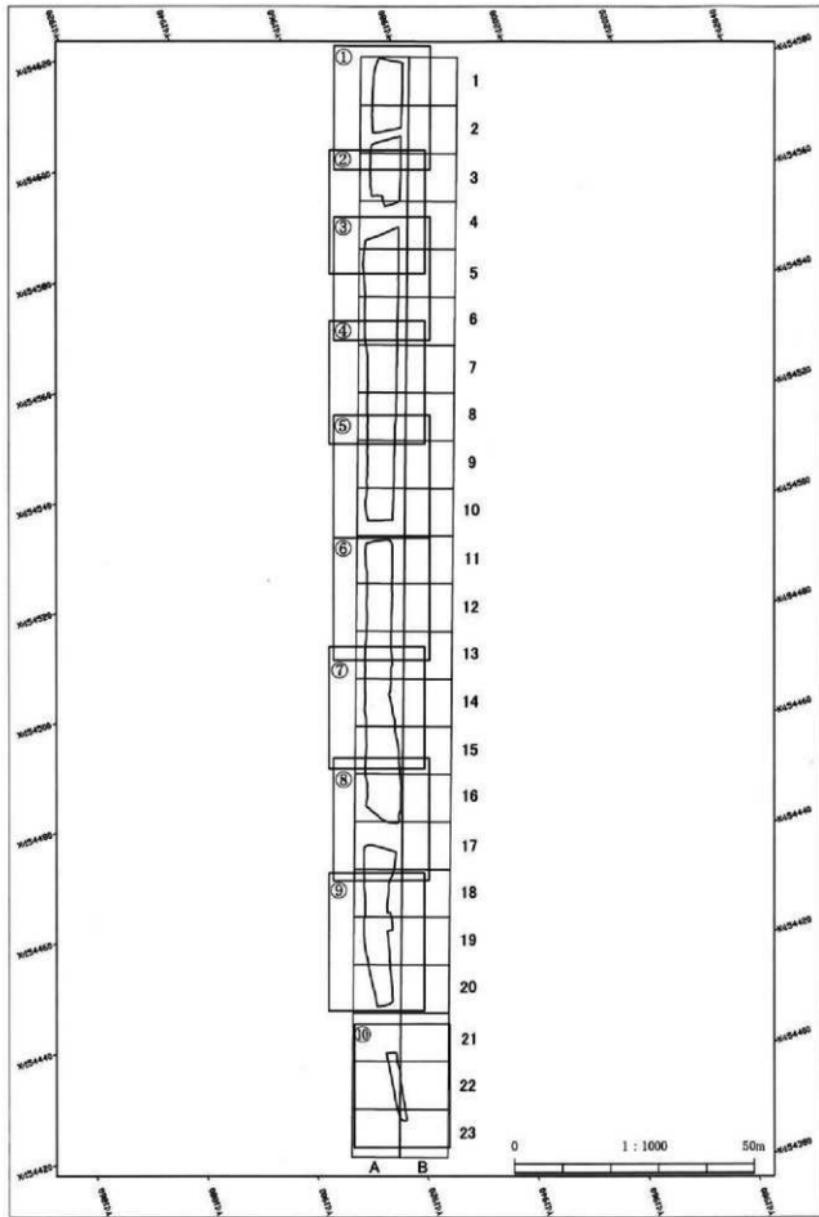
確認されたことや、全体に地下水位の高い立地などから、水利を活かして形成された集落の景観が想定できる。吉井遺跡群の集落立地の変遷が、古代から中世にかけて徐々に丘陵沿いに寄ってきてていることが以前から指摘されていることなど、一地域の集落遺跡群の動態を明らかにするには歴史考証と共に各遺跡の立地を含めて考える必要があろう。これを今後の研究に向けての問題提起としたい。

### 《引用・参考文献》

- 柏崎市教育委員会 1985『吉井遺跡群－新潟県柏崎市吉井遺跡群発掘調査報告書－』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第4)
- 柏崎市教育委員会 1990『吉井遺跡群Ⅱ－新潟県柏崎市・吉井遺跡群第Ⅱ期発掘調査報告－』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第13)
- 柏崎市教育委員会 1999『角田－新潟県柏崎市・角田遺跡発掘調査報告書－』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第32集)
- 柏崎市教育委員会 2001『宮之下遺跡群－柏崎市・宮之下遺跡群発掘調査報告書－』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第35集)
- 柏崎市教育委員会 2003『柏崎市の遺跡Ⅲ－柏崎市内遺跡第3期発掘調査報告書－』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第41集)
- 古島敏雄 1967『土地に刻まれた歴史』岩波書店
- 水藤 真 1989「村や町を図うこと」『国立歴史民俗博物館研究報告』第19集 国立歴史民俗博物館
- 吉岡康暢 1989「総論 珠洲古陶」『珠洲の名陶』珠洲市立珠洲焼資料館
- 吉岡康暢 1991『日本海域の土器・陶磁〔古代編〕』人類史叢書9 六興出版
- 坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実 1991「佐渡の須恵器」『新潟考古』第2号 新潟県考古学会
- 春日真実 1997a「越後・佐渡における9世紀中葉の画期」『北陸古代時研究』第6号 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1997b「越後における10・11世紀の土器様相」『北陸古代時研究』第7号 北陸古代土器研究会
- 新潟県考古学会 1999『新潟県の考古学』
- 北陸中世考古学研究会 1999『中世北陸の石文化』I 小野正敏他 2001『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会
- 八峰 興 2001『柱状高台考』『中世土器研究論集 中世土器研究会20周年記念論集』中世土器研究会

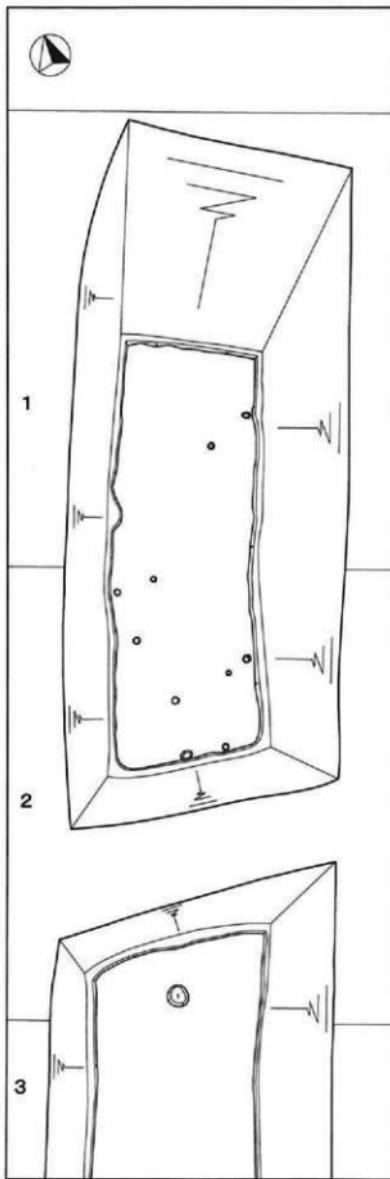
# 図 版



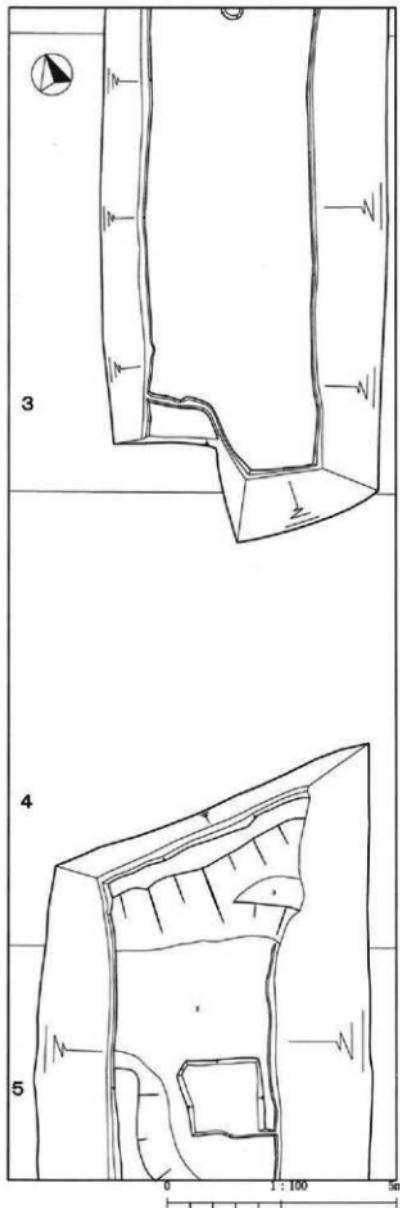


遺構平面図割付図

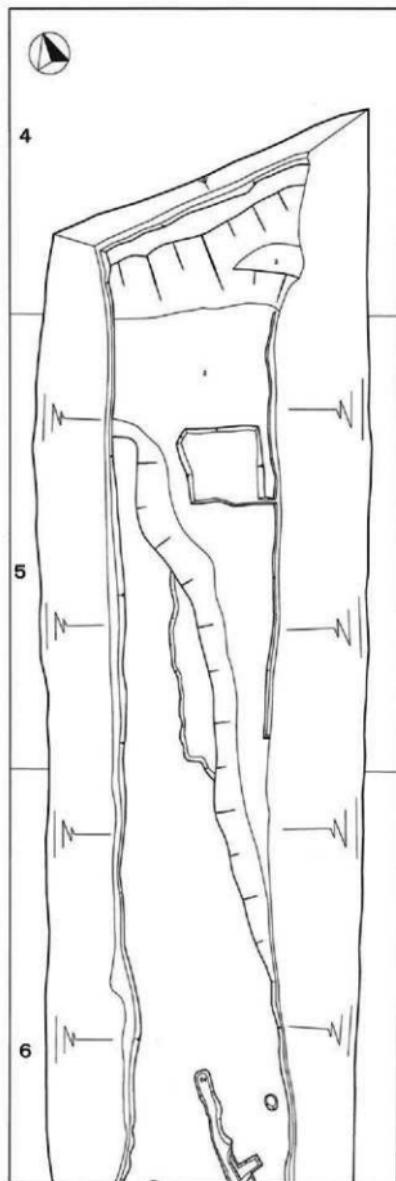
図版 2



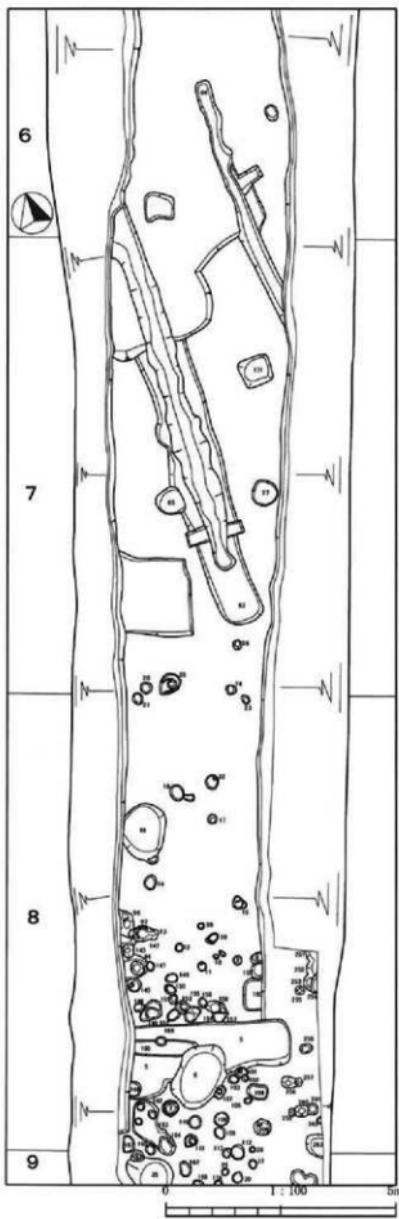
遺構平面図 1



遺構平面図 2

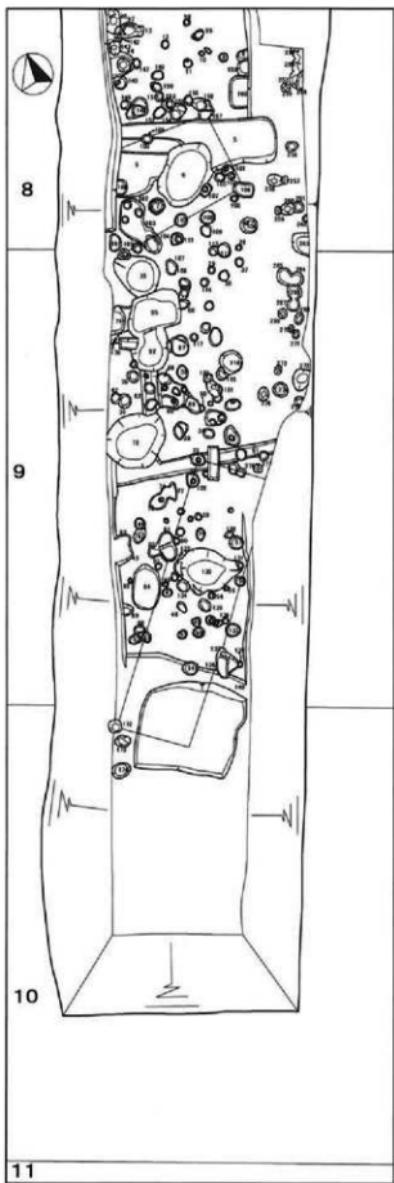


遺構平面図 3

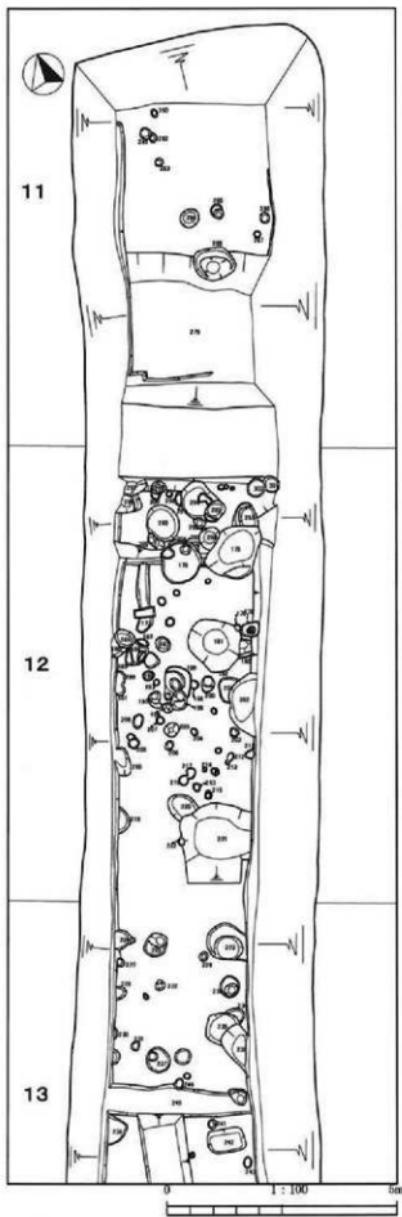


遺構平面図 4

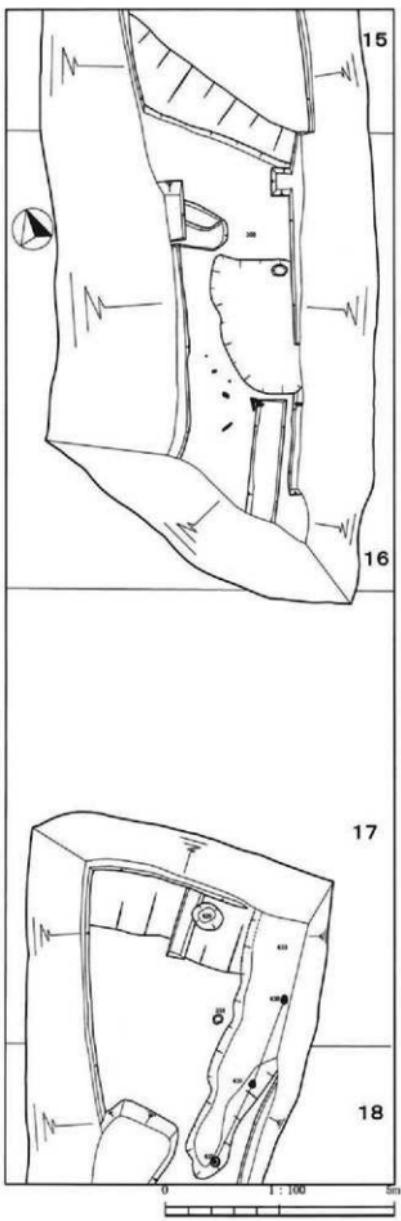
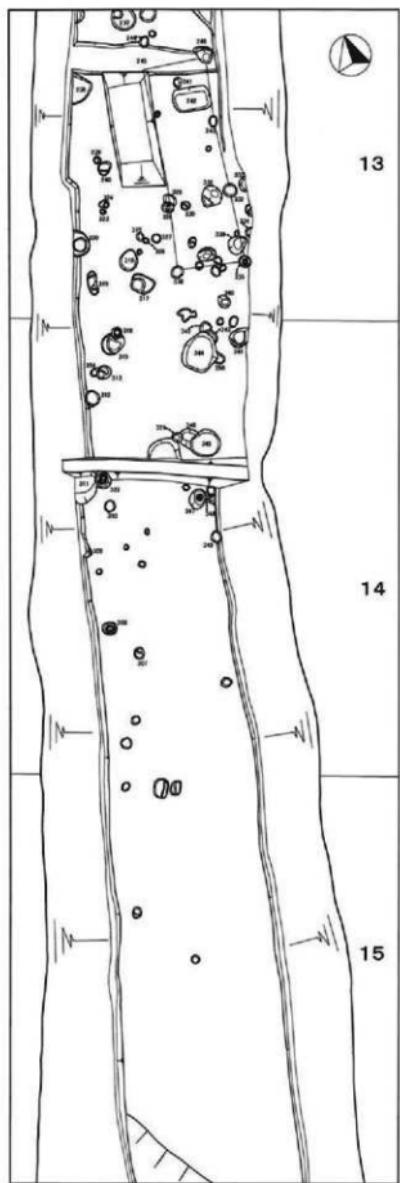
図版 4



遺構平面図 5



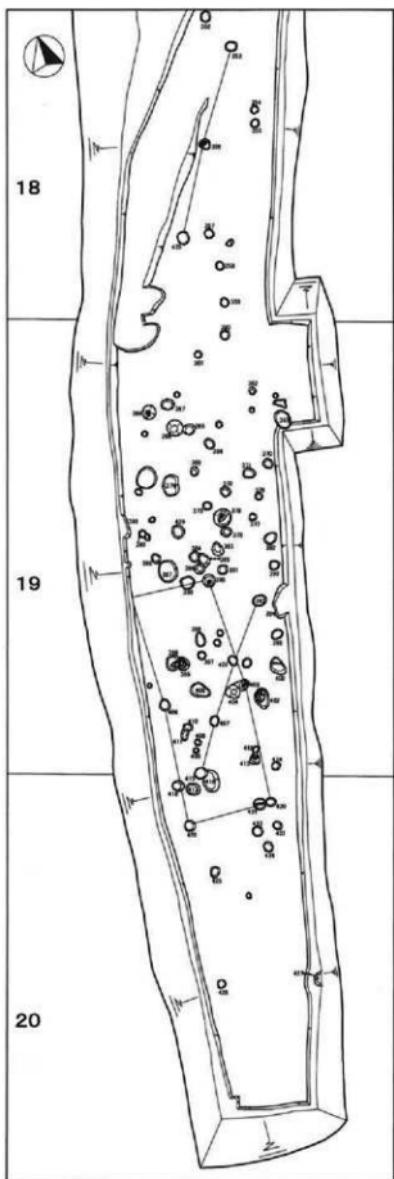
遺構平面図 6



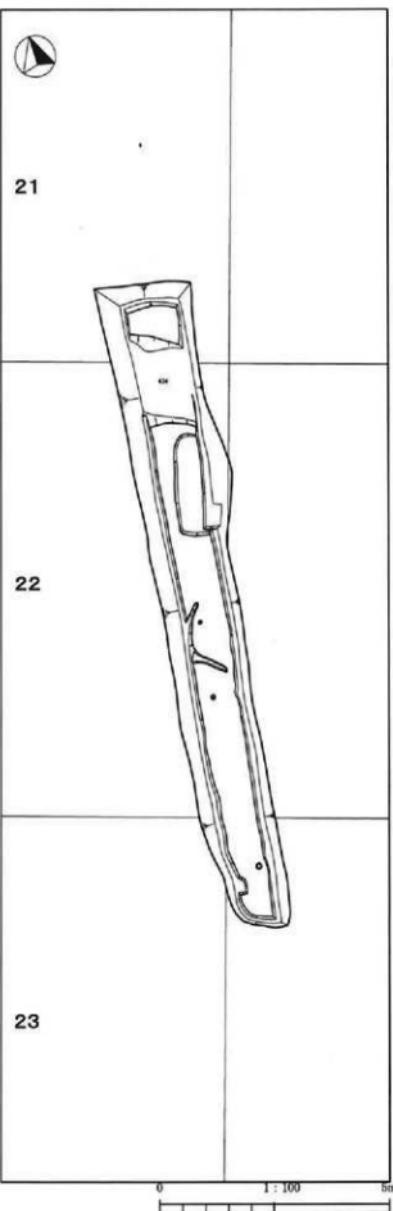
遺構平面図 7

遺構平面図 8

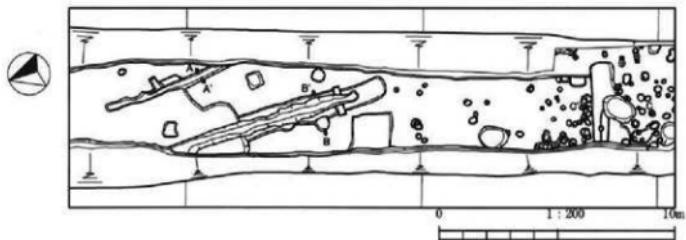
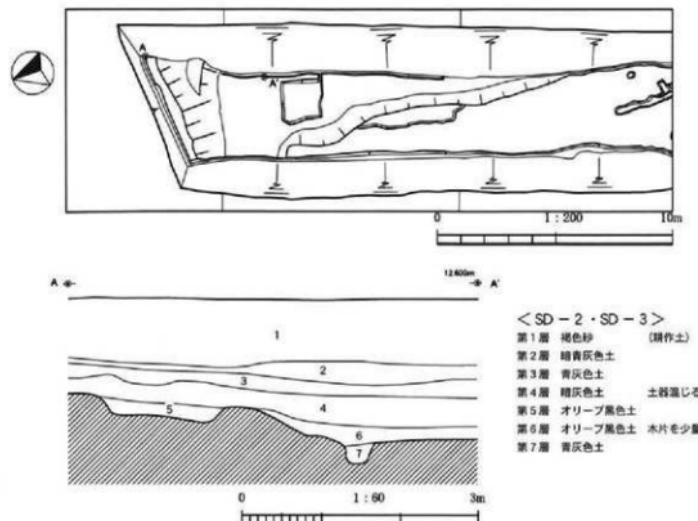
図版 6



遺構平面図 9



遺構平面図 10

**< SD - 64 >**

第1層 黒褐色土  
オリーブ褐色土ブロック  
(8cm角型) 混じる

**< Skp - 65 - SD - 63 >**

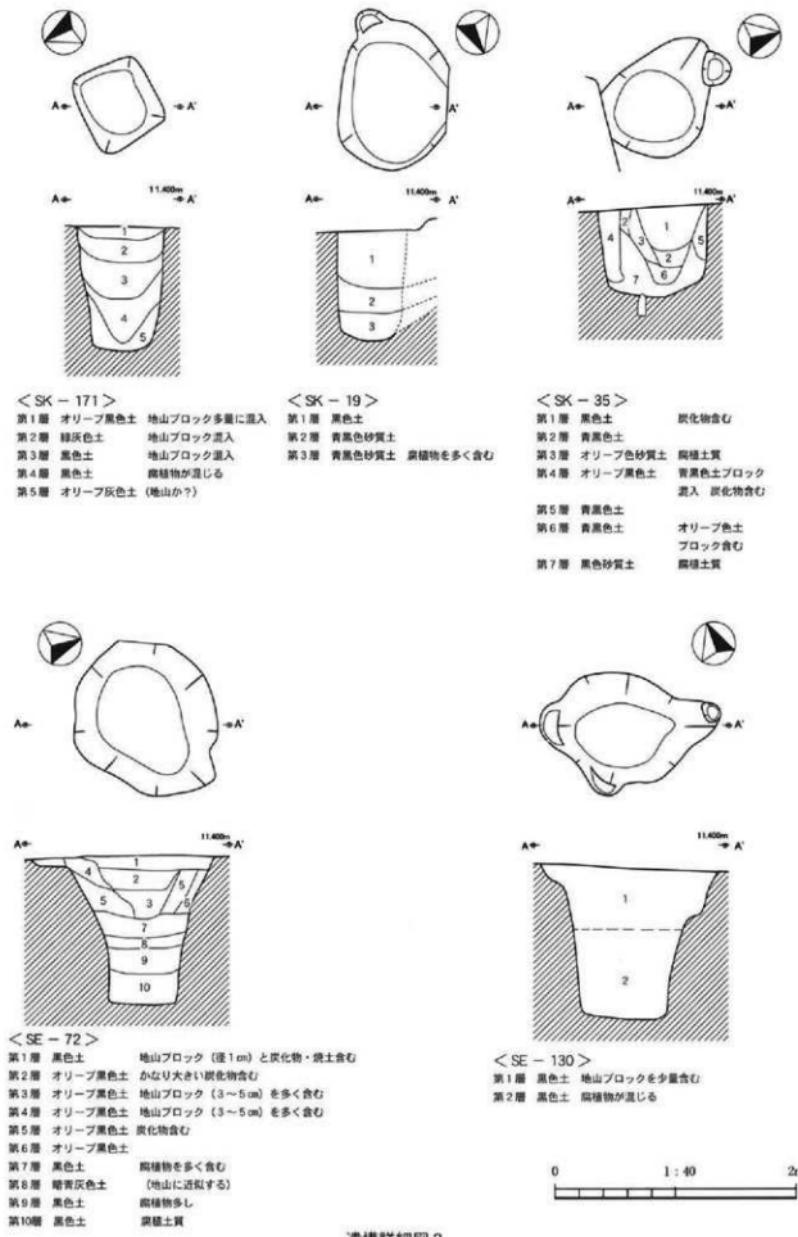
第1層 オリーブ褐色土  
第2層 青黒色砂  
第3層 青褐色土  
第4層 オリーブ褐色土  
緑青色砂のブロック混じる  
Skp - 65 の堆土

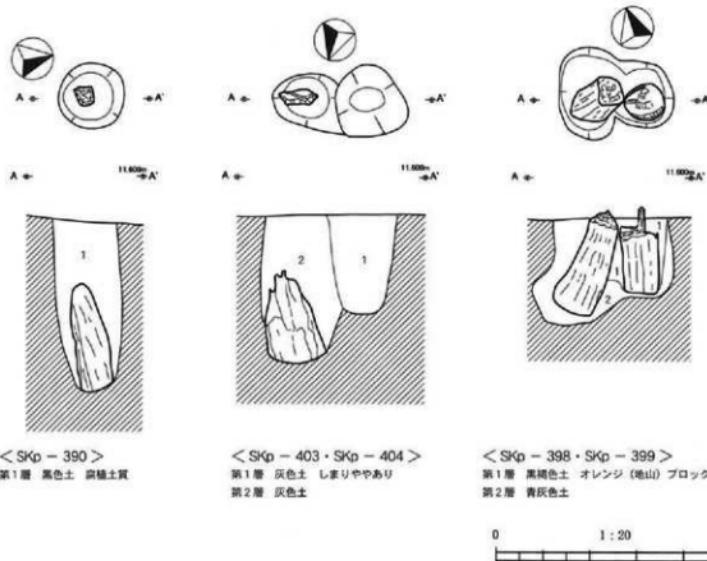
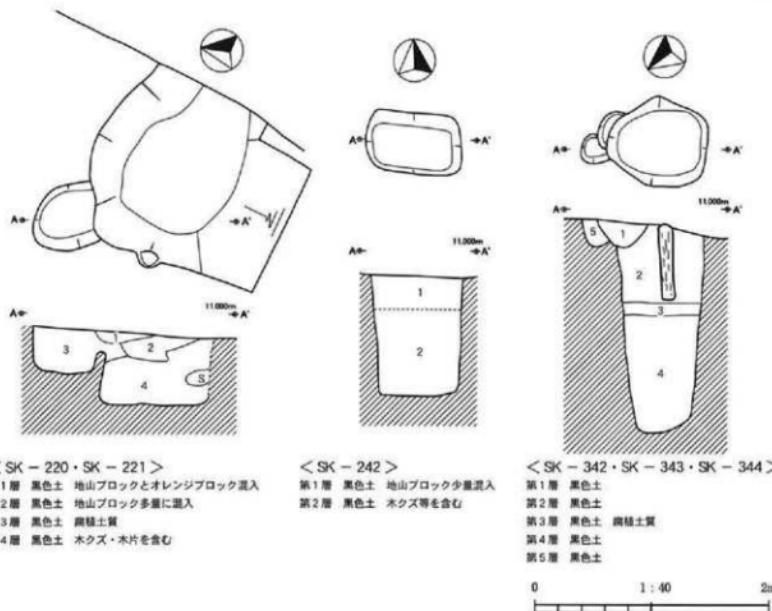
**< SD - 5 - SE - 6 >**

第1層 青褐色土  
第2層 緑青灰色土  
第3層 緑青灰色土  
第4層 緑青灰色土  
第5層 黒色土  
第6層 黒色土・青灰色土  
第7層 黒色土  
第8層 黒色砂質土  
腐植物が混じる  
腐植物が混じる

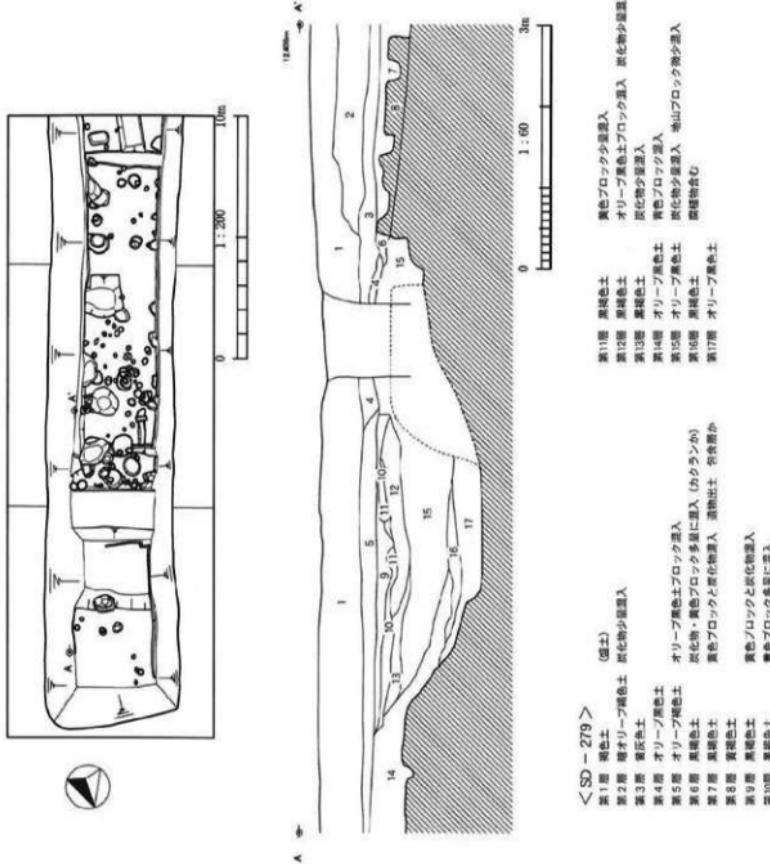
遺構詳細図 1

図版8

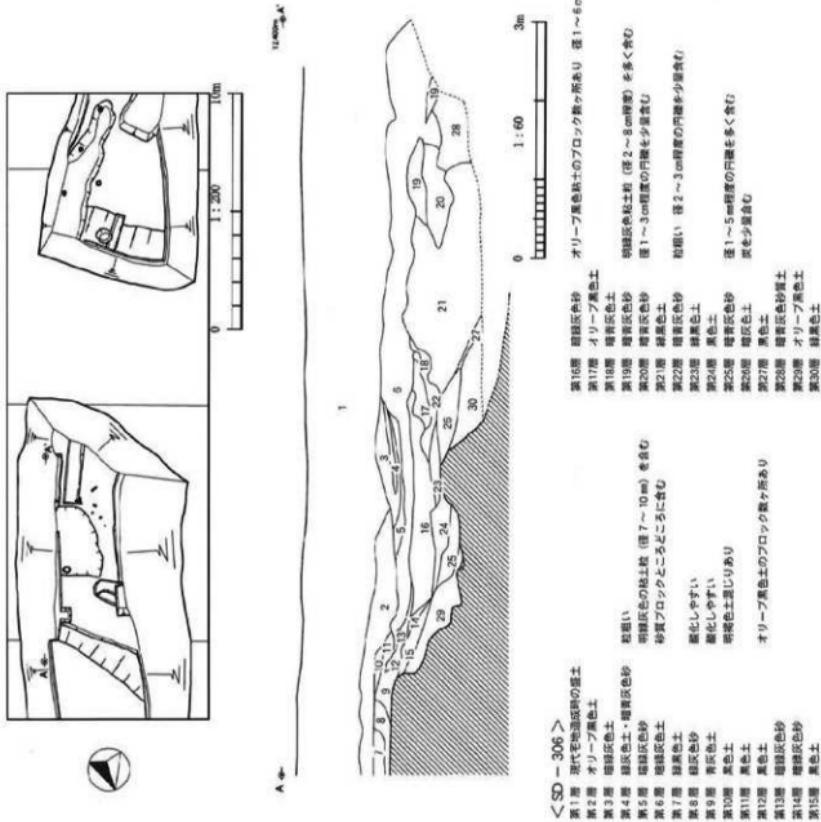




造構詳細図 3

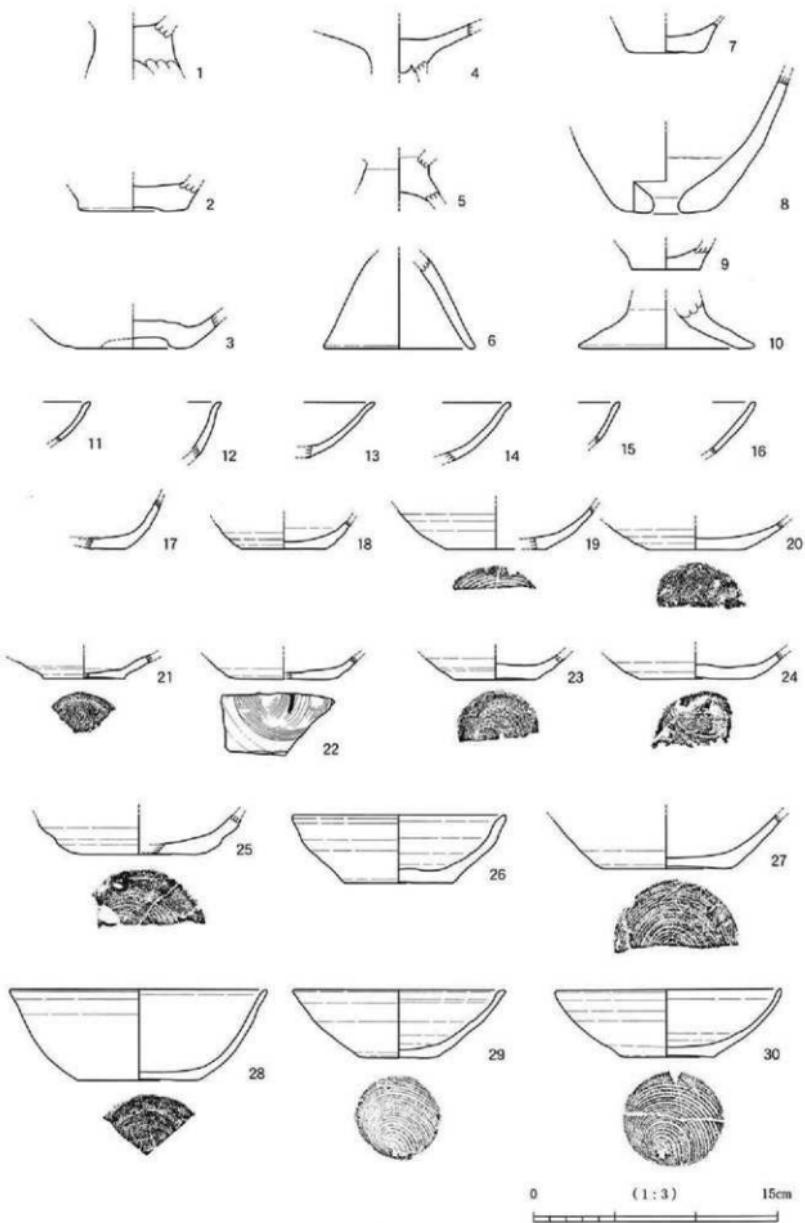


遺構詳細図 4

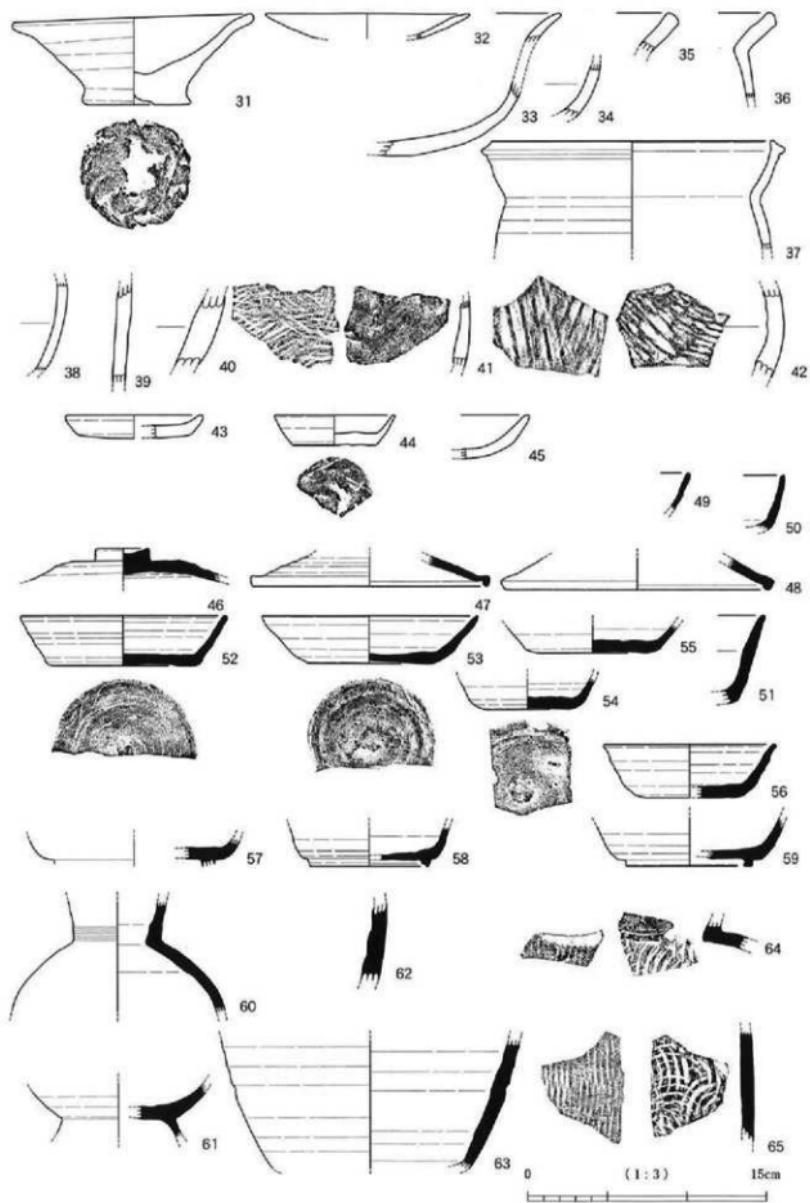


造構詳細図5

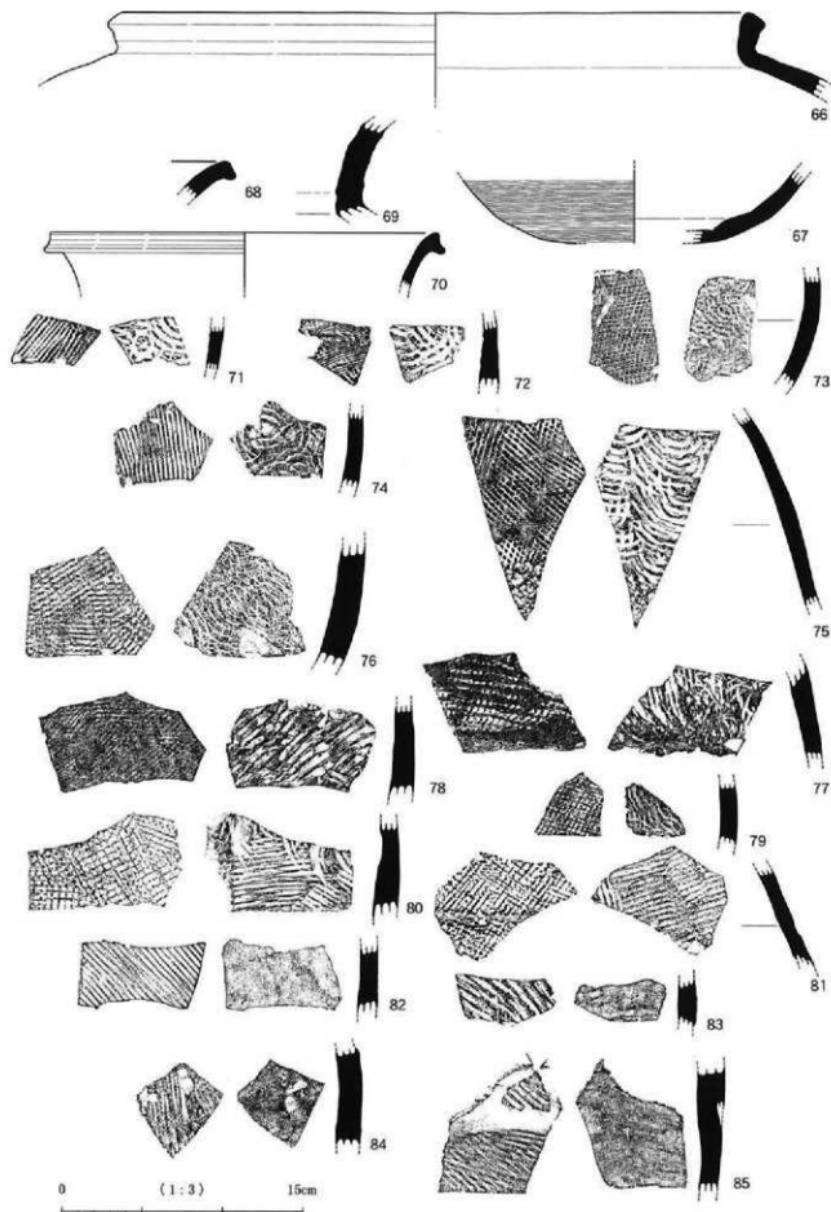
図版12



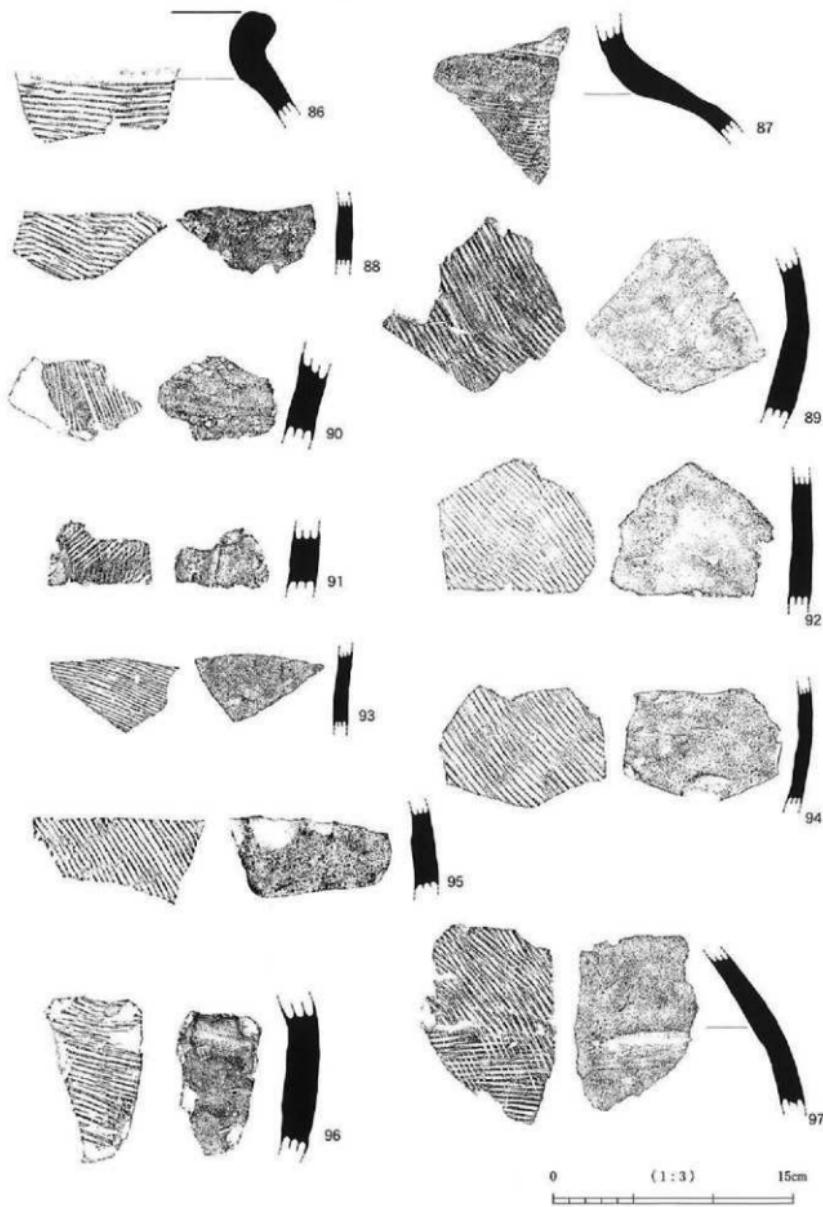
遺物実測図 1



遺物実測図 2

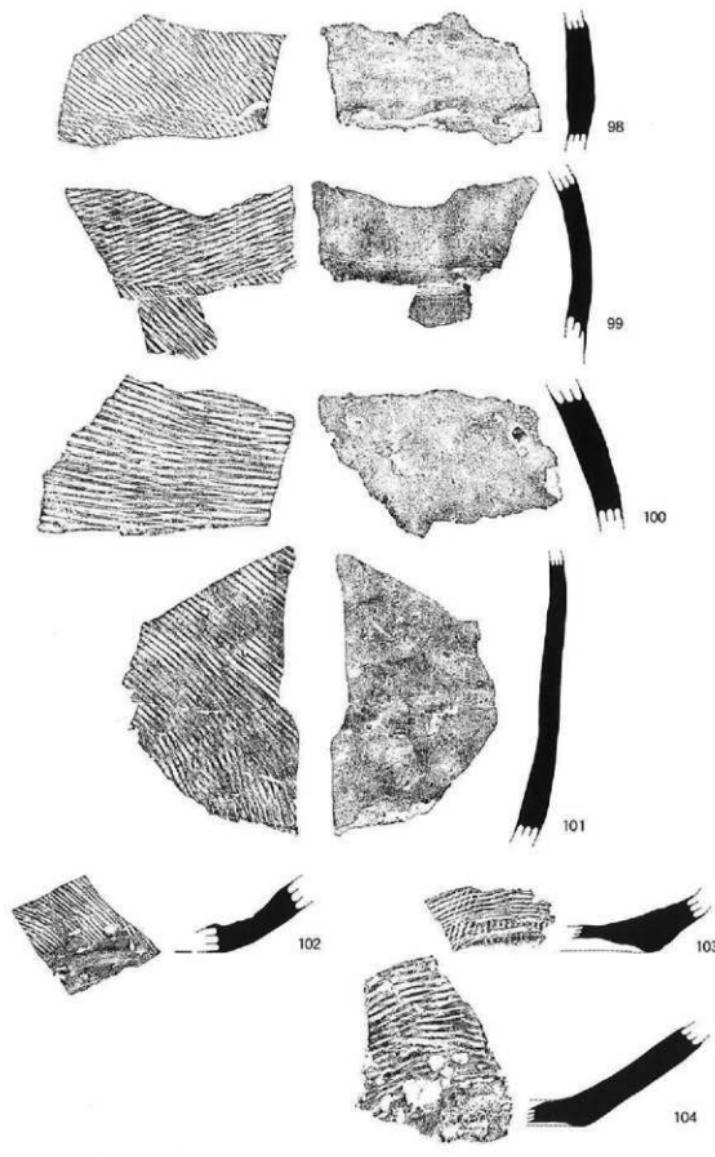


遺物実測図 3

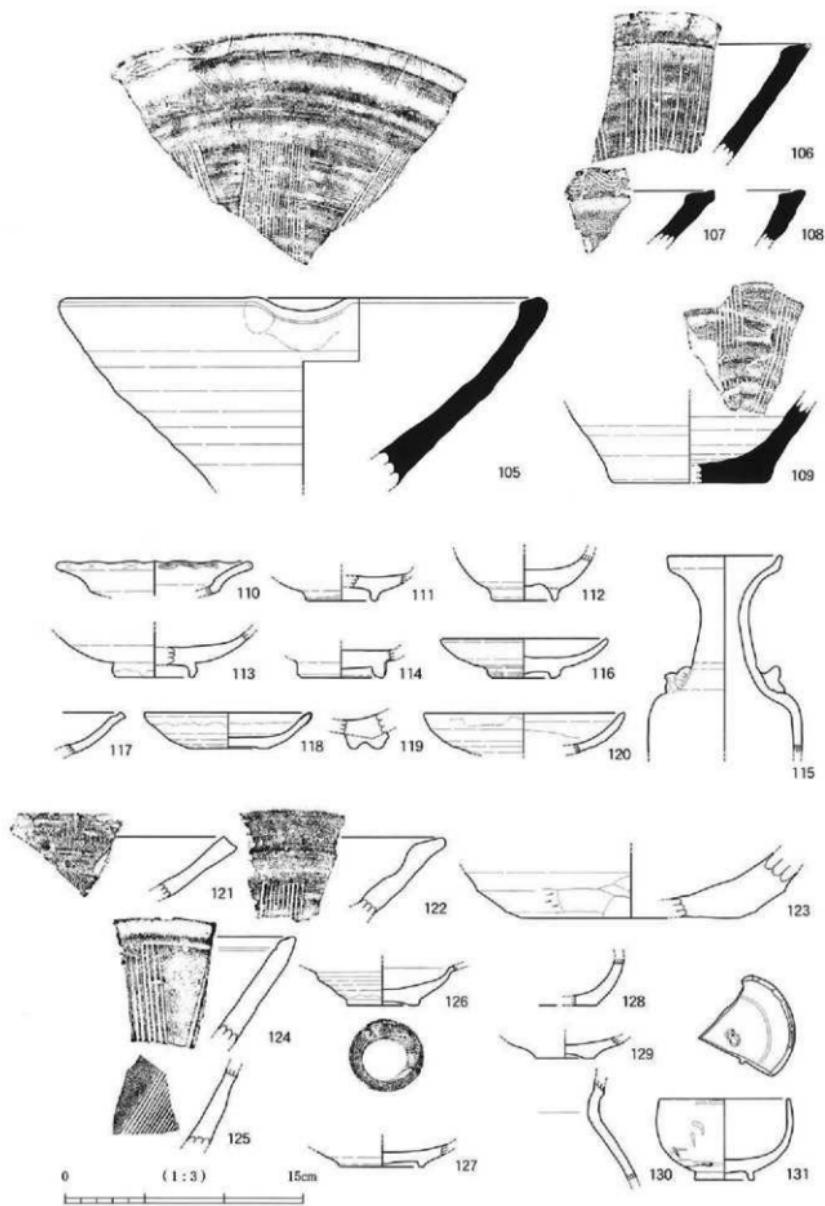


遺物実測図 4

図版16

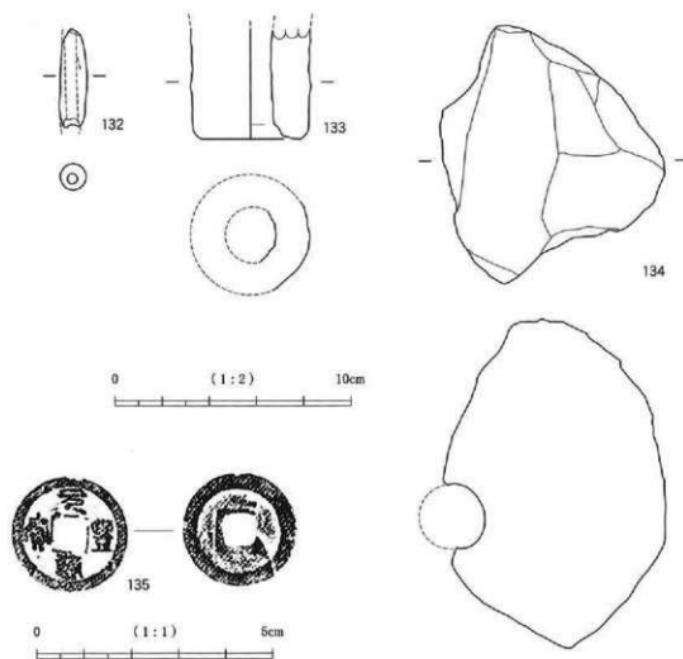


遺物実測図 5

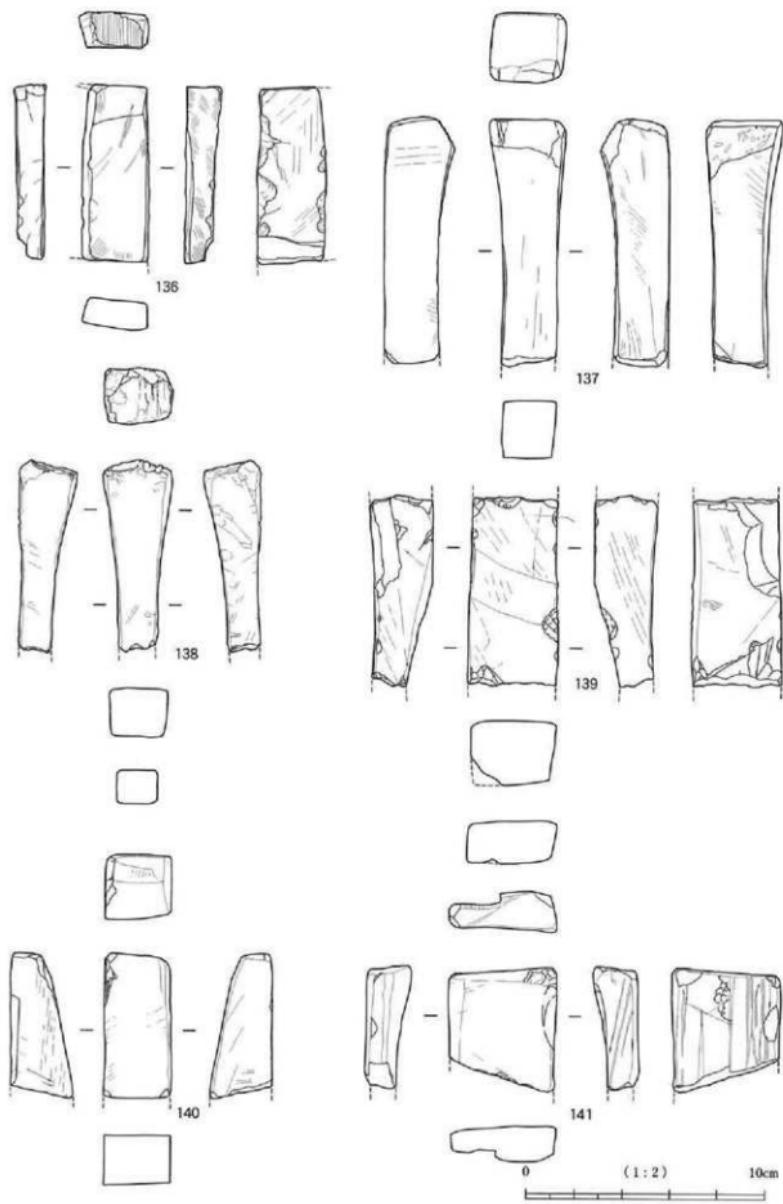


遺物実測図6

図版18

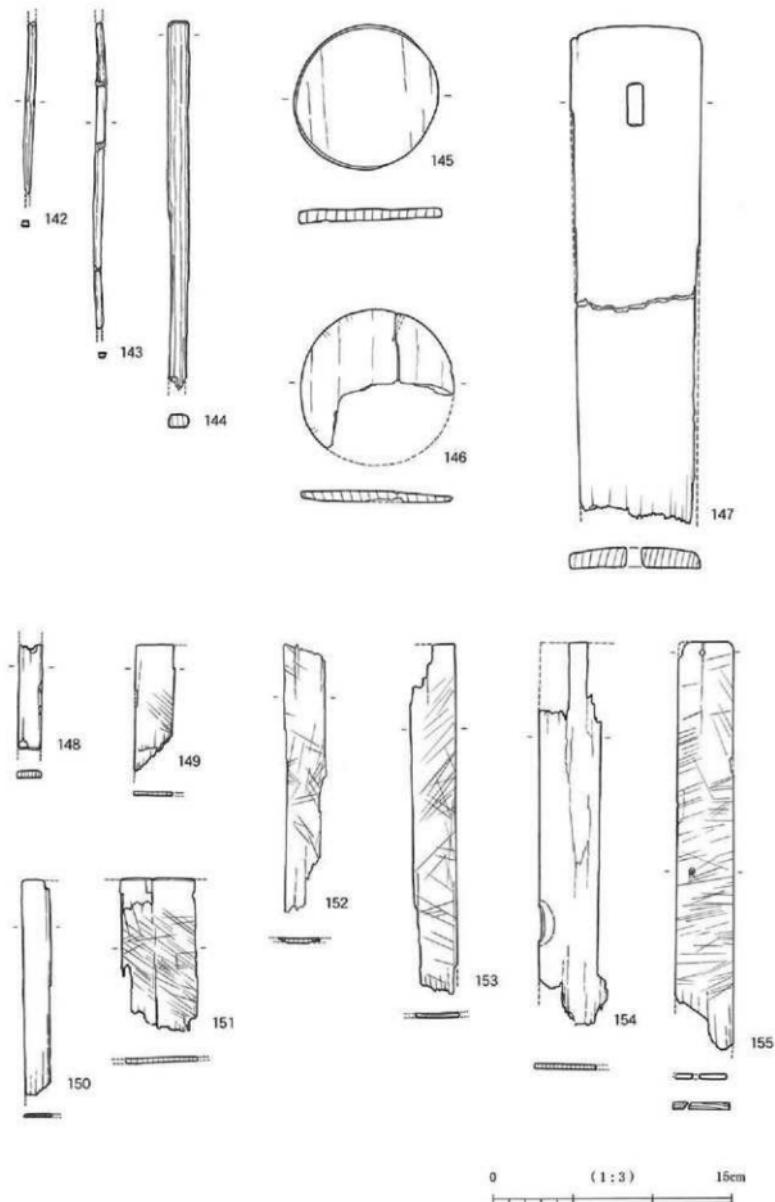


遺物実測図 7

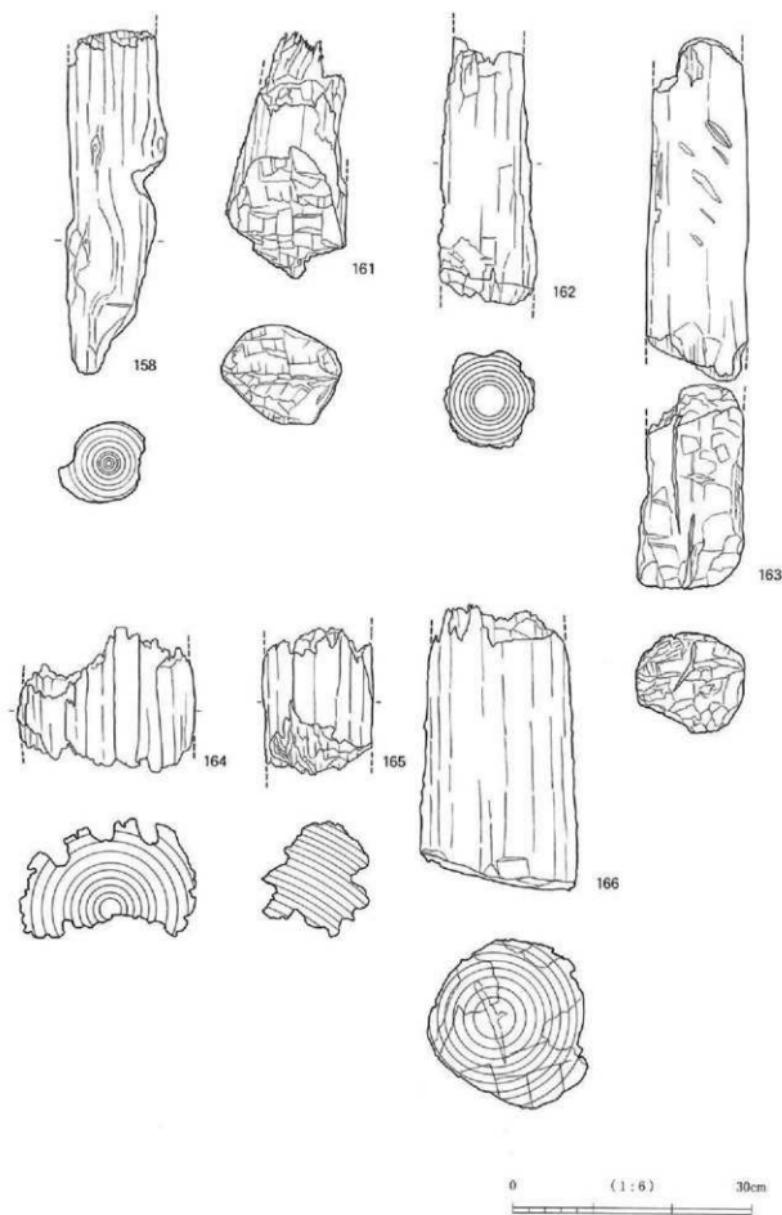


遺物実測図 8

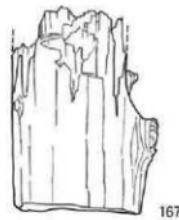
図版20



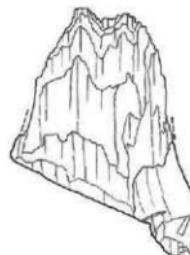
遺物実測図9



遺物実測図10



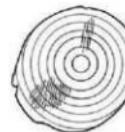
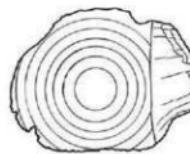
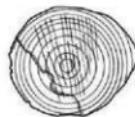
167



168



169



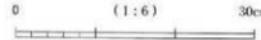
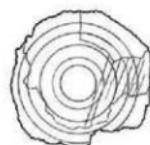
170



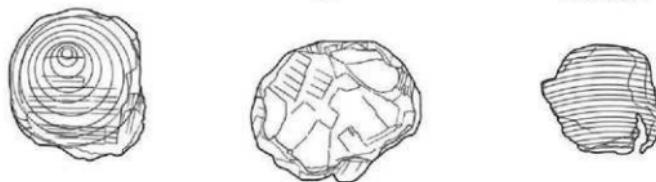
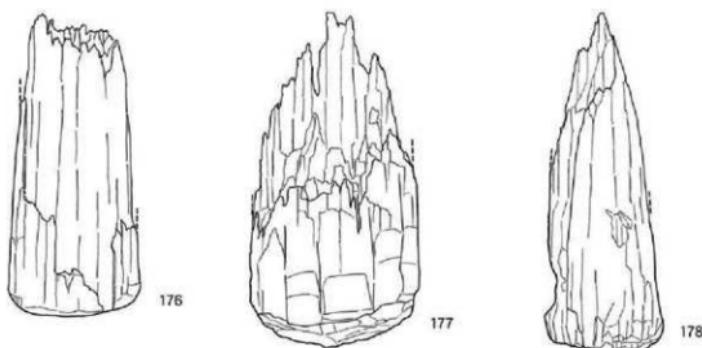
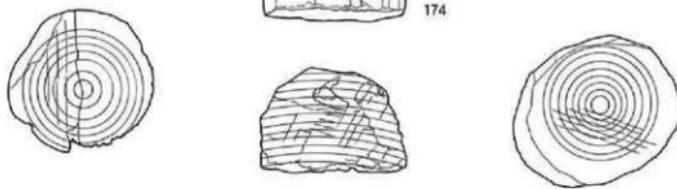
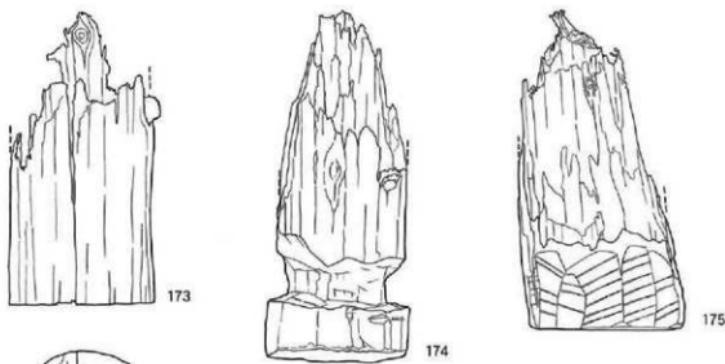
171



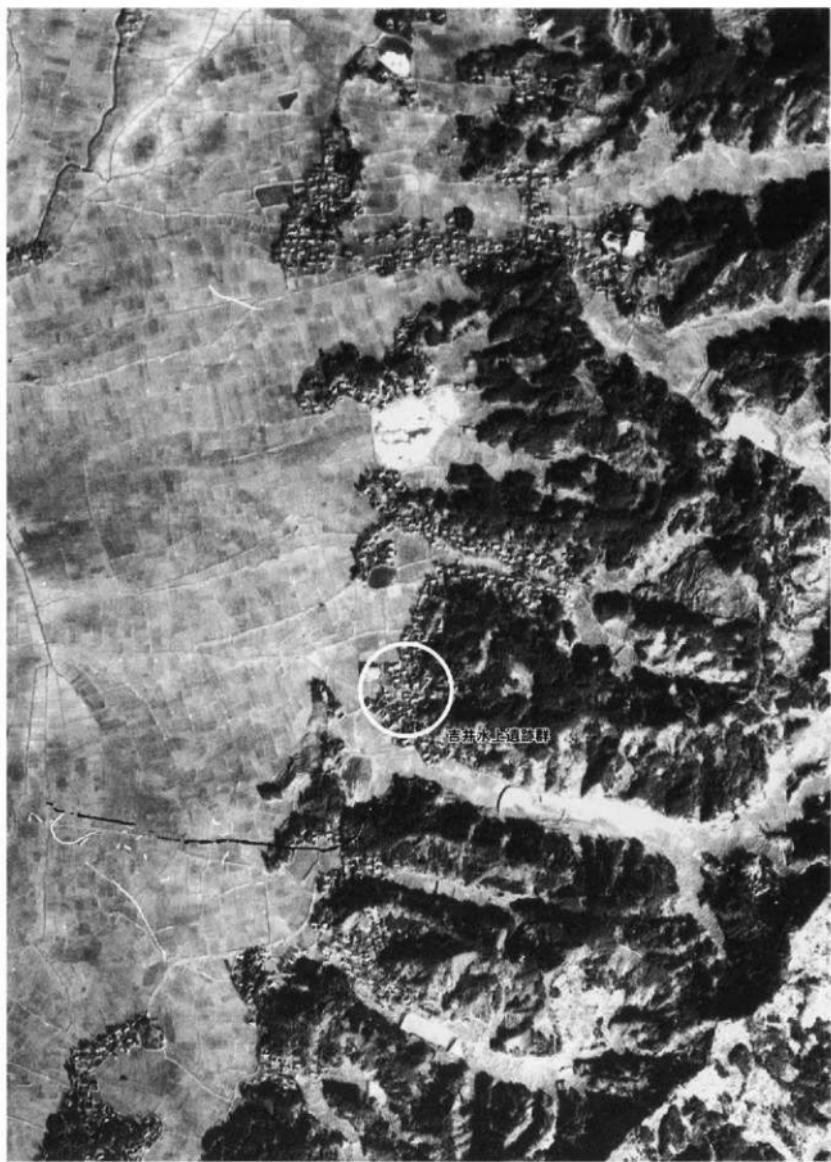
172



遺物実測図11



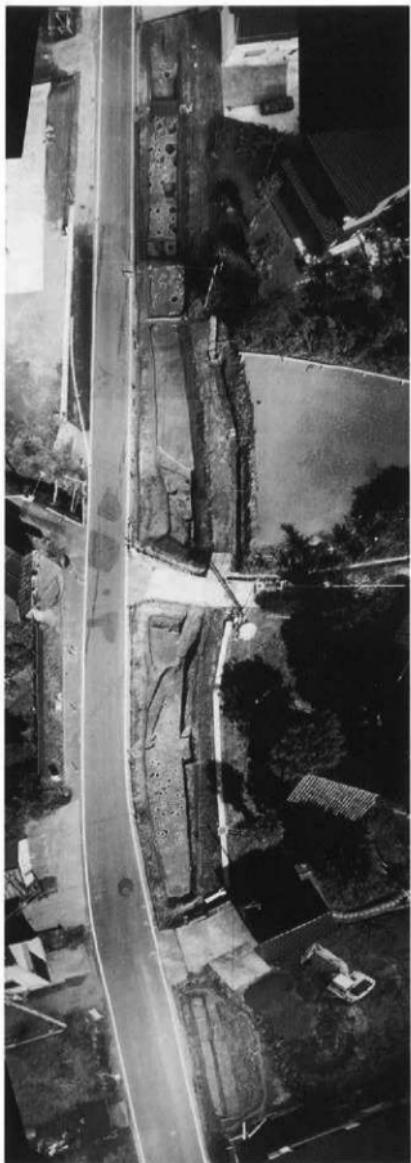
0 (1 : 6) 30cm



吉井遺跡群周辺航空写真（1947年撮影）



調査区全景（1区～2区）



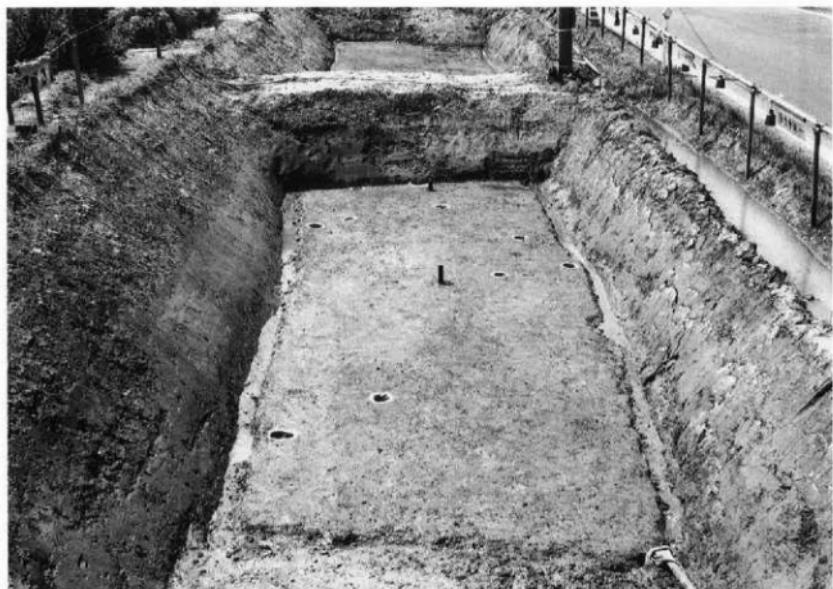
調査区全景（3区～6区）



吉井水上遺跡群遠景（西から）



吉井水上遺跡群遠景（東から）



1区完掘状況（北から）



2-1区完掘状況（北から）



SD - 63・64 (北西から)



2-II区遺構群 (北西から)



2-II区完掘状況（南から）

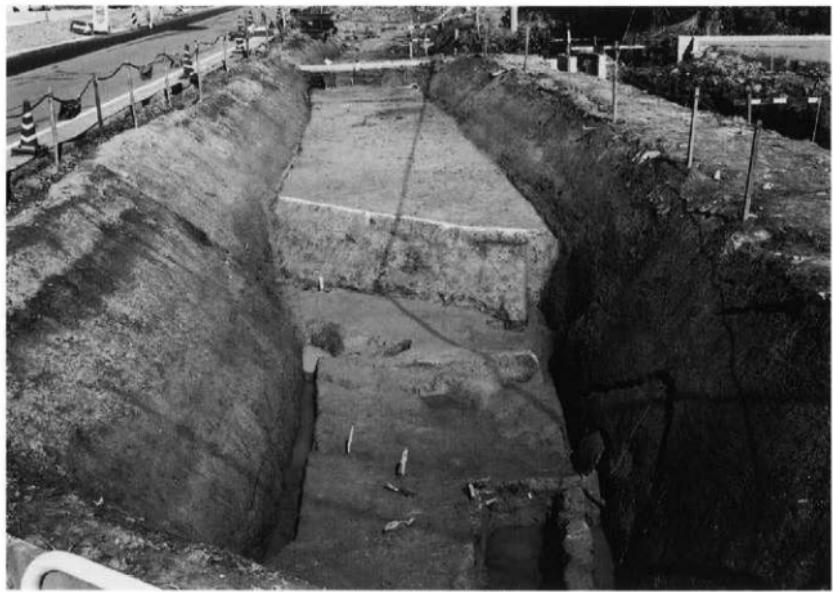


3区完掘状況（北から）

図版30



SD - 279 土層断面（西から）



4 区完掘状況（南から）



SD - 306 (南から)



SD - 306 土層断面 (西から)

図版32



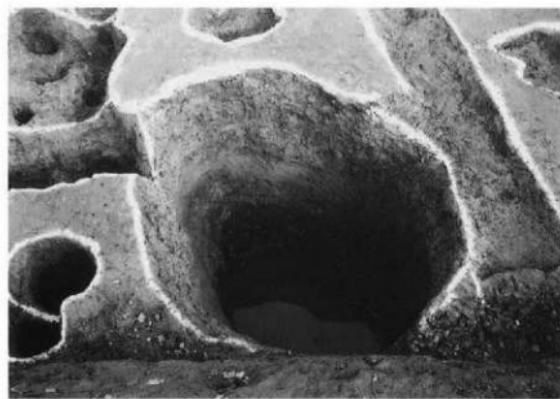
5区完掘状況（北から）



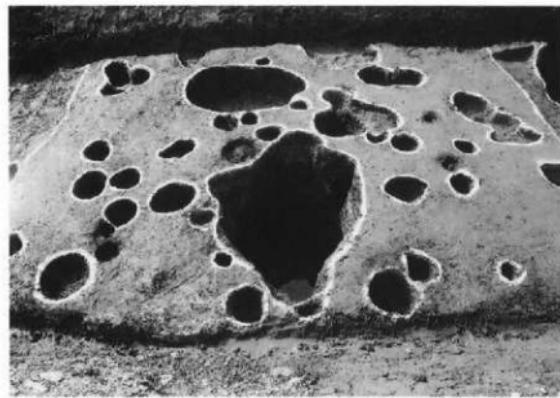
6区完掘状況（北から）



SE - 6 (北から)

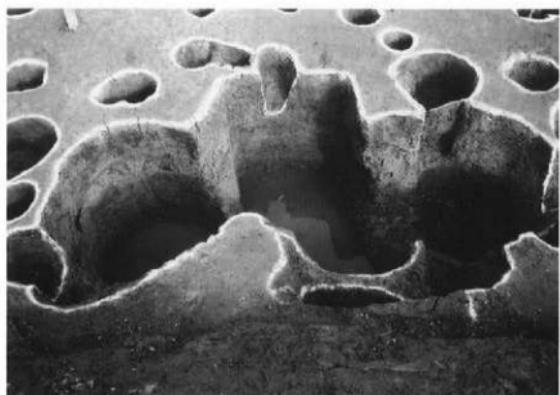


SE - 72 (西から)

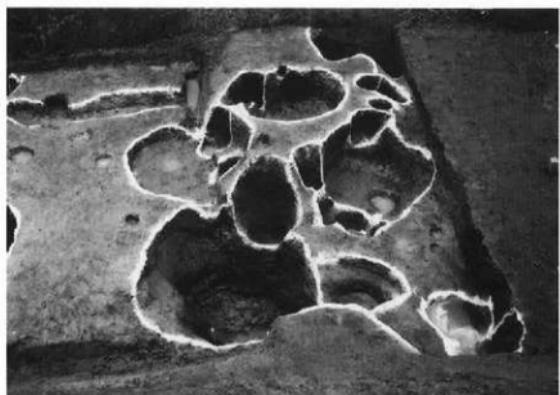


SE - 130 (東から)

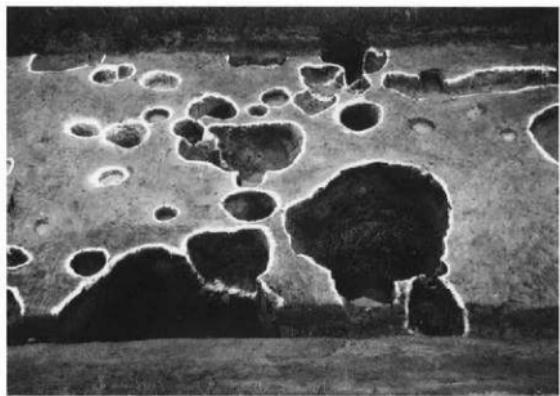
図版34



SK - 35・95・92 (西から)



SK - 175他 (東から)



SK - 181・202 (東から)



SK - 221 (東から)



SK - 242 (南から)



SK - 342 ~ 344 土層断面  
(西から)

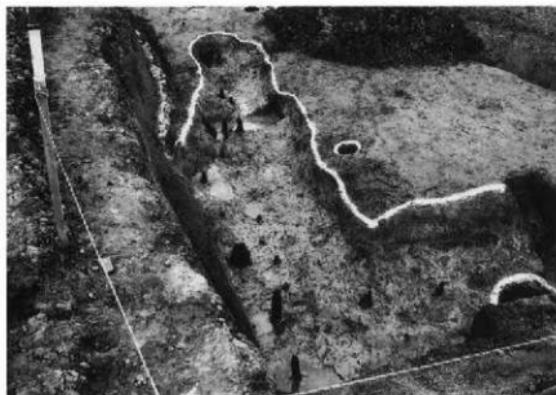
図版36



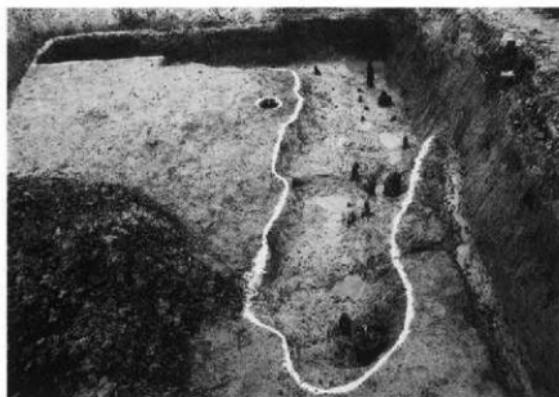
SD - 306 遺物出土状況（南から）



SD - 306 遺物出土状況（西から）



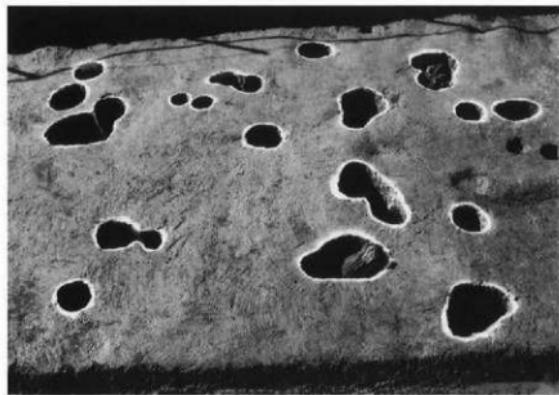
SD - 433 (北から)



SKp - 429 ~ 431 (南から)



5区遺構群 (北東から)

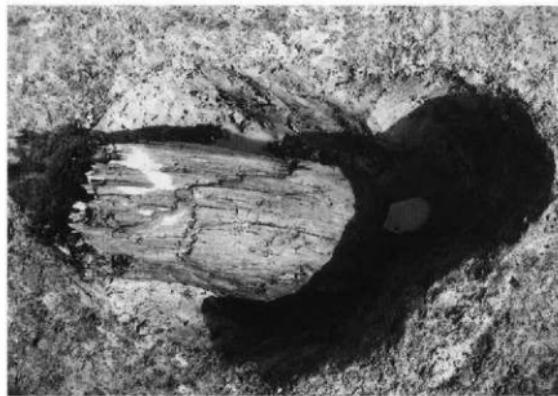


5区遺構群 (東から)

図版38



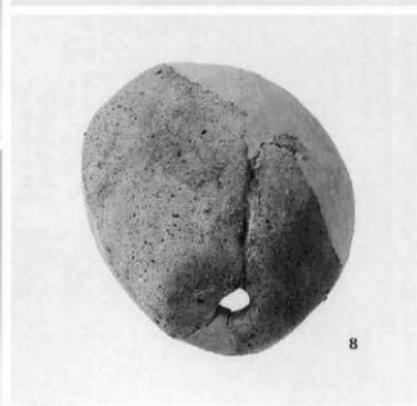
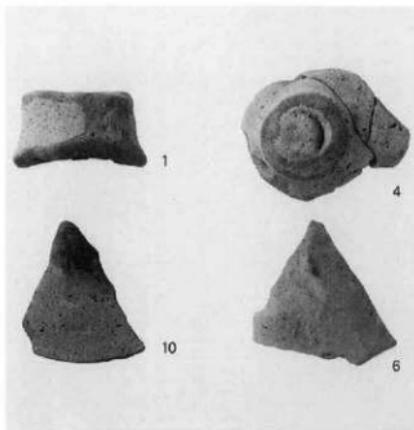
SKp - 398・399 柱根出土状況  
(南から)



SKp - 402 柱根出土状況 (西から)

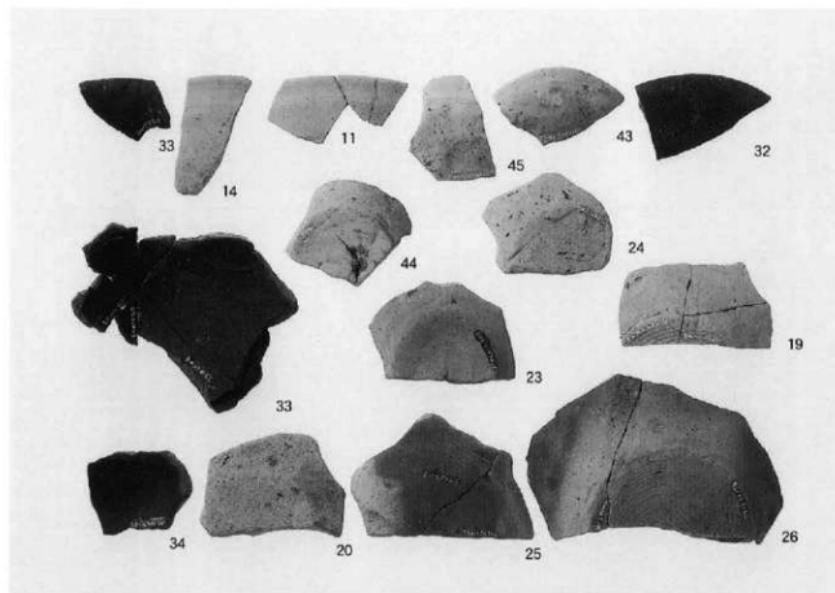


SD - 434 土層断面 (西から)

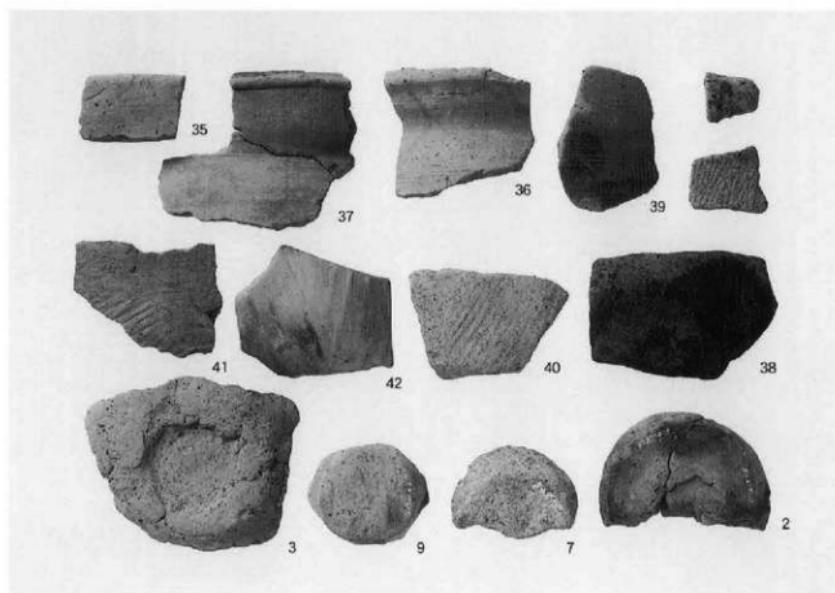


弥生土器・土師器

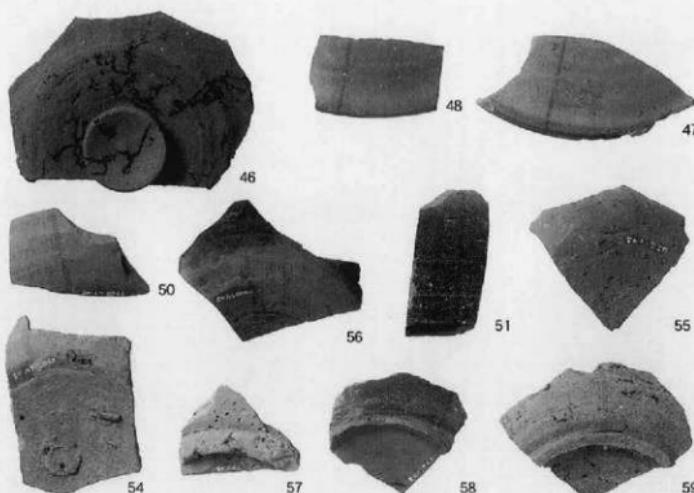
図版40



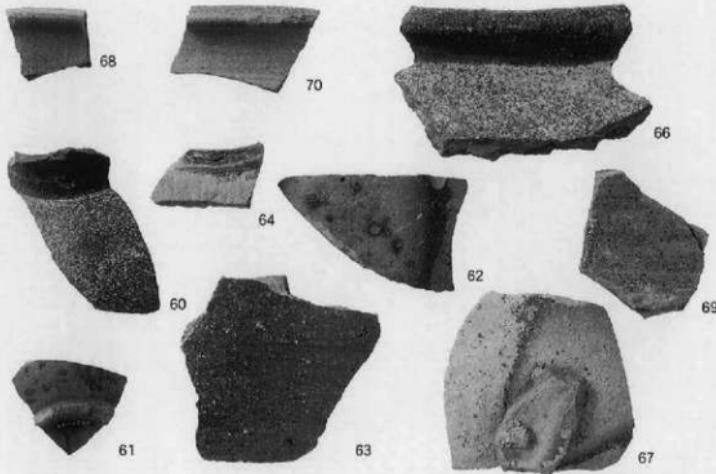
土師器（碗・皿類）



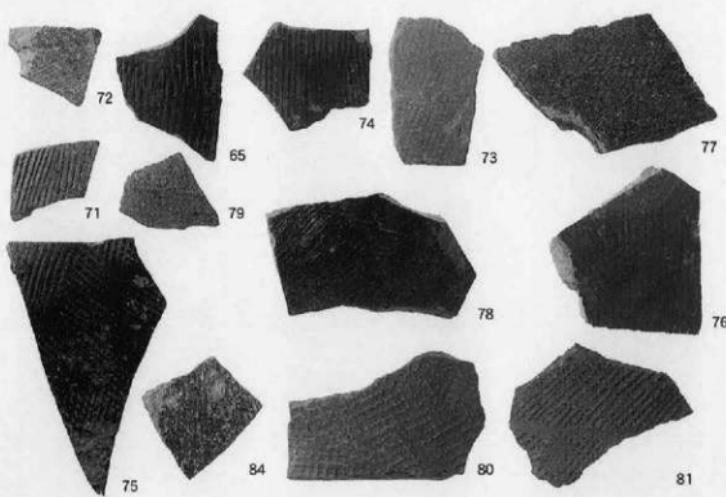
弥生土器・土師器（甕・壺類）



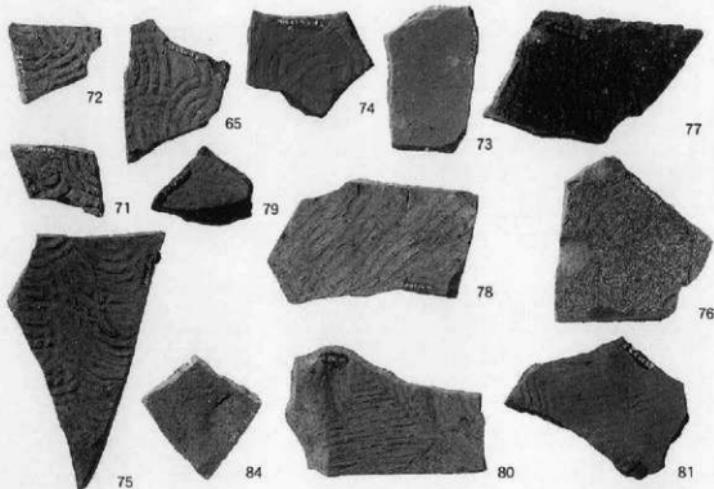
須恵器（杯蓋・杯身）



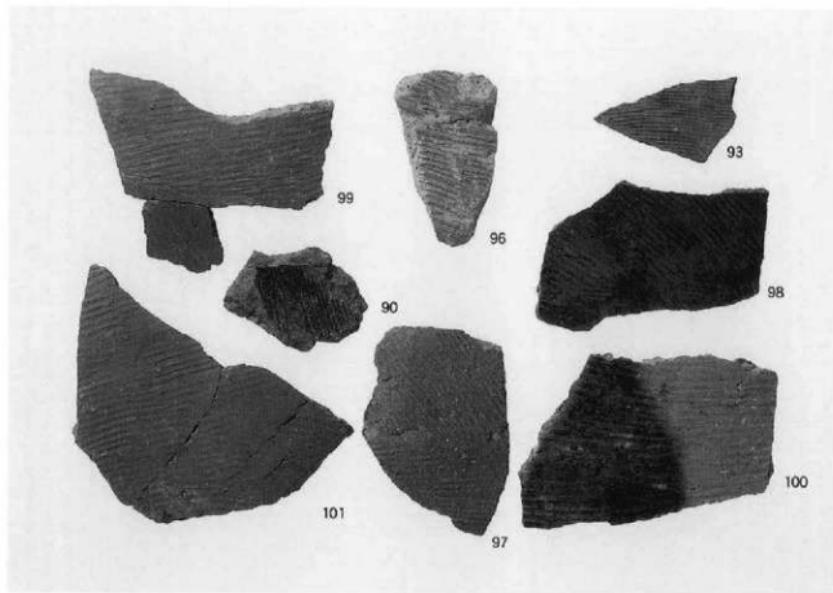
須恵器（壺・壺類）



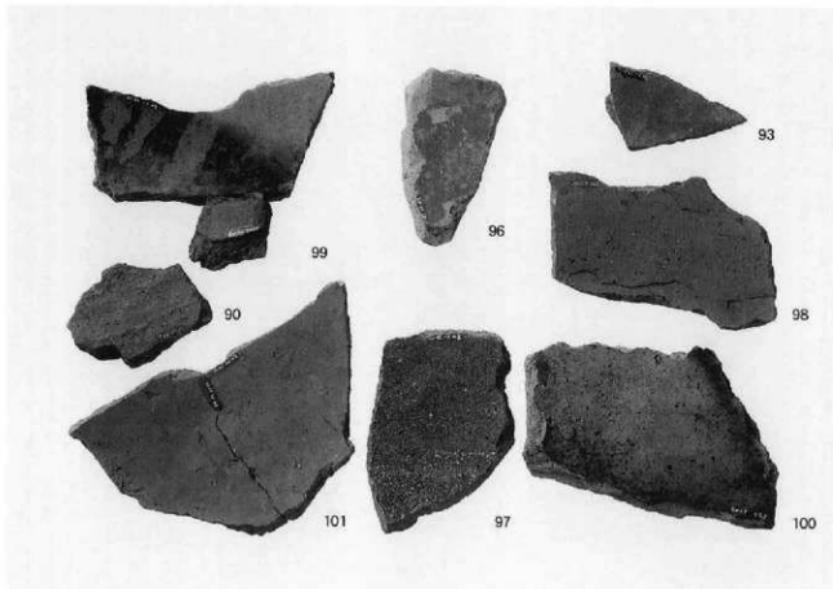
須恵器（壺・壺類）外面



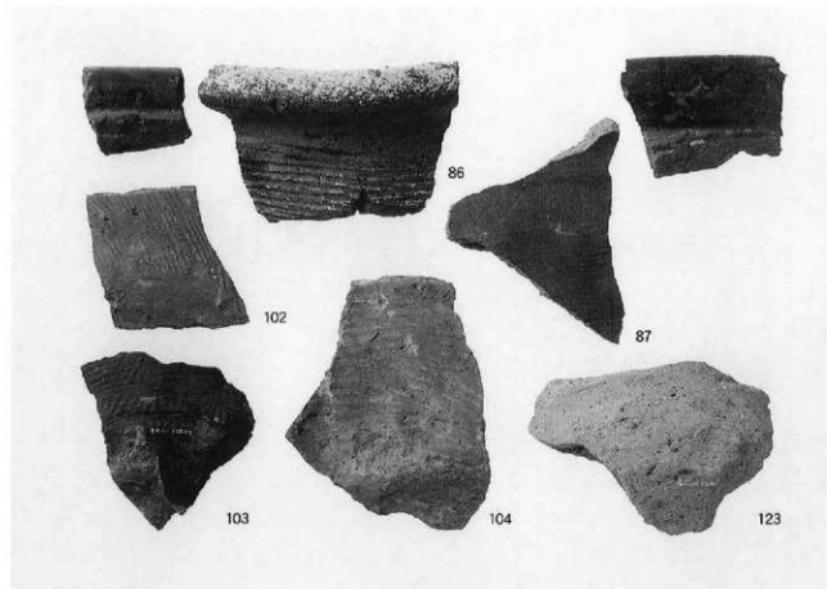
須恵器（壺・壺類）内面



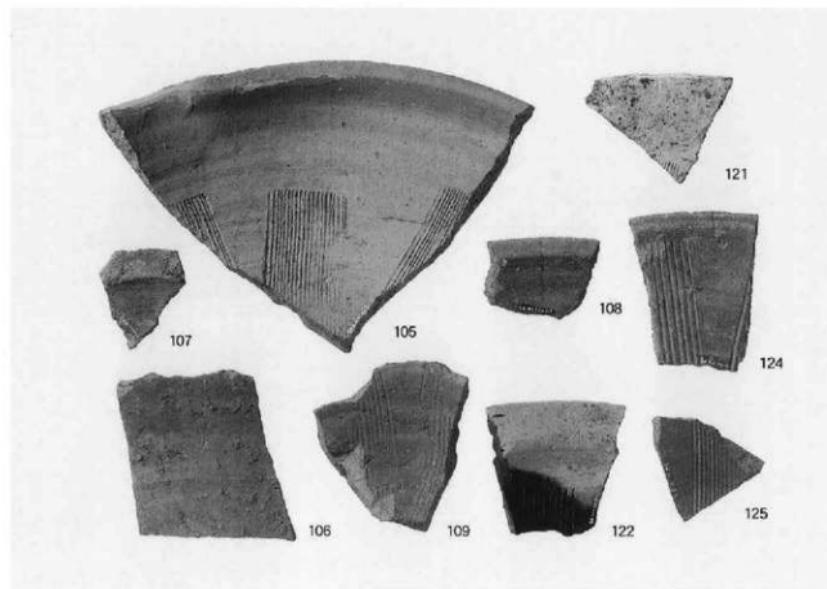
珠洲（珠）外面



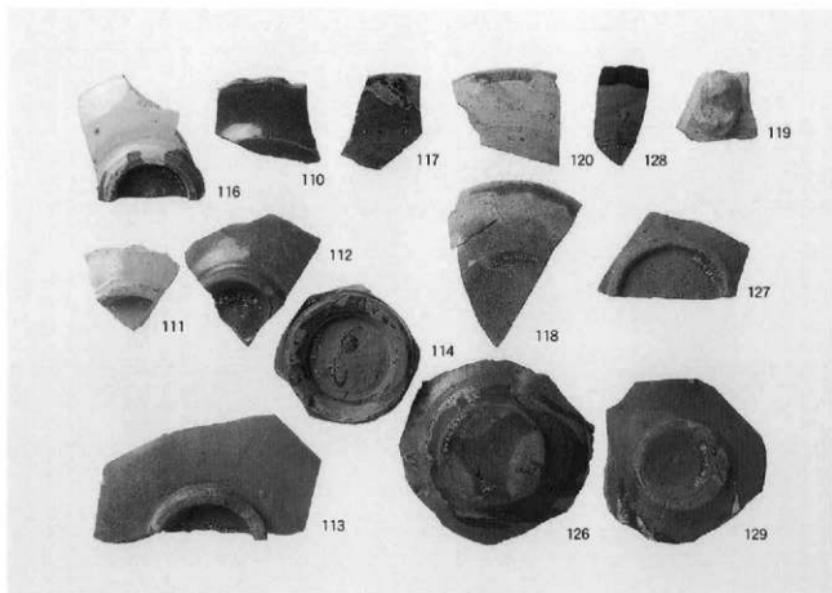
珠洲（珠）里面



珠洲・陶器（甌・擂鉢）



珠洲・陶器（擂鉢）



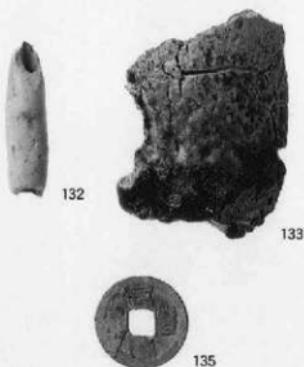
陶磁器（椀・皿類）



須恵器（杯身）



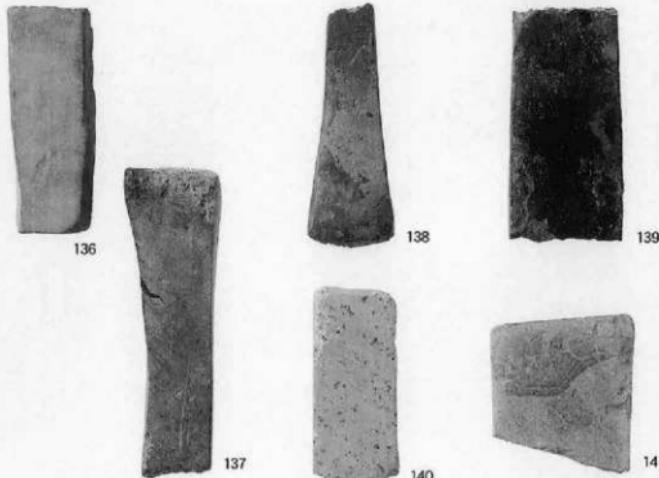
青磁（花瓶）



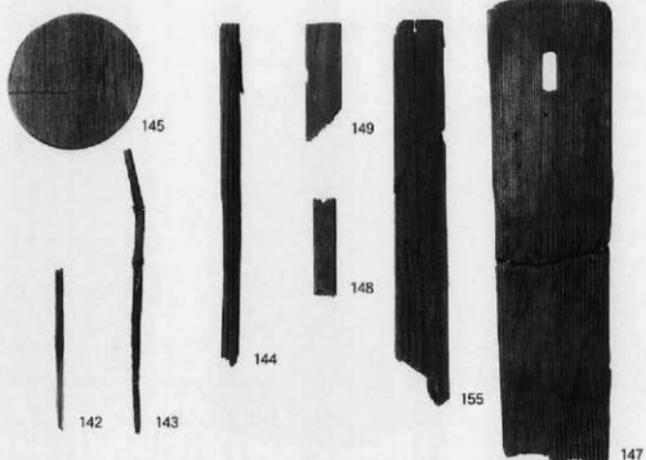
土製品・錢貨



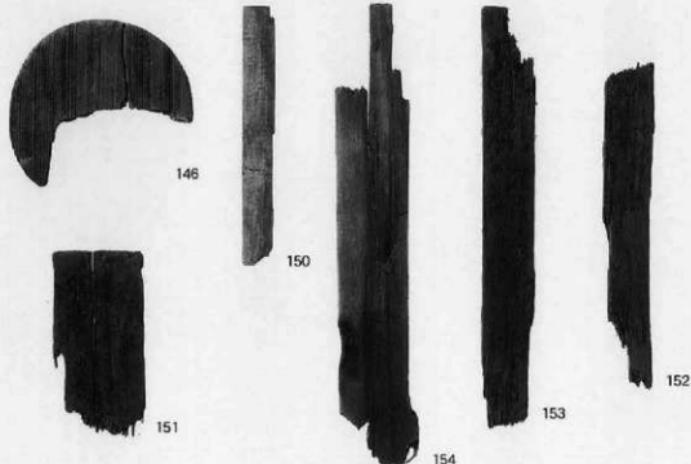
石製品（石臼）



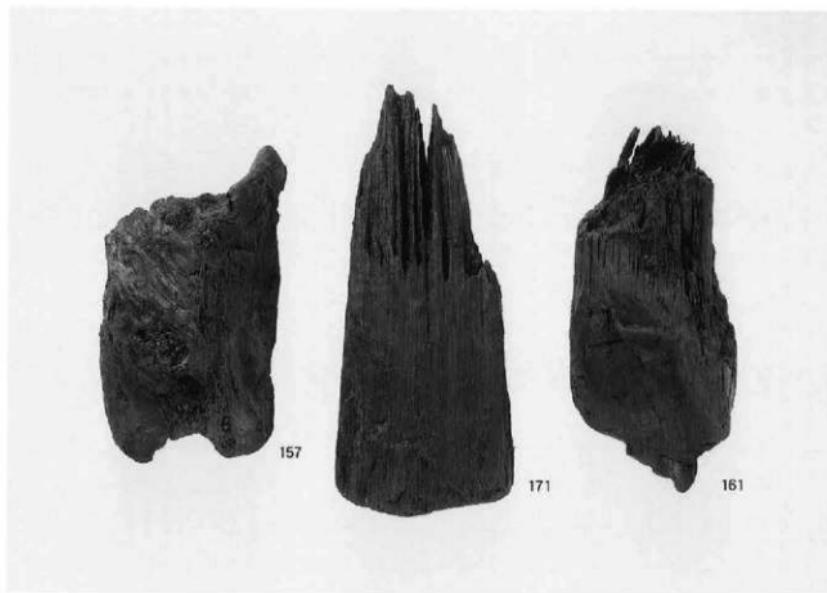
石製品（砥石）



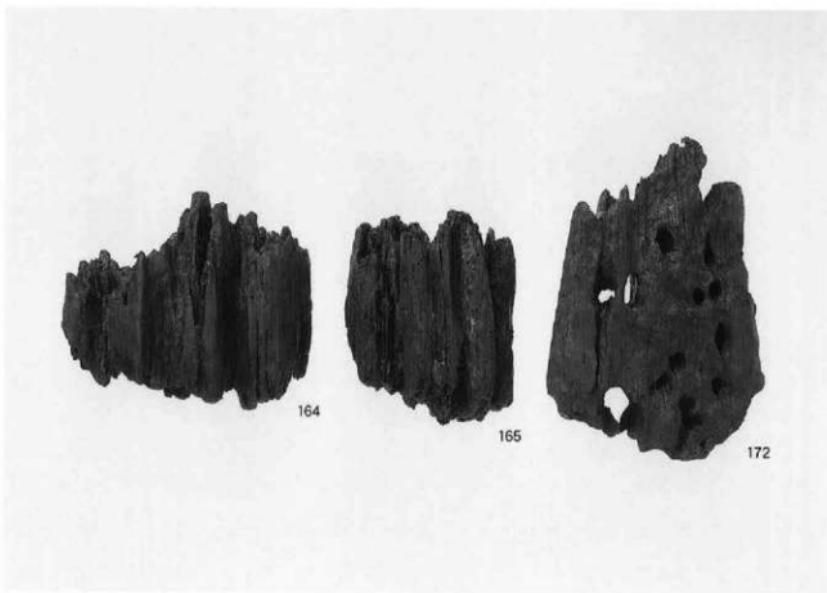
木製品 1



木製品 2



柱根 1



柱根 2



166



159

柱根 3



170



173

柱根 4



176



177

柱根 5



175



178

柱根 6



158



174

柱根 7



162



168

柱根 8



167



169

柱根 9



163



156

柱根・杭



163



178



177



161

柱根整形痕

## 報告書抄録

ふりがな	よしいみずかみいせきぐん							
書名	吉井水上遺跡群							
副書名	新潟県柏崎市吉井水上遺跡群発掘調査報告書							
シリーズ名	柏崎市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第45集							
編著者名	中野純・吉村晶・瀬戸かな子							
編集機関	柏崎市教育委員会 文化振興課 柏崎市遺跡考古館・株式会社イビソク							
発行者	柏崎市教育委員会							
所在地	〒945-8511 新潟県柏崎市中央町5-50 Tel.0257-23-5111 内線365							
発行年月日	西暦2005年3月11日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東經	調査期間	調査面積	調査原因	
よしいみずかみいせき 吉井水上遺跡I	にいがたけん 新潟県 かわさきし 柏崎市 よしい 吉井	15205	344	37度 23分 31秒	138度 38分 5秒	20030724 20031101	1,384m <sup>2</sup>	県道拡幅工事
よしいみずかみいせき 吉井水上遺跡II		15205	258	37度 23分 35秒	138度 38分 7秒			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
吉井水上遺跡I 吉井水上遺跡II	集落跡	古代 中世 近世	土坑・柱穴 井戸・溝	須恵器・土師器 珠洲・陶磁器 砥石・木製品				

柏崎市埋蔵文化財調査報告書第45集

## 吉井水上遺跡群

—新潟県柏崎市・吉井水上遺跡群発掘調査報告書—

平成17年3月7日 印刷

平成17年3月11日 発行

発行 柏崎市教育委員会

〒945-8511 新潟県柏崎市中央町5-50

印刷 株式会社 イビソク

